

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	広島大学
設置者名	国立大学法人 広島大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
総合科学部	総合科学科 総合科学プログラム	夜・通信	6		34	137	13	
	国際共創学科 国際共創プログラム	夜・通信			24	127	13	
文学部	人文学科 哲学・思想文化学プログラム	夜・通信	97	2	0	99	13	
	人文学科 歴史学プログラム	夜・通信			0	99	13	
	人文学科 地理学・考古学・文化財学プログラム	夜・通信			31	130	13	
	人文学科 日本・中国文学語学プログラム	夜・通信			0	99	13	
	人文学科 欧米文学語学・言語学プログラム	夜・通信			0	99	13	
	人文学科 Humanities in English Program	夜・通信			0	97	13	
教育学部	第一類（学校教育系） 初等教育教員養成コース 初等教育教員養成プログラム	夜・通信	0		93	190	13	
	第一類（学校教育系） 特別支援教育教員養成コース 特別支援教育教員養成プログラム	夜・通信			51	148	13	
	第二類（科学文化教育系） 自然系コース 中等教育科学（理科）プログラム	夜・通信			33	130	13	

第二類 (科学文化教育系) 自然系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
第二類 (科学文化教育系) 数理系コース 中等教育科学(数学)プロ グラム	夜・ 通信			23	120	13	
第二類 (科学文化教育系) 数理系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
第二類 (科学文化教育系) 技術・情報系コース 中等教育科学(技術・情報) プログラム	夜・ 通信			53	150	13	
第二類 (科学文化教育系) 技術・情報系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
第二類 (科学文化教育系) 社会系コース 中等教育科学(社会・地理歴 史・公民)プログラム	夜・ 通信			39	136	13	
第二類 (科学文化教育系) 社会系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
第三類 (言語文化教育系) 国語文化系コース 中等教育科学(国語)プロ グラム	夜・ 通信			33	130	13	
第三類 (言語文化教育系) 国語文化系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
第三類 (言語文化教育系) 英語文化系コース 中等教育科学(英語)プロ グラム	夜・ 通信			33	130	13	
第三類 (言語文化教育系) 英語文化系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
第三類 (言語文化教育系) 日本語教育系コース 日本語教育プログラム	夜・ 通信			29	126	13	
第三類 (言語文化教育系) 日本語教育系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
第四類 (生涯活動教育系) 健康スポーツ系コース 健康スポーツ教育プログラ ム	夜・ 通信			25	122	13	

	第四類 (生涯活動教育系) 健康スポーツ系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
	第四類 (生涯活動教育系) 人間生活系コース 人間生活教育プログラム	夜・ 通信			43	140	13	
	第四類 (生涯活動教育系) 人間生活系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
	第四類 (生涯活動教育系) 音楽文化系コース 音楽文化教育プログラム	夜・ 通信			93	190	13	
	第四類 (生涯活動教育系) 音楽文化系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
	第四類 (生涯活動教育系) 造形芸術系コース 造形芸術教育プログラム	夜・ 通信			70	167	13	
	第四類 (生涯活動教育系) 造形芸術系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
	第五類 (人間形成基礎系) 教育学系コース 教育学プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
	第五類 (人間形成基礎系) 教育学系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
	第五類 (人間形成基礎系) 心理学系コース 心理学プログラム	夜・ 通信			45	142	13	
	第五類 (人間形成基礎系) 心理学系コース 異文化コミュニケーション プログラム	夜・ 通信			23	120	13	
法学部	法学科昼間コース 公共政策プログラム	夜・ 通信	39		0	136	13	
	法学科昼間コース ビジネス法務プログラム	夜・ 通信			0	136	13	
	法学科昼間コース 法曹養成プログラム	夜・ 通信			0	136	13	
	法学科昼間コース Law and Politics Program	夜・ 通信			0	136	13	
	法学科夜間主コース 法政総合プログラム	夜・ 通信			14	150	13	
経済学部	経済学科昼間コース 現代経済プログラム	夜・ 通信	0		24	121	13	
	経済学科夜間主コース 経済・経営統合プログラム	夜・ 通信			12	109	13	

理学部	数学科 数学プログラム	夜・通信	0	2	99	13	
	物理学科 物理学プログラム	夜・通信		10	107	13	
	化学科 化学プログラム	夜・通信		2	99	13	
	生物科学科 生物学プログラム	夜・通信		14	111	13	
	地球惑星システム学科 地球惑星システム学プログラム	夜・通信		4	101	13	
医学部	医学科 医学プログラム	夜・通信	0	186	283	19	
	保健学科看護学専攻 看護学プログラム	夜・通信		90	187	13	
	保健学科理学療法学専攻 理学療法学プログラム	夜・通信		66	163	13	
	保健学科作業療法学専攻 作業療法学プログラム	夜・通信		57	154	13	
歯学部	歯学科 歯学プログラム	夜・通信	0	169	266	19	
	口腔健康科学科口腔保健学専攻 口腔保健学プログラム	夜・通信		73	170	13	
	口腔健康科学科口腔工学専攻 口腔工学プログラム	夜・通信		47	144	13	
薬学部	薬学科 薬学プログラム	夜・通信	26	39	162	19	
	薬科学科 薬科学プログラム	夜・通信		0	123	13	
工学部	第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系) 機械システムプログラム	夜・通信	0	12	109	13	
	第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系) 輸送システムプログラム	夜・通信		10	107	13	
	第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系) 材料加工プログラム	夜・通信		12	109	13	
	第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系) エネルギー変換プログラム	夜・通信		12	109	13	
	第二類(電気電子・システム情報系) 電気システム情報プログラム	夜・通信		5	102	13	
	第二類(電気電子・システム情報系) 電子システムプログラム	夜・通信		11	108	13	

	第三類（応用化学・生物工学・化学工学系） 応用化学プログラム	夜・通信		18	115	13	
	第三類（応用化学・生物工学・化学工学系） 生物工学プログラム	夜・通信		18	115	13	
	第三類（応用化学・生物工学・化学工学系） 化学工学プログラム	夜・通信		21	118	13	
	第四類（建設・環境系） 社会基盤環境工学プログラム	夜・通信		11	108	13	
	第四類（建設・環境系） 建築プログラム	夜・通信		40	137	13	
	第一類（機械システム工学系） 機械システム工学系プログラム（平成30年度から学生募集停止）	夜・通信	0	0	97	13	
生物生産学部	生物生産学科 水圏統合科学プログラム	夜・通信	22	8	127	13	
	生物生産学科 応用動植物科学プログラム	夜・通信		4	123	13	
	生物生産学科 食品科学プログラム	夜・通信		11	130	13	
	生物生産学科 分子農学生命科学プログラム	夜・通信		3	122	13	
	生物生産学科 Applied Biological Science Program	夜・通信		1	120	13	
情報科学部	情報科学科 計算機科学プログラム	夜・通信	27	0	124	13	
	情報科学科 データ科学プログラム	夜・通信		0	124	13	
	情報科学科 知能科学プログラム	夜・通信		0	124	13	
(備考)							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	広島大学
設置者名	国立大学法人 広島大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/about/officer/president
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	企業顧問	令和6年4月1日～令和7年3月31日	非常勤の理事は、学長が特に命ずる事項について、学長を補佐し、その業務を掌理する。
非常勤	企業監査役	令和6年4月1日～令和7年3月31日	非常勤の理事は、学長が特に命ずる事項について、学長を補佐し、その業務を掌理する。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	広島大学
設置者名	国立大学法人 広島大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年度の授業科目について、日本語版・英語版2種類の授業計画(シラバス)を作成し、ホームページ上で公開している。</p> <p>シラバスは、翌年度の時間割完成後の毎年1月末頃から学生情報システム「もみじ」に授業担当教員が直接入力し、4月1日から学生による閲覧を可能としている。</p> <p>シラバスの作成にあたっては、次の項目を必須項目としており、本学の学生が授業科目を選択する際の重要な情報となっている。</p> <p>【必須項目】</p> <p>「授業の方法」「使用言語」「学修の段階」「学問分野(分野)」「学問分野(分科)」「授業の目標・概要等」「授業計画」「教科書・参考書等」「予習・復習へのアドバイス」「成績評価の基準等」</p> <p>また、実務経験のある教員による授業科目については、どのような実務経験のある教員がどのような教育を行うかをシラバスに記載している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>インターネット</p> <p>https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/syllabusHtml/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の方法については、定期試験、小テスト、レポート、授業中の活動、学習記録等の多様な要素の中から、授業の方法や目的に応じた評価方法を選択し、できる限り複数の要素を用いて行うものと定めている。なお、授業への出席回数については、学生が全授業に出席することは前提であるため、期末試験等の受験要件としてのみ用いることとし、成績評価の要素としないこととしている。また、授業科目毎に作成するシラバスでは「成績評価の基準等」を必須項目としており、学生には事前に明示し、実施している。</p> <p>授業科目毎の評価基準に基づき、「秀、優、良、可及び不可」の5段階評価または0～100点の点数評価としており、このうち「秀、優、良、可」または60点以上のものについて単位を付与している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、到達目標型教育プログラム「HiPROSPECTS (R)」を実施しており、その中で全学的に算出方法を統一した本学共通の平均評価点 (GPA: Grade Point Average) を学生に通知している。GPA は毎学期算出し、履修指導に活用する他、奨学金、授業料免除、成績優秀者及び学生表彰等の選定基準としても用いている。</p> <p>なお、GPA の算出公式については、以下のとおり。</p> $\text{GPA} = \frac{\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1}{\text{総登録単位数} \times 4} \times 100$	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学の理念5原則に基づき、全学の卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を定めるとともに、各学部においても学部別のディプロマ・ポリシーを別途定め、ホームページ上で公表している。各学部では、ディプロマ・ポリシーに則り予め定めた卒業要件単位を修得した学生に対して、卒業を認定している。</p> <p>また、毎年度「学士課程教育における自己点検とその改善に関する年次報告書」を各学部で作成し、自己点検・評価を行うとともに改善計画を立案している。それに対して、全学的に教育本部教育質保証委員会が検証を行い、各学部にはフィードバックしている。各学部では、教育本部教育質保証委員会からの指摘を踏まえ、改善計画を実践し、学士課程教育の実質化を図っている。</p> <p>以下に、全学版ディプロマ・ポリシーを記載する。</p> <p>*****</p> <p>本学の理念5原則に基づき、学士課程において、次の方針に従って当該学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学部の教育理念により設定された教育プログラムを履修し、基準となる単位を修得すると共に規定の到達目標に達し、かつ当該学部が定める審査に合格した学生に学位を授与します。 2. 全ての教育プログラムにおいては、幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養教育と、各学部の特性に応じた到達目標を達成するよう編成された専門教育を履修していることが、主な基準となります。 <p>*****</p> <p>なお、学部別のディプロマ・ポリシーは、 様式第2号の4-① 【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】 (3) ① に記載する。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	広島大学
設置者名	国立大学法人 広島大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/public_info/other_public_info/financial_affairs/financial_info
収支計算書又は損益計算書	インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/public_info/other_public_info/financial_affairs/financial_info
財産目録	—
事業報告書	インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/public_info/other_public_info/financial_affairs/financial_info
監事による監査報告(書)	インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/public_info/public_info/evaluation

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和6年度国立大学法人広島大学年度計画 対象年度:令和6年度)
公表方法:インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/business_info/fourth_term
中長期計画 (名称:国立大学法人広島大学第4期中期計画 対象年度:令和4年度~令和9年度)
公表方法:インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/business_info/fourth_term

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/HU_self_evaluation

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/HU_self_evaluation/accreditation

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 総合科学部
教育研究上の目的 (公表方法: インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien)
(概要) 本学部は、学際性、総合性及び創造性を基本理念とし、高度教養教育をむねとする専門教育を行い、総合的知見と思考力を持つ、自主的・自立的な人材を養成する。
<u>総合科学科</u> 複数の学問分野にまたがる学際的な領域に関する関心を基盤に、3つの教育領域(人間探究領域、自然探究領域、社会探究領域)での学修を通じて、現代社会の諸問題への対応をリードし、深い思考と独創的な想像力を基盤として、新しい学問分野の創造を目指すことができる人材を養成する。また、学際的な学修によって、専門分野にとらわれることなく、常に活発な学問的関心を抱き、総合的な視点から新しい状況や環境に対応し、グローバルな視点から異文化・異領域への共感と理解を深めると同時に、自己の見解を説得的に主張することにより、地域社会や国際社会で活躍できる人材を養成する。
<u>国際共創学科</u> コミュニケーションのための語学力の育成とリベラルアーツ教育に立脚した専門教育を行うことで、国家や民族、文化や宗教の違いを超えて、地球的な視座から物事を捉え、課題の発見やその背景の解明、課題克服に必要な専門的知識と思考力に立脚し、学際的知識と幅広い洞察力を合わせ持つ、自主的・自立的な人材を養成する。さらに、立場の違う他者と協調的に関わることや問題解決に向けて協働的に関わることを通じて、国際共創を実践できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/01)
(概要) <u>総合科学科・総合科学プログラム</u> 総合科学プログラムでは、学際性、総合性、創造性を基本理念とし、高度教養教育を旨とする専門教育を行い、総合的知見と思考力を持つ、自主的・自律的な人材を養成します。本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める単位数を修得した学生に「学士(総合科学)」の学位を授与します。 1. 複数の学問分野にまたがる学際的な領域に対する関心を基盤に、3つの教育領域(人間探究領域、自然探究領域、社会探究領域)での学修を通して、現代社会の諸問題への対応をリードすることができる。 2. 深い思考と独創的な視点、豊かな想像力を基盤に、3つの教育領域の枠組みを超えた、新しい学問分野の創造を目指すことができる。 3. 学際的な学修によって、専門分野にとらわれることなく、常に活発な学問的関心を抱き、総合的な視点から新しい状況や環境に対応できる。 4. グローバルな視点から、異文化・異領域への共感と理解を深めると同時に、自己の見解を説得的に主張することにより、地域社会や国際社会で活躍できる。
<u>国際共創学科・国際共創プログラム</u> 国際共創プログラムでは、「学際的思考力」、「地球的展望」、「協調的行動力」を基本理念とし、コミュニケーションのための語学力の育成と、リベラルアーツ教育に立脚した専門教育を行うことで、国家や民族、文化や宗教の違いを超えて、地球的な視座から物事

を捉え、課題の発見やその背景の解明、課題克服に必要な専門的知識と思考力に立脚しつつも、学際的知識と幅広い洞察力を合わせ持つ、自主的・自律的な人材を養成します。そのことにより、立場の違う他者と協調的に関わることも可能であり、かつ、問題解決に向けて協働的に関われることができ、国際共創を実践できる能力を養成します。

本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める単位数を修得した学生に「学士（総合科学）」の学位を授与します。

1. 学際的思考力：国際社会の抱える課題を文理の多角的な視点から理解・分析することができる。
2. 地球的展望：国や地域、文化や宗教、言語等の違いを超えて他者を理解し、人間社会とそれを取り巻く自然を包含した地球的視点でものごとを考察できる。
3. 協調的行動力：国際社会の抱える課題に対して、平和を希求する心を持って対応し、国際平和・人と自然の調和のために協調的・創造的に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/01>)

（概要）

総合科学科・総合科学プログラム

総合科学プログラムが掲げるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の教育課程を編成し、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

1. 教養教育では、平和を希求し、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指すことに加え、「広く学問への関心を高め、ものごとを学際的・総合的にとらえられる能力の素地を培う」場であると位置づけ、実用的外国語運用能力、国際的視野や異文化理解能力、情報活用能力やコミュニケーション能力を養成します。
2. 教養教育と並行して、1年次前期の専門必修科目「総合科学へのいざない」では、複雑な現代社会の諸問題への総合科学的アプローチについて、細分化する学問の歴史と現状、総合科学への期待と課題、総合科学部の歩みに関する講義と学生間での討論などから理解を深めます。続く、1年次後期の専門必修科目「総合科学概論」では、3つの教育領域（人間探究領域、自然探究領域、社会探究領域）と各教育領域内の4つの授業科目群の概要の理解に加え、PBL（問題発見解決型学習）やグループ発表会でのプレゼンテーションを通して、総合科学の実践についての理解を深めます。
3. 2年次には、3つの教育領域の中から学生自身の希望に応じて、1つの教育領域およびその教育領域内の4つの授業科目群から主たる授業科目群を選択して学修を進め、専門性を深めるとともに、自由度の高い履修制度を利用して他教育領域の授業科目を履修することで、学際的・総合的な知識や方法論、視座の修得を目指します。また、総合科学科と国際共創学科の学生が共通で履修できる「総合科学部共通科目」では、様々な学問分野の基礎的な知識や方法論を学ぶことを目的とし、人間科学・社会科学・自然科学の3つの分野で開講される科目を履修することで、バランスのとれた知識を修得します。
4. 高学年次には、教育領域内の授業科目群とは別に、「学際科目」として、教育領域横断型の学際的研究を紹介する講義、新たな学際的テーマの構築を目指す演習、学際的方法を学ぶ実験・演習などを履修し、学際的研究の実現可能性への理解を育みつつ科学リテラシーや研究倫理の知識を深め、具体的に総合科学へのチャレンジを促します。加えて、「専門外国語科目」として、グローバルな視野から、研究発表や国際交流の場で求められる実践的外国語運用能力をさらに高める演習科目の履修を可能とし、総合科学の手法の理解を深めます。
5. 4年次には、学生が所属する教育領域の主旨指導教員と2名の副指導教員の指導の下、学士課程における学修の集大成として、学生が主体となり独創的な視点から研究テーマを設定して、特別研究論文（卒業論文）を作成します。
6. 学修の成果は、各科目の成績評価と共に総合科学プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

国際共創学科・国際共創プログラム

国際共創プログラムが掲げるディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の教育課程を編成し、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

1. 国際共創プログラムでは、「学際的思考力」涵養のために、リベラルアーツ教育に立脚しながら、人間科学、社会科学、自然科学の分野を超えて、文理融合・学際的な専門教育を実施します。2年次から総合科学部共通科目を履修し、その後、国際共創科目を履修します。これらの科目は原則として1科目が8週で完結する1単位科目として実施します。多くの学問分野に触れることで、学生は幅広い知識を獲得することができます。これにより「地球的展望」の視座から事象をとらえる能力と「学際的思考力」を育成します。その際、総合科学科や他学部の授業を受け、専門性を深化させることや、他の分野についてより学際的に学修することも可能です。4年次の特別研究の作成は、十分な専門性と「学際的思考力」を具体化する実践的な教育課題とします。
2. 1年次は、語学を含む教養教育科目を履修します。また、教養教育と並行して、1年次前期に開講する専門必修科目「国際共創へのいざないⅠ」および1年次後期に開講する「国際共創へのいざないⅡ」で、「3つの視点」、すなわち「文化と観光」、「平和とコミュニケーション」、「環境と社会」について学びます。これらの科目における講義や学生間の討論などを通じて、国際社会の抱える諸問題に対する学際的アプローチについて理解を深めます。
3. 2年次は、総合科学部共通科目を履修し、国際社会の諸問題を考える上で基礎となる様々な分野の基礎的な知識や方法論を学ぶとともに、国際共創コア科目を履修し、国際共創学を学ぶ上で基礎となるリテラシーを育成します。さらに、これらを基盤として、3つの視点で開設される国際共創科目をバランスよく履修することで、国際共創に役立つ知識・技能・思考力等を学問分野の枠を超えて幅広く学びます。また、日本語母語学生は、半年程度の留学を行い、留学先で修得した単位を自由選択科目の単位として認定します。
4. 3年次は、引き続き専門性を高める国際共創科目を履修するとともに、多文化、多国籍、異なる専門分野の学生とのグループワークを体験する問題解決演習、グローバルインターンシップ科目を履修します。ここでは、専門性を高めるために、日本語で開講される総合科学科や他学部開講科目も自由選択科目として履修することができます。他言語母語学生にとって、総合科学科で開講されている日本語による専門科目を履修することは、高度な日本語修得に有効です。
5. 4年次は、主指導教員と2名の副指導教員の指導の下、学士課程における学修の集大成として、学生が主体となり、複数分野の視点や方法を総合的に活用し、特別研究論文（卒業論文）を作成します。日本語母語学生は英語で、他言語母語学生は日本語又は英語で執筆します。
6. 学修の成果は、各科目の成績評価と共に国際共創プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/01>）

(概要)

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

総合科学部では、豊かな教養を備えると同時に、幅広い知識を統合して問題解決を図ることができ、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指しており、次のような人の入学を期待します。

- (1) 知的好奇心に富み、文理融合をはじめとする新たな学問的創造を求めることのできる人
- (2) 意見や文化的背景等の異なる人とも協働し、問題の解決に向かって努力できる人

2 入学者選抜の基本方針

総合科学科及び国際共創学科が編成している主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位（学科）のアドミッション・ポリシー

総合科学部 総合科学科

1 求める学生像

本学科が編成している総合科学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 基礎的学力を幅広く身につけ、既存の学問分野の枠を超えて、より広い視野で世界をみようと考えている人
- (2) 知的好奇心に富み、自ら問題を発見し、その問題の背景を理解し、問題解決の道を洞察しようとする意欲を持つ人
- (3) 他者を理解し自己を表現できる能力を身につけ、卒業後、地域、社会、国の境界を超えて活躍できる人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報の基礎知識を身につけておくこと
- ・文系・理系の枠組みを超えた幅広い学問領域や現代社会の諸問題に対して興味を持ち自ら学習しておくこと
- ・異文化理解や国際社会を舞台とした活動に関心を寄せ、学習しておくこと

また、入学後には以下の能力を身につけることができる学生を求めています。

- ・既存の学問体系を尊重しながら、複数の学問領域で創出された知識や研究法を学び、それぞれの領域が現代の諸問題とどのように関連しているかを理解できる
- ・多岐にわたる知識や情報の収集整理と分析統合を通して、それらが持つ新たな意味や価値を見出すことができる
- ・多角的な視野からの知識に基づき、さまざまな課題を総合的に解決し、自己の責任において判断して行動できる
- ・日本語と外国語の表現力・理解力及び豊かな感性を涵養し、異文化・異領域の人びととコミュニケーションできる

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 I型、フェニックス型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査等	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査等	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 面接
広島大学光り輝き入試	総合型選抜 I 型 (一般型)	○ 小論文、調査書、自己推薦書、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 小論文、調査書、面接、自己推薦書	○ 調査書、面接、自己推薦書
	総合型選抜 I 型 (サイエンス研究評価型)	○ 調査書、自己推薦書、研究活動、プレゼンテーション (研究発表) ・ 質疑応答	○ 調査書、自己推薦書、研究活動、プレゼンテーション (研究発表) ・ 質疑応答	○ 調査書、自己推薦書、研究活動、プレゼンテーション (研究発表) ・ 質疑応答
	総合型選抜 フェニックス型	○ 小論文	○ 小論文、面接	○ 面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査等	○ 個別学力検査等	
	総合型選抜 外国人留学生型 3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 面接	○ 面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜 I 型 (一般型) について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

総合科学部 国際共創学科

1 求める学生像

本学科が編成している国際共創プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 異なる国や文化、宗教を尊重し、学問分野の枠を超えて課題を理解し、世界平和に貢献したいと考えている人
- (2) 自然科学に関心があり、人と環境の調和を希求する人
- (3) 母語以外の言語の習得に意欲的であり、卒業後、国際社会で活躍できる人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・ 高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報の基礎知識を身につけておくこと
- ・ 文系・理系の枠組みを超えた幅広い学問領域や現代社会の諸問題に対して興味を持ち自ら学習しておくこと
- ・ 国際社会、地球環境問題、文化間理解といった内容に関心を寄せ、学習しておくこと

また、入学後には以下の能力を身につけることができる学生を求めています。

- ・国際社会の抱える諸課題を文系・理系の枠を超えて多角的な視点から理解・分析することができる（学際的思考力 integrated thinking）
- ・国や地域、文化や宗教、言語の違いを超えて他者を理解し、人間社会とそれを取り巻く自然を包含した地球的視点でものごとを考察できる（地球的展開 global vision）
- ・国際社会の抱える諸課題に対して、平和を希求する心を持って対応し、国際平和や人と自然の調和のために協調的・創造的に取り組むことができる（協調的行動力 cooperative action）

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 IGS国内選抜型、IGS国外選抜型、外国人留学生型 7月実施（IGS国外選抜型）、2月実施（IGS国内選抜型）

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
広島大学 光り輝き入試	総合型選抜 IGS国内選抜型	○ 学業成績・各種試験結果証明書、自己推薦書、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 面接、自己推薦書	○ 面接、自己推薦書
	総合型選抜 IGS国外選抜型	○ 学業成績・各種試験結果証明書、自己推薦書、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 面接、自己推薦書	○ 面接、自己推薦書
	総合型選抜 外国人留学生型 7月実施 (IGS国外選抜型)	○ 学業成績・各種試験結果証明書、自己推薦書、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 面接、自己推薦書	○ 面接、自己推薦書
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施 (IGS国内選抜型)	○ 学業成績・各種試験結果証明書、自己推薦書、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 面接、自己推薦書	○ 面接、自己推薦書

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット） https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien
（概要） 本学部は、人文科学の分野における幅広い基礎学力と専門知識を有し、鋭い感性と客観的視点に基づいて現代社会を的確に見据え、その発展に貢献できる人間性豊かな個性の人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット） https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/02
（概要） 文学部は、「主として人文科学の分野における幅広い基礎学力と専門知識を有し、鋭い感性と客観的視点に基づいて現代社会を的確に見据え、その発展に貢献できる人間性豊かな個性の人材を養成すること」を教育の根本理念として掲げています。そして、この理念を具体化するために、「伝統的研究の成果と方法論を継承し、専門領域における基礎的研究を深化すること、新たな研究領域や学際的領域に常に注目し、幅広い研究を積極的に推進すること、現代社会に対する鋭い問題意識を常に持って、研究を活性化すること、外国語の運用能力を高めるとともに、専門領域の必要に即した情報処理能力を身につけること、絶え間ない自己改革を行う謙虚さ・柔軟性を養うこと、人類の歴史を学び、国際平和の精神を重視する姿勢を培うこと」という教育目標を定めています。
<u>人文学科・哲学・思想文化学プログラム</u> 本プログラムでは、文学部の掲げる教育理念と教育目標に基づき、以下の到達目標を掲げています。 (1) 哲学・思想文化学に対する幅広い基礎学力と専門知識を修得する。 (2) 各専門分野（西洋哲学、インド哲学・仏教学、倫理学、中国思想文化学）に関する伝統的研究の成果と方法論を修得する。 (3) 各専門分野における基礎的研究を深化させるとともに、その今日的意義と課題の発見を通じて、新たな研究領域や学際領域を積極的に開拓する素養を身につける。 この目標に到達するために編成された本プログラムの教育課程を終えて、学士（文学）を授与されるためには、学生には以下のことが求められます。 (1) 学生は、所定の期間在学し、プログラムが設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得しなければならない。 (2) 学生は、原典・資史料の収集、分析、批判的考察を通じて、人間文化に対する深い洞察力を培い、自ら卒業論文を作成して、提出しなければならない。
<u>人文学科・歴史学プログラム</u> 本プログラムでは、文学部の掲げる教育理念と教育目標に基づき、以下の到達目標を掲げています。 (1) 日本史学、東洋史学、西洋史学、そしてこれらに隣接する学問に対する幅広い基礎的学力と専門知識を修得する。 (2) 日本史学、東洋史学、西洋史学、それぞれの専門分野における研究成果や伝統的な方法論を継承しつつ、自らの問題意識と史料の解釈に基づいた新たな論理を構築する能力を修得する。 (3) 各専門領域における基礎的研究を深化させるとともに、国際的な視野やものの考え方、資料・情報の収集・分析能力、論理的な思考力、創造力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を修得する。 この目標に到達するために編成された本プログラムの教育課程を終えて、学士（文学）を授与されるためには、学生には以下のことが求められます。

- (1) 学生は、所定の期間在学し、プログラムが設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得しなければならない。
- (2) 学生は、原典・資史料の収集、分析、批判的考察を通じて、人間文化に対する深い洞察力を培い、自ら卒業論文を作成して、提出しなければならない。

人文学科・地理学・考古学・文化財学プログラム

本プログラムでは、文学部の掲げる教育理念と教育目標に基づき、以下の到達目標を掲げています。

- (1) 地理学、考古学、文化財学について幅広い知識を修得し、基礎的理解を養う。
- (2) 地理学、考古学、文化財学のいずれか一つの専門分野を中心に方法論を修得し、専門領域における基礎的研究能力を養う。
- (3) 新たな研究領域や学際領域を積極的に開拓するために、幅広い基礎学力と専門知識を修得する。

この目標に到達するために編成された本プログラムの教育課程を終えて、学士（文学）を授与されるためには、学生には以下のことが求められます。

- (1) 学生は、所定の期間在学し、プログラムが設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得しなければならない。
- (2) 学生は、原典・資史料の収集、分析、批判的考察を通じて、人間、文化、歴史、環境について深い洞察力を培い、自ら卒業論文を作成して、提出しなければならない。

人文学科・日本・中国文学語学プログラム

本プログラムでは、文学部の掲げる教育理念と教育目標に基づき、以下の到達目標を掲げています。

- (1) 日本・中国の文学語学に対する幅広い基礎学力と専門知識を修得する。
- (2) 日本文学語学、中国文学語学、それぞれの専門分野に関する伝統的研究の成果と方法論を修得する。
- (3) 各専門領域における基礎的研究を深化させるとともに、現代社会に対する鋭い問題意識を持って、新たな研究領域や学際領域も積極的に開拓する素養を身につける。

この目標に到達するために編成された本プログラムの教育課程を終えて、学士（文学）を授与されるためには、学生には以下のことが求められます。

- (1) 学生は、所定の期間在学し、プログラムが設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得しなければならない。
- (2) 学生は、原典・資史料の収集、分析、批判的考察を通じて、人間文化に対する深い洞察力を培い、自ら卒業論文を作成して、提出しなければならない。

人文学科・欧米文学語学・言語学プログラム

本プログラムでは、文学部の掲げる教育理念と教育目標に基づき、以下の到達目標を掲げています。

- (1) アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスの文学・語学・思想・芸術・文化、あるいは世界の諸言語に関する幅広い基礎学力と専門知識を修得する。
- (2) アメリカ・イギリス文学・英語学、ドイツ文学・ドイツ語学、フランス文学・フランス語学、言語学、それぞれの専門分野における先行研究に関する知識と方法論を修得する。
- (3) 各専門領域における基礎研究を深化させるとともに、現代社会にふさわしい新たな研究方法や理論を積極的に開拓しつつ、独創的な文学研究、諸言語に関する研究、文化研究を開拓する素養を身につける。
- (4) 幅広い視野に立って研究を深めていくだけでなく、口頭発表や論文を作成することで、自己表現力を身につける。

この目標に到達するために編成された本プログラムの教育課程を終えて、学士（文学）を授与されるためには、学生には以下のことが求められます。

- (1) 学生は、所定の期間在学し、プログラムが設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得しなければならない。
- (2) 学生は、原典・資史料の収集、分析、批判的考察を通じて、人間文化に対する深い洞察力を培い、自ら卒業論文を作成して、提出しなければならない。

人文学科・Humanities in English Program

本プログラムでは、文学部の掲げる教育理念と教育目標に基づき、以下の到達目標を掲げています。

- (1) 英語の高度な運用能力を有し、それをいっそう高めること。
- (2) 教養教育課程において、文系・理系を問わず幅広い教養を身に付けること。
- (3) 専門教育課程において、文学部の他5プログラムにまたがる幅広い基礎学力と方法論を修得すること。
- (4) 特に一つの専門分野における専門知識と先行研究に関する知識を修得すること。
- (5) 専門分野について、独創的な発想に基づき研究を深化させるとともに、現代社会にふさわしい新たな研究領域や学際領域を開拓する素養を身につけること。

この目標に到達するために編成された本プログラムの教育課程を終えて、学士（文学）を授与されるためには、学生には以下のことが求められます。

- (1) 学生は、所定の期間在学し、プログラムが設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得しなければならない。
- (2) 学生は、原典・資史料の収集、分析、批判的考察を通じて、人文学に関する深い見識を培い、自ら卒業論文を英語で作成し、提出しなければならない。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/02>

（概要）

文学部では、入学後に学位取得を目的とした主専攻を決定します。それぞれのプログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。各教育プログラムで編成する教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

人文学科・哲学・思想文化学プログラム

本プログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。

- (1) 学生は、専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえる広い視野を修得するために、所定の教養教育科目を履修する。
- (2) 学生は、2年次に教育プログラム・専門分野に配属され、哲学・思想文化学の歴史及び各専門分野に関する基礎的知識と理解を修得するために、専門科目としての専門概説、専門演習を履修する。
- (3) 学生は、3年次に原典読解力、資料調査能力、研究方法、論理的分析力、加えて各言語の理解力・表現力、及び日本語表現力、論文作成能力・プレゼンテーション能力を修得するために、少人数による参加型の専門演習科目（基礎演習・発展演習など）を履修する。
- (4) 学生は、4年次に教員の指導の下に、独創的・複眼的な考察力と表現力を磨いて、自ら卒業論文のテーマを設定し、学士課程における勉学の集大成として卒業論文を作成する。

人文学科・歴史学プログラム

本プログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。

- (1) 学生は、専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえる広い視野を修得するために、所定の教養教育科目を履修する。
- (2) 学生は、2年次に教育プログラム・専門分野に配属され、日本史学、東洋史学、西洋史学、それぞれの専門分野に関する基礎的知識と理解を修得するために、専門科目としての専門講義、専門実習、専門演習を履修する。
- (3) 学生は、3年次に原典読解力、資料調査能力、研究方法、論理的分析力を修得するために、少人数による参加型の専門演習科目（基礎演習・発展演習など）を履修する。
- (4) 学生は、4年次に教員の指導の下に、独創的・複眼的な考察力と表現力を磨いて、自ら卒業論文のテーマを設定し、学士課程における勉学の集大成として卒業論文を作成する。

人文学科・地理学・考古学・文化財学プログラム

本プログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。

- (1) 学生は、専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえる広い視野を修得するために、所定の教養教育科目を履修する。
- (2) 学生は、2年次に教育プログラム・専門分野に配属され、地理学・考古学・文化財学の歴史及び各専門分野に関する基礎的知識と理解を修得するために、専門科目としての専門講義、専門実習、専門演習を履修する。
- (3) 学生は、3年次に原典読解力、資料調査能力、研究方法、論理的分析力を修得するために、少人数による参加型の専門演習科目（基礎演習・発展演習など）を履修する。
- (4) 学生は、4年次に教員の指導の下に、独創的・複眼的な考察力と表現力を磨いて、自ら卒業論文のテーマを設定し、学士課程における勉学の集大成として卒業論文を作成する。

人文学科・日本・中国文学語学プログラム

本プログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。

- (1) 学生は、専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえる広い視野を修得するために、所定の教養教育科目を履修する。
- (2) 学生は、2年次に教育プログラム・専門分野に配属され、日本・中国文学語学の歴史及び各専門分野に関する基礎的知識と理解を修得するために、専門科目としての専門概説、専門演習を履修する。
- (3) 学生は、3年次に原典読解力、資料調査能力、研究方法、論理的分析力を修得するために、少人数による参加型の専門演習科目（基礎演習・発展演習など）を履修する。
- (4) 学生は、4年次に教員の指導の下に、独創的・複眼的な考察力と表現力を磨いて、自ら卒業論文のテーマを設定し、学士課程における勉学の集大成として卒業論文を作成する。

人文学科・欧米文学語学・言語学プログラム

本プログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。

- (1) 学生は、専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえる広い視野を修得するために、所定の教養教育科目を履修する。

- (2) 学生は、2年次に教育プログラム・専門分野に配属され、各専門分野に関する基礎的知識と理解を修得するために、専門科目としての専門講義、専門演習を履修する。
- (3) 学生は、3年次に原典読解力、資料調査能力、研究方法、論理的分析力を修得するために、少人数による参加型の専門演習科目（基礎演習・発展演習など）を履修する。
- (4) 学生は、4年次に教員の指導の下に、独創的・複眼的な考察力と表現力を磨いて、自ら卒業論文のテーマを設定し、学士課程における勉学の集大成として卒業論文を作成する。

人文学科・Humanities in English Program

本プログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。

- (1) 学生は、1年次から Humanities in English Program に配属され、専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえる広い視野を修得するために、英語による所定の教養教育科目を履修する。
- (2) 学生は、2年次には主に文学部の英語による専門教育科目を履修する。IGS や他学部が提供する英語による専門講義及び専門演習等を履修することもできる。
- (3) 学生は、3年次に原典読解力、資料調査能力、研究方法、論理的分析力を修得するために、少人数による参加型の専門演習科目（基礎演習・発展演習など）を履修する。
- (4) 学生は、4年次に教員の指導の下に、自ら卒業論文のテーマを設定し、独創的な発想力と論理的な表現力を駆使して、学士課程における勉学の集大成として英語で卒業論文を作成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/02>

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/001> (学部第3年次編入学試験)

(概要)

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

文学部では、個性あふれる豊かな人間性を培い、人文学における新しい知の探求を通じて、学問を究めようとする人材を育成するために、次のような資質を備えた学生を求めています。

- (1) 論理的思考力、創造力、語学力など、人文学を学ぶために必要な基礎的能力を身につけている人
- (2) 柔軟で批判的な精神を持ち、主体的に学修や研究を行う意欲のある人
- (3) 原典・資史料に基づいて、人間、文化、歴史、環境について深く考察したい人
- (4) 専門性を活かして世界に羽ばたきたいという意欲を持つ人

2 入学者選抜の基本方針

文学部では、「1 求める学生像」で提示した(1)から(4)の資質を備えた学生を受け入れるため、各主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位(学科)のアドミッション・ポリシー

文学部 人文学科

1 求める学生像

本学科が編成している哲学・思想文化学プログラム、歴史学プログラム、地理学・考古学・文化財学プログラム、日本・中国文学語学プログラム、欧米文学語学・言語学プログラム及びHumanities in Englishプログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、大学で人文学を学ぶための基礎的・基本的な学力を幅広くしっかりと身につけている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、人間の思考や価値観、人間が生み出した有形無形の文化、人間を取り巻く諸環境の仕組みに関心を持ち、多面的・多角的に考察し、自らの考えを論理的に表現できる人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、柔軟で批判的な精神を持ち、他者と積極的に意見交換を行い、深く思慮する態度を身につけている人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・大学で人文学を学ぶための基礎的・基本的な学力を定着させておくこと。
- ・自身の関心のあるテーマを中心にして、多様な書籍を読むことにより、幅広い知識を修得しておくこと。

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型、国際バカロレア型、フェニックス型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 面接
広島大学 光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、小論文、面接、本学が定める英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト、自己推薦書、小論文、面接	○ 自己推薦書、面接、本学が定める英語民間試験の成績証明書等(※)
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書	○ 面接	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接
	総合型選抜フェニックス型	○ 面接	○ 面接	○ 志望理由書、面接
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 個別学力検査、日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 個別学力検査	
	総合型選抜外国人留学生型3月実施	○ 面接、日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 面接	○ 面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本学科が編成している哲学・思想文化学プログラム、歴史学プログラム、地理学・考古学・文化財学プログラム、日本・中国文学語学プログラム及び欧米文学語学・言語学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、各プログラムの学問領域を学ぶための基礎的・基本的な学力を幅広くしっかりと身につけている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、各プログラムの学問領域を学ぶための人間の思考や価値観、人間が生み出した有形無形の文化、人間を取り巻く諸環境の仕組みに関心を持ち、多面的・多角的に考察し、自らの考えを論理的に表現できる人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、各プログラムの学問領域を学ぶための柔軟で批判的な精神を持ち、他者と積極的に意見交換を行い、深く思慮する態度を身につけている人

また、入学後に、個性あふれる豊かな人間性を培い、人文学における新しい知の探求を通じて、学問を究めようとする学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入して各プログラムの学問領域を学ぶための基礎的・基本的な専門的知識を修得していることを確認し、本学科のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために、筆記試験及び面接を課し、筆記試験の点数及び面接の評価を総合して判定します。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、教育諸問題を理論と実践の統合という視点から学際的、総合的に探究すると共に、「学習者」の視点に立つ新しい教育諸科学の教育・研究を行い、21世紀にふさわしい学校教育や学習社会づくりに貢献できる、幅広い社会的視野と豊かな課題探究力を有する指導的な人材の育成をめざす。</p> <p>第一類（学校教育系）</p> <p>小学校教員及び特別支援教育教員に等しく求められる資質や専門的力量を備えた人材を育成し、初等教育及び特別支援教育の充実、進展に貢献することを目的とする。</p> <p><u>初等教育教員養成コース</u></p> <p>小学校教員に等しく求められる資質や専門的力量を備えた人材を育成し、初等教育の充実、進展に貢献することを目的とする。</p> <p><u>特別支援教育教員養成コース</u></p> <p>特別支援教育の基礎として必要な初等教育に関する知識・技能・態度を修得するとともに、障害に関する基礎的な事項、検査法、心理・生理、指導法等に関する幅広い知識を修め、高度な専門性と優れた教育実践力及び特別支援教育の発展に寄与する創造力・研究能力を有する特別支援教育教員を養成することを目的とする。</p> <p>第二類（科学文化教育系）</p> <p>豊かな自然環境の創造、環境と人間との共生を主眼として、社会・自然科学の文化創造にかかわる能力形成の過程や論理を総合的に探究し、幅広い社会・自然環境の変化に主体的に対応するとともにグローバルな視野で行動できる資質を有する人材育成に貢献できる豊かな教養と能力を有する教育者を養成する。</p> <p><u>自然系コース</u></p> <p>中等理科教育の原理、内容、方法についての専門的な素養と教育実践力を有し、理論と実践を融合した教育研究を行うことができる中学校及び高等学校の理科教員の養成を主目的とし、併せて、教育関係の機関、施設等において中等理科教育に関連する業務に携わる専門的人材を養成する。</p> <p><u>数理系コース</u></p> <p>中等数学教育の原理、内容、方法についての専門的な素養と教育実践力を有し、理論と実践を統合した教育研究を行うことができる中学校及び高等学校の数学教員の養成を主目的とし、併せて、教育関係の機関、施設等において中等数学教育に関連する業務に携わる専門的職員を養成する。</p> <p><u>技術・情報系コース</u></p> <p>情報技術も含めた幅広い生産技術に支えられた「ものづくり」の基盤となる技術・情報教育の目標、内容、方法等に関する教育と研究を通して、IT社会に対応した技術的教養（Technology Literacy）の形成を促すとともに、学校教育を始めとした生涯学習を支援できる中学校及び高等学校の教員や企業における技術者等、技術・情報教育の内容と方法に関わる幅広い分野で指導的な役割を担える人材の養成を行うことを目的とする。</p> <p><u>社会系コース</u></p> <p>中学校社会科、高等学校地理歴史科・公民科に関する専門的資質を育成し、中等社会系教育に関連する業務に携わる人材を養成する。</p>

第三類（言語文化教育系）

言語構造・言語文化・言語教育・第二言語習得等に関する幅広い研究成果をふまえた、専門性の高い教員養成を行い、豊かな言語的感性と創造性を有する人材を育成する。

国語文化系コース

中等国語科教育の原理、内容及び方法についての専門的な素養と教育実践力を有し、理論と実践を融合した教育研究を行うことができる中学校及び高等学校の国語科教員の養成を主目的とし、併せて、教育関係の機関、施設等において国語文化に関連する業務に携わる専門的職員を養成する。

英語文化系コース

中等英語教育の原理、内容及び方法についての専門的な素養と教育実践力を有し、理論と実践を融合した教育研究を行うことができる中学校及び高等学校の英語教員の養成を主目的とし、併せて、教育関係の機関、施設等において中等英語教育に関連する業務に携わる専門的人材を養成する。

日本語教育系コース

質の高い日本語教育者の養成と国際社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

第四類（生涯活動教育系）

健康スポーツ、生活、芸術という点から幼児期から高齢期に至る人間の生涯にわたる自己実現に不可欠な身体表現活動の意義や論理等に関する探究を通して、心身の健康の維持や生涯スポーツ活動の普及・充実、生活の質の向上、更には芸術文化の向上を図るための教育・学習方法、カリキュラム等にかかわる専門的教育を行い、生涯学習社会の構築を支援できる人材の育成を行う。

健康スポーツ系コース

健康やスポーツに関する専門的資質を育成し、学校教員、社会体育指導者及び研究者などの人材養成を通して、生涯学習社会に貢献することを目的とする。

人間生活系コース

個人や家族の生活を衣食住環境、生活経営及び発達科学等の多様な視点から考え、研究し、中学校及び高等学校の家庭科教員、公務員及び人間生活・生涯教育関連の企業や団体等において専門業務に従事する、人間生活教育学の専門家の養成を目的とする。

音楽文化系コース

多様化する現代社会に対応して、学校教育はもとより、生涯教育にもわたる広い視野に立って、音楽専門技術、教育方法を習得させながら、音楽教育を研究し、実践する人材を育成することを目的とする。

造形芸術系コース

生涯教育及び中学校及び高等学校の造形芸術(美術)教育を推進できる指導者や、多様な造形活動による造形芸術文化の向上を通して社会貢献できる人材を育成することを目的とする。

第五類（人間形成基礎系）

学校教育と生涯学習のつながり、更には生涯発達を視野に入れ、教育の意義・価値・目標、システム、学習者の人間形成のメカニズムや心身の発達過程等を解明し、教育学及び心理学にかかわる専門教育を行うことを目的とする。

教育学系コース

教育諸科学の体系的知識を提供し、教育に関する高い識見と総合的な判断力を持つ専門的人材を育成することを目的とする。

心理学系コース

心の仕組みや働きについて理解し、現代社会における人間の心に関わる問題を発見し、解決する能力を備えた人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/03>)

（概要）

初等教育教員養成コース・初等教育教員養成プログラム

初等教育教員養成プログラムでは、小学校教員として教育界で活躍できる人材を育成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得し、小学校教諭一種免許状を取得する要件を満たした学生に対して、「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 教育学や心理学だけでなく、人文科学、社会科学、自然科学に関する基礎的・基本的な知識・理解を修得するとともに、外国語の能力を向上させ、現代の社会や教育の要請に応える総合的な資質と能力を身につけている。
- (2) 初等教育の教科、教職に関連する専門的な知識・技能を身につけている。
- (3) 小学校教員としての態度、及び自ら思考・判断・表現する能力を備え、総合的に実践することができる。
- (4) 初等教育に関わる諸問題に関する認識を形成するとともに、それらの課題の克服に向け、多様な視野で主体的・協働的に教育研究を行うことができる。

特別支援教育教員養成コース・特別支援教育教員養成プログラム

特別支援教育教員養成プログラムでは、特別支援学校において活躍が期待される教員としての基礎的知識、技能、態度を修得し、さらには障害のある児童等の指導にあたるために必要とされる論理的思考力と創造性、実行力を発揮しうる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身に付け、教育課程に定められた基準の単位数を修得し、特別支援学校教諭一種免許状（5障害領域）及び基礎免許状（一種）を取得する要件を満たした学生に対して、「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 特別支援教育の理念や歴史、制度などの基礎的事項を修め、優れた教育実践力を有する教員として活躍するための基盤となる知識・能力として活用することができる。
- (2) 障害のある児童等に関する心理、生理、病理や教育課程及び指導法等の幅広い知識や技能を修め、特別支援学校教員として活躍するための基礎的能力として活用することができる。
- (3) 所属する専修分野については、より高度な知識や技能を修め、特別支援学校教員としての核となる専門性を身に付け活用することができる。
- (4) 教養教育においては、人文科学、社会科学、自然科学に関する基礎的な知識を修得するとともに、外国語の能力を身に付け、現代の社会や教育の要請に応えるために活用することができる。

自然系コース・中等教育科学（理科）プログラム

中等教育科学（理科）プログラムでは、中学校・高等学校の理科教員、及び教育関係機関における理科教育関連業務に携わる専門的職員としての基礎知識、技能、態度を修得し、さらには科学的思考力と研究能力、及び理科教育実践力を有する人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を

修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 中等理科教育の原理・方法についての専門的な素養を有し、理論と実践を融合した教育研究を行うことができる。
- (2) 中等理科教育に携わるうえで必要な幅広い知識と技能を有し、理科教授内容に関連した基礎的・基本的な知識を基盤として教材研究、教育実践を行うことができる。
- (3) 人類や社会が抱える歴史的・現代的課題、各学問領域の形成過程・発展過程に関する知識を修得し、それらと文化・社会との関連性について理解を深め、国際的な視野を持つとともに、多様なトピックスについて多角的な視点から考察し、自分の意見を述べることができる。

数理系コース・中等教育科学（数学）プログラム

中等教育科学（数学）プログラムでは、数学教育に関する高い学識と数学的な能力を兼ね備えた、中学校・高等学校の数学科教員や、数学教育に関連した大学院に進学し、研究者や高度専門職業人をめざす人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力を身につけ、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえ国際的な広い視点で考え行動することができる。
- (2) 数学教育の原理や方法に関する幅広い知識・技能と高い実践的能力を獲得し、中等教育数学科における優れた学習指導を実践することができるとともに、数学教育の実践的研究に主体的に取り組むことができる。
- (3) 数学教育の教科内容に関する幅広い知識・技能と高い数学的能力を獲得し、中等教育数学科における教材分析や教材開発などに活かすことができる。
- (4) 数学教育に関する文献や資料を調べ、問題点を整理・分析・考察し、その結果を論理的に表現することができるとともに、数学教育の理論的研究に主体的に取り組むことができる。

技術・情報系コース・中等教育科学（技術・情報）プログラム

中等教育科学（技術・情報）プログラムでは、中学校の技術科教員や、高等学校の情報科教員及び工業科教員、民間企業や公的機関における技術者、企業等における教育専門家、あるいは大学院に進学して技術・情報系の教育や専門科学領域に関する研究を推進する人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 技術内容、情報内容に関する基礎的、実践的な知識と技能を身につけている。
- (2) 技術教育、情報教育に関する基礎的、実践的な知識と技能を身につけている。
- (3) 技術や情報、関連する教科の問題をグローバルな視点から発見・具体化し、知識と技能を総合して思考・判断・表現し、問題解決を図ることができる。

(1)、(2)の能力は、シラバスに基づく各科目の成績評価、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度に基づいて評価されます。(3)の能力は、製作・制作品や学位論文に関する発表の内容や学習態度に基づいて評価されます。

社会系コース・中等教育科学（社会・地理歴史・公民）プログラム

中等教育科学（社会・地理歴史・公民）プログラムでは、専門職たる中等社会系教員としての基礎的な知識・理解、技能・態度を修得し、グローバルな視野にたち、国内外の教育現場などにおいて中核的な活動を果たすための科学的創造力と実践力を備えた人材を養成します。そのため本プログラムでは、以下の知識・理解、技能・態度を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 「社会認識教育学」の基本的な認識枠組を修得し、教科教育の目的・内容・方法を研究できる知識・理解、技能・態度を身につけている。

- (2) 「社会認識内容学」に関連する人文・社会科学の諸分野の基本的な認識枠組を修得し、研究できる知識・理解、技能・態度を身につけている。
- (3) 上の2つを総合して、優れた社会系教科教育を教育、実践できる能力を身につけている。

国語文化系コース・中等教育科学（国語）プログラム

中等教育科学（国語）プログラムでは、専門職の中等教育国語科教員に必須の基礎知識、技能、態度の修得を通して、中等教育及び生涯学習社会の構築に貢献できる専門性と豊かな人間性を有する指導的人材を養成します。そのため、本プログラムでは、教養教育における幅広い教養とコミュニケーション能力、情報活用能力を基盤とした上で、以下の知識・能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) ことばとその文化の教育について、関連する学問分野の基礎的知識を身につけている。また、個々の学問分野の関わりに関心を持ち、それらが相互にどのように関連するかを理解することができる。
- (2) 関連する個々の学問分野におけるより専門的な知識と研究方法を身につけるとともに、それらをもとにした深い思考や独創的な視点をもって、ことばとその文化の教育の実態や現象、歴史や問題について分析的に思考し、総合的に判断することができる。
- (3) 中等教育の場におけることばとその文化の教育すなわち中等国語科教育の実践を計画し、指導を行うことができる。また、自己及び他者の教育実践をふりかえり、改善することができる。
- (4) ことばとその文化の教育、中等国語科教育のかかえるアクチュアルな課題を発見し、探究し、解決することができる。また、新たな中等国語科教育実践を創造することができる。

英語文化系コース・中等教育科学（英語）プログラム

中等教育科学（英語）プログラムでは、主として中学校・高等学校の英語科教員として、21世紀にふさわしい学校教育の創造や生涯学習社会の構築のために活躍できる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) グローバル社会にふさわしい英語教育を普及できるような高度な英語によるコミュニケーション能力を身につけている。
- (2) 英語や英語文化に関する研究を基盤として、教育内容や教材を分析し、開発することができる。
- (3) 英語教育学を原理・方法・内容等の面から専門的に探究し、英語授業を分析・構想・立案し、遂行できる。
- (4) グローバル社会にふさわしい英語教育を普及するための指導的立場において活躍する素養を身につけている。

日本語教育系コース・日本語教育プログラム

日本語教育プログラムでは、日本語を外国語として教える日本語教員をはじめとし、日本語・日本文化について国際社会で説明できる知識と能力、先入観にとられない国際感覚と独創性を備え、グローバル化する社会で幅広く活躍できる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 日本語教育に関連する基本的な知識を踏まえ、優れた教育実践を行うことができる。
- (2) 日本語教育の各領域及び関連諸領域を理解し、研究を専門的かつ学際的に発展させることができる。
- (3) 国際的な視野を持つとともに、それを学際的な思考につなげることができる。

健康スポーツ系コース・健康スポーツ教育プログラム

健康スポーツ教育プログラムでは、健康やスポーツに関わる幅広い知識と高い実践力を備えた保健体育科教員やスポーツ指導者などの専門家を育成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) スポーツ教育学，スポーツ方法学，スポーツなどの各専門分野の学習を通して，健康やスポーツに関する知識をもとに，現代社会で指導的な役割を果たすことができる。
- (2) 生涯にわたる心身の健康の維持・増進やスポーツ活動についての科学的認識を深めることができる。
- (3) 各種スポーツの指導・学習方法に関する理論に基づく実践力と指導力を身につけることができる。
- (4) スポーツを通じた国際的な視野を持つとともに学際的な思考を行うことができる。

また、教養教育は、専門教育の基盤として位置づけ、健康的な生活習慣を身につけると共に、教育学や心理学だけでなく、人文科学，社会科学，自然科学に関する基礎的・基本的な知識・理解を修得し，外国語の能力を向上させ，現代の社会や教育の要請にこたえる総合的な能力を養います。

人間生活系コース・人間生活教育プログラム

人間生活教育プログラムでは、人間生活教育についての専門的な資質・能力と実践力を修得し、学校教育並びに生涯教育において人間生活教育の理論と実践を融合してグローバルな視点で社会に貢献できる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 時代の変化やグローバル社会に対応できる自立した生活者として，家庭生活及び人間生活環境の創造に関わる教育実践力を身につけている。
- (2) 家庭生活を中心とした人間生活における課題を，物的環境，精神的環境，身体的環境さらには社会的環境といった多様な視点で考えることができるとともに，中学校・高等学校の家庭科教員として，教材，授業及びカリキュラムを創造することができる能力を身につけている。

本プログラムにおける教養教育は、専門教育の基礎として位置づけられ、人文科学，社会科学及び自然科学に関する基礎的・基本的な内容を修得するとともに，外国語能力を向上させ，現代社会の要請に応える人間生活教育に関わる者として必要な総合的資質・能力を身につけます。

音楽文化系コース・音楽文化教育プログラム

音楽文化教育プログラムでは、主に中学校・高等学校の音楽科や各種音楽機関における音楽の指導者・研究者等，教育と音楽に関する高度な知識・技能を活用し，グローバルな視野をもって社会に貢献できる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 中学校・高等学校の音楽科教員として必要な実践力を持ち，かつグローバルな視点に立って研究に発展させることができる。
- (2) 音楽に関する専門的な知識・技能を有し，音楽の実践者及び研究者として自立した活動ができる。
- (3) 生涯学習及び音楽文化全般にわたる基礎的知識を修得し，社会と音楽を取り巻く諸問題に対し，創造的かつ現実的に対応することができる。

造形芸術系コース・造形芸術教育プログラム

造形芸術教育プログラムでは、今日の社会的ニーズの多様化と増加をふまえ、生涯教育における造形芸術の指導者及び中学校・高等学校の美術科教員として必要な造形芸術についての総合的理解、理論的かつ実践的知識・技能・態度を修得し、さらには造形的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の目標を達成し、「知識・理解」「能力・技能」「総合的な力」それぞれについて学習成果をあげると共に、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 自ら優れた造形表現活動を展開するための技能を修得し、その活用ができる。
- (2) 造形芸術教育の教授内容に関連した基礎的・基本的な認識を形成し、その研究ができる。
- (3) 教科教育的思考を育成し、教育研究ができる。
- (4) 発達過程に即した造形芸術教育の専門的・発展的な認識を形成し、その実践ができる。

また、本プログラムにおける教養教育は、専門教育の基盤づくりを担うだけでなく、幅広い視野を与え、深化させる役割を持っています。今日の造形芸術が、その問題意識の面でも、いわゆる文系理系の枠を超えた総合科学的視野を要求していることに鑑み、人文科学、社会科学だけでなく、諸科学に関する基礎的・基本的知識を修得すると共に、その理解力を養います。併せて外国語能力を向上させ、積極的な情報の収集・発信、コミュニケーション等の能力を培います。

教育学系コース・教育学プログラム

教育学プログラムでは、教育諸科学の体系的知識を提供し、教育に関する高い識見と総合的な判断力をもつ専門的人材の育成をめざしています。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

- (1) 教育関連諸科学の諸概念や理論を理解し、人間形成の視点からこれらを総合することができる。
- (2) 外国語運用能力、統計分析、観察法、情報処理など、教育学の研究手法を用いることができる。
- (3) 具体的な教育課題に対して、情報収集力や研究手法を応用し、分析的・批判的に判断できる（クリティカルシンキング）。
- (4) 研究開発・問題解決・政策立案など、教育に関する研究・実践を発展的に継続することができる。

心理学系コース・心理学プログラム

心理学プログラムでは、複雑化、混迷化が進む現代社会で生じる人間の心や行動に関連したさまざまな問題を解決できる人材を育成します。すなわち、心の仕組みや働きについてよく理解し、人間の心や行動に関する問題を発見することができ、それを解決することのできる人材です。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（心理学）」の学位を授与します。

- (1) 人間の認識や情報処理の仕組み、人間関係や社会の中で生きる人間、人間の学習や教育、心の成長のプロセス、心の悩みや適応への援助の仕方、脳や身体と心の関係などに関して多様な知識を持ち、心の仕組みや働きを理解し、実社会において生じる心や行動の問題の解決のための基礎となる知識や技能を身につけている。
- (2) 心の測定法やデータの収集・分析などの方法を修得し、論理的に考え合理的に判断できる。
- (3) 上に挙げた方法・技能を、研究活動として実践できる。また、研究の過程や成果を表現したり、さまざまな他者と情報を交換したりすることができる。
- (4) 人間に関する知の蓄積に立脚し、事実に基づきながら新たな知を探究できる。

自然系コース，数理系コース，技術・情報系コース，社会系コース，国語文化系コース，英語文化系コース，日本語教育系コース，健康スポーツ系コース，人間生活系コース，音楽文化系コース，造形芸術系コース，教育学系コース，心理学系コース・異文化コミュニケーションプログラム

異文化コミュニケーションプログラムでは，英語による情報発信力，異文化を理解し積極的に交流する資質を備えて社会に貢献する人材を育成する。そのために以下の能力を身につけ，教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に対して，「学士（教育学）」の学位を授与する。

- (1) 高度な英語力，英語を用いたコミュニケーション能力を有している
- (2) 英語による教養教育や専門科目を修め，情報や文化を積極的に発信できる
- (3) 強い興味関心を持って積極的に異文化に交わり，自文化を発信できる。
- (4) 異文化に関する深い認識を形成するとともに，持続可能な開発目標に向け多様な視野で問題に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/03>）

（概要）

初等教育教員養成コース・初等教育教員養成プログラム

初等教育教員養成プログラムでは，プログラムが掲げる到達目標を実現させるために，次の方針のもとに教育課程を編成し，実施します。

1年次には，教養教育科目や外国語科目や平和科目を履修し，専門教育の基盤づくりを行うとともに，平和を希求する人間を育てる教育界に貢献するための広い視野と能力を培います。また，専門基礎科目である「算数」，「教職入門」，「小学校教育実習入門」等を履修し，初等教育教員に関する基礎的な知識・技能を修得します。

2年次には，教養教育科目を引き続き履修して，専門教育の基盤づくりを行うと共に，「初等国語」，「初等理科教育法」，「教育の思想と原理」，「教育と社会・制度」等を履修することで，初等教育教員に関する基礎的な知識を広く修得するとともに分野間の理解を深めます。

3年次には，「教育方法・技術論及び情報活用教育論」や各教科の指導法等の専門科目を主として履修し，専門的・実践的な知識・技能を修得します。また，「教育実習指導 A」，「小学校教育実習 I」では，小学校で実習を行い，教職全般に関する実践的知識・態度・技能，及び自ら思考・判断・表現する能力を高めます。

4年次においては，3年次までの授業科目の履修を踏まえた「教職実践演習」を行うことで，教員としての資質や課題を確認し，必要に応じて補充・深化します。また，「卒業研究」では，本プログラムを通して修得した専門的な知識・技能・能力を活用して独自のテーマに主体的・協働的に取り組むことで，自らの問題を発見して解決する力を培います。

上記のように編成した教育課程では，講義，実技，演習等の教育内容に応じて，アクティブラーニング，体験型学習，オンライン教育なども活用した教育，学習を実践します。

学修成果については，シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に，本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

特別支援教育教員養成コース・特別支援教育教員養成プログラム

特別支援教育教員養成プログラムでは，(1)教養教育，(2)専門基礎科目，(3)専門科目，(4)卒業研究の履修を通して，プログラムが掲げる到達目標を実現させるために，次の方針のもとに教育課程を編成し，実践します。

- (1) 教養教育では，「教養ゼミ」などの大学教育基礎科目，外国語科目や情報・データサイエンス科目などの共通科目等を履修し，現代の社会や教育の要請に応える総合的な資質と能力を養います。
- (2) 専門基礎科目では，「教職入門」「教職実践演習」「児童・青年期発達論」「初等国語科指導法」等，教員を目指すために必要となる学校制度や児童等の心理・発達の理解及び小学校の教科指導に関する基礎的知識・理解を深め，実践的能力・技能を身に付けます。

(3) 専門科目では、次のような教育課程を編成します。

- 1) 1年次には、「特別支援教育総論」をはじめ各障害種の心理学及び基礎論に関する科目を履修し、特別支援教育に関する専門性を高め、特別支援学校で活躍する教員を目指すために必要となる基礎的知識・理解力を身に付けます。
 - 2) 2年次には、3つの専修【第一専修（視覚障害教育）、第二専修（聴覚障害教育）、第三専修（知的障害・肢体不自由・病弱教育）】に分かれ、各障害種の指導法に関する科目を中心に履修し実践的能力・技能を高めますが、同時に、「LD等教育総論」等の取得免許領域に関連した教育的課題に対応した授業科目も履修することで、専門的・総合的な知識・理解力や方法論、視座を修得します。
 - 3) 3・4年次には、所属専修の障害種の指導法に関する科目を継続的に履修するとともに、「特別支援学校教育実習」（3年次）や「特別支援学級教育演習」（4年次）の履修を通じて、障害のある児童等の指導にあたるための実践的能力・技能を高めます。
 - 4) 教育職員免許法に定められている科目に加え、「視覚管理」「聴覚障害乳幼児指導法」「知的障害職業教育実践演習」等の「発展科目」を履修することで、専門領域の学びをさらに深めます。
- (4) 卒業研究では、(1)～(3)の授業科目の履修を踏まえ、3年次から4年次にかけて行う特別支援教育に関する研究を通して、研究計画の立案や文献検索、研究内容の発表などといった知的能力・技能を身に付けます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

自然系コース・中等教育科学（理科）プログラム

中等教育科学（理科）プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

1年次には、教養教育科目や外国語科目を履修し、専門教育の基盤づくりを行うとともに、平和を希求し国際化社会に貢献するための広い視野と能力を培います。また、専門基礎科目である「自然システムの理解（物理、化学、生物、地学）」や専門科目である「各分野リテラシーⅠ」を履修し、理科の教育内容に関する基本的な知識を修得し、理解を深めます。

2年次には、教養教育科目を引き続き履修して、専門教育の基盤づくりを行うとともに、「自然システム（理科）教育法Ⅰ・Ⅱ」や「自然システム理解実験（物理・化学・生物・地学）」の専門基礎科目を履修することで、科学教育に関する基礎的な知識を広く修得するとともに分野間の理解を深めます。さらに、専門科目として「理科カリキュラム論」、「理科授業プランニング論」、「各分野リテラシーⅡ」、「教材内容論Ⅰ（物理、化学、生物、地学）」などを中心に学習を進め、専門性を深めます。

3年次には、科学教育を体系的に学ぶために、各自の興味関心に応じて6つの研究領域（科学教育学、科学教育方法学、物理学、化学、生物学、地学）の一つを選択します。その研究領域に関連した授業科目を重点的に選択履修し、専門的な知識を修得します。また、「自然システム教育研究法」では、中等理科教育に関連した研究の手法を修得し、研究力を高めます。

4年次においては、指導教員のもとで卒業研究を行います。卒業研究では、本プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマに取り組むことで、自ら問題を発見して解決する力を培います。

本プログラムには選択科目として、「教職専門科目」、「教育実習」があり、教職専門科目では、中・高等学校の理科教員免許を取得するために必要な知識と技能を修得します。また、教育実習では、附属学校において理科に関する授業実践を行い、教材研究・授業実践能力を高めるとともに、生徒との関わり方や授業の進め方について実践的に学び、理科教員となるための資質を高めます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクテ

ィブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。
学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

数理系コース・中等教育科学（数学）プログラム

中等教育科学（数学）プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。

1年次には、教養教育科目や外国語科目を履修し、将来の数学教育研究を行っていくための幅広い学識と素養を身につけます。また、「微分積分学Ⅰ、Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」を履修し、現代の数学に関する基礎的な知識を修得します。さらに、専門基礎科目として「数学教育学方法論」を履修します。これらは専門教育への導入であるとともに、プログラム全体の基礎力を形成します。

2年次には、教養教育科目を引き続き履修して、専門教育の基盤づくりを継続するとともに、「数学教育学概論」、「代数学概論」、「幾何学概論」、「解析学概論」、「数理統計学概論」等を履修し、数学教育の原理と方法に関する基礎的・基本的な知識・技能、ならびに教材分析及び開発を行うために必要な、教科内容に関する広い知識・技能と高い数学的な能力を獲得します。これらは、プログラムを支える骨格部分となります。

3年次には、「数学教育カリキュラム論」等を履修し、数学教育の原理と方法に関する知識・技能を深めます。また、「代数学研究法Ⅰ」、「幾何学研究法Ⅰ、Ⅱ」、「解析学研究法Ⅰ、Ⅱ」等の専門科目を主として履修し、これまでに獲得してきた能力を土台として、教科内容に関するより深い知識・技能を獲得し、実践的な能力と態度を形成します。

4年次においては、卒業研究を中心に履修し、本プログラムを通して修得した専門的な知識・技能・能力を活用して独自のテーマに取り組むことで、自ら問題を発見して解決する力を培います。また、あわせて専門科目も履修することによって、数学教育の理論的・実践的研究を行うための知識・技能を深めます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

技術・情報系コース・中等教育科学（技術・情報）プログラム

中等教育科学（技術・情報）プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに体系的に教育課程を編成し、実践します。

1年次には、大学教育の基礎となる一般的な知識・技能も含めた教養を広く培います。また、一部専門基礎科目も履修することで、技術・情報教育と情報内容学の基礎的な内容を学習します。

2年次には、技術教育（教育学・内容学）、情報教育（教育学・内容学）の基礎となる専門基礎科目、ならびにこれに続く専門科目を履修します。ここでは、各分野の「概論」等を学習することで、技術や情報、関連する教科の知識・技能を育成します。

3年次には、2年次までに学習した内容をさらに発展させる専門科目を履修します。ここでは、各分野の「演習」、「実習」等を学習することで、技術や情報に関する製作・制作活動の実践力と態度、関連する教科の実践的な知識・技能を育成します。

4年次には、卒業研究（卒業論文）を主体としながら、発展的・応用的専門科目を学習します。ここでは、技術や情報、関連する教科の問題をグローバルな視点から発見・具体化し、製作、制作、調査、実験等により問題解決を図る総合的な能力と創造的な態度を養います。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

社会系コース・中等教育科学（社会・地理歴史・公民）プログラム

中等教育科学（社会・地理歴史・公民）プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

学位の取得には、本プログラムで開講される授業科目を選択履修することによって修得する 128 単位を条件としています。その内訳は、教養教育科目 32 単位、専門基礎科目 16 単位、専門科目 40 単位、専門選択科目と自由選択科目 32 単位、卒業研究 8 単位です。

1 年次から、専門基礎科目と専門科目に関する授業科目がはじまります。教養教育は専門教育の基盤づくりを担い、人文・社会科学に関する基本的な知識・理解を得るとともに、外国語能力が向上することになります。

専門教育科目のうち社会系に関連する科目は、社会科教育、地理教育、歴史教育、公民教育等を取扱う「社会認識教育学」科目と、地理認識内容学、歴史認識内容学、市民性内容学、社会科学認識内容学からなる「社会認識内容学」科目のほか、選択科目で構成されています。

各科目領域は、基礎入門から理論研究、実習演習へと配しており、各領域を順次履修することで、各知識・理解、能力・技能の水準を徐々に上げ、中等社会系教員として必要な諸能力を無理なく修得できるように構造化されています。

各年次の履修基準は、1 年次では教養教育科目の 14 単位以上、2 年次では教養教育科目累計 28 単位以上、専門科目累計 28 単位以上、3 年次では専門科目累計 56 単位以上を各々修得していることです。

卒業論文は、本プログラムがめざす中等社会系教員養成の最終到達点です。手順としては、3 年次に開催されるゼミ分け説明会に参加した上で、指定された期日までに卒業論文指導教員の希望調書を提出します。3 年次第 3・4 ターム以降、論文執筆に必要な内容を含む授業科目のほか、主要な研究領域の授業科目を重点的に選択履修します。4 年次第 1・2 タームには、各領域の卒業研究演習で適切な指導を受け、第 3・4 タームには本格的に卒業論文の作成・執筆に入ります。4 年次 1 月末に卒業論文を提出し、2 月に講座の教員及び学生・大学院生に向けて発表する卒業論文発表会に臨みます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の 2 つで評価します。

国語文化系コース・中等教育科学（国語）プログラム

中等教育科学（国語）プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

教養教育における幅広い教養とコミュニケーション能力、情報活用能力を身につけるための授業科目の基盤の上に、専門教育科目の教育課程を次の履修科目群のもとに編成しています。

1) 専門基礎科目 2) 専門科目（発展科目 I） 3) 専門科目（発展科目 II）

4) 専門選択科目・自由選択科目 5) 卒業研究科目

これらの科目群は、次のように本プログラムの目的・目標と対応し、段階的に履修することで、身につけるべき知識・理解、分析・総合力、探究力を修得できます。

(1) ことばとその文化の教育に関する知識・理解

専門基礎科目の「国語文化基礎ゼミ I」、「同 II」と、発展科目 I の国語文化内容系科目（国語学・国文学・漢文学・書写書道の諸分野）及び国語文化実践系科目（国語科教育学の諸分野）を履修し、ことばとその文化の教育に関する基礎的知識を身につけるとともに、それらを相互に関連したものとして理解する。

(2) ことばとその文化の教育に関する分析力・総合力

発展科目 II（国語文化内容系科目及び国語文化実践系科目）と、専門選択科目のうち教職関係科目（「教職入門」、「教育の思想と原理」他）を履修し、ことばとその文化の教育に関するより専門的な知識と、分析的に思考し総合的に判断する力を身につける。

(3) ことばとその文化の教育に関する反省的実践力

専門選択科目のうち教育実践系科目（「中・高等学校教育実習入門」「同観察」「中・高等学校教育実習Ⅰ」「同Ⅱ」「教職実践演習」）を履修して、ことばとその文化の教育に関する反省的実践力を身につける。

(4) ことばとその文化及び教育に関する探究力・創造力

卒業研究科目（国語文化研究法＋卒業論文）を履修し、ことばとその文化の教育に関する探究力と創造力を身につける。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

英語文化系コース・中等教育科学（英語）プログラム

中等教育科学（英語）プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。

1年次には、教養教育科目や外国語科目を履修し、専門教育の基盤づくりを行うとともに、21世紀にふさわしい学校教育の創造や生涯学習社会の構築に貢献するためのグローバルな視野と能力を培います。また、専門基礎科目である「英語コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」，「英語文学概説」を履修し、英語に関する基礎的な知識を修得します。

2年次には、教養教育科目を引き続き履修して、専門教育の基盤づくりを行うとともに、「英語学概説Ⅰ」，「英語教育学概論Ⅰ・Ⅱ」の専門基礎科目や「英語教材構成論」等の専門科目を履修することで、英語及び英語教育に関する基礎的な知識を広く修得するとともに分野間の理解を深めます。

3年次には、「英語学概説Ⅱ」，「コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の専門基礎科目や、カリキュラム、評価、異文化理解に関する専門科目を主として履修し、専門的な知識を修得します。さらに、「英語教育研究法」や「英語教育研究Ⅰ」を履修し、英語教育研究に関する基礎的な知識を修得します。また、「中・高等学校教育実習Ⅰ」又は、4年次の「中・高等学校教育実習Ⅱ」では、英語科教員としての基礎的な教育実践力を身につけます。

4年次には、「英語教育研究Ⅱ」を履修し、英語教育研究に関する知識をさらに深めます。卒業研究（卒業論文）では、本プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマに取り組み、自ら問題を発見して解決する力を身につけます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

日本語教育系コース・日本語教育プログラム

日本語教育プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。

1年次には、教養教育科目や外国語科目を履修し、専門教育の基盤づくりを行うとともに国際社会に貢献するための広い視野と能力を培います。また、専門基礎科目である「日本語教育学基礎論」等を履修し、日本語教育に関する基礎的な知識を修得します。

2年次には、教養教育科目を引き続き履修して専門教育の基盤づくりを行うとともに、「日本語教授法研究」，「日本語教育課程論」，「日本語の文法」，「言語の比較と対照研究」，「比較日本文化学」，「異文化接触と文化理解」等の専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は＜日本語の教育＞，＜日本語学習の支援＞，＜言語の構造＞，＜言語と行動＞，＜表現と文化＞，＜文化の理解＞の6分野からなっており、そのうちの4分野以上にわたって履修することで、日本語教育に関する基礎的な知識を広く修得するとともに分野間の理解を深めます。

3年次には、「日本語技能指導論」，「語用論」，「多文化間教育論」等の専門科目を主

として履修し、専門的な知識を修得します。また、国内（「日本語教育実習研究」）や海外（「日本語教育海外実習研究」）の日本語教育機関において実習を行うことで教育実践力と省察力を高めます。

4年次においては、卒業論文で、本プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマに取り組むことで、自ら問題を発見して解決する力を培います。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

健康スポーツ系コース・健康スポーツ教育プログラム

健康スポーツ教育プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。

1・2年次では、教養教育科目とともに「陸上競技」、「体づくり運動・器械運動」、「ダンス」、「水泳」、「武道A（柔道）」、「武道B（剣道）」、「球技A（バレーボール）」、「球技B（サッカー・ソフトボール）」、「球技C（バスケットボール）」、「球技D（テニス）」、「野外活動演習」などの各種スポーツ科目に関する指導内容について十分な知識や技能を獲得します。並行して、学問を体系的に学ぶための「健康・スポーツ総論」、「生涯活動教育論」を履修します。これらを総合的に学ぶことで、学校体育、社会体育などの各種の運動指導場面を考慮した実践的指導力と生涯スポーツへの素養を育みます。

3年次以降は、「スポーツ生理学」、「学校保健」、「スポーツ医学」、「スポーツ経営学」、「スポーツ心理学」、「身体表現論」、「コーチング論」などを学びます。各授業科目で理論的に学んだ内容をもとに、「保健体育科教育方法・評価論」や各実技科目における「指導演習」でカリキュラム作成、教材開発、指導案作成などの実際的な課題遂行と実践的能力を育みます。

4年次では、プログラム全体を通しての能力開発を行います。特定の専門領域・専門科目に集約し、卒業論文としてまとめることを目指します。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

人間生活系コース・人間生活教育プログラム

人間生活教育プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

本プログラムは、教養教育のほかに、専門基礎科目と専門科目から成り、卒業研究を履修することによって到達目標が達成されます。

1年次には、専門教育を受ける準備段階として教養教育科目の学習が中心となります。人間生活教育を学ぶために必要な科学的な視点と教養及び総合的資質・能力を身につけます。また、専門教育の基礎段階として、一部の専門基礎科目を学びます。

2年次には、その他の専門基礎科目と各分野の専門科目において人間生活の課題を理解し、多様な視点でとらえることができる能力と人間生活教育に関わる基本的な能力を身につけます。

3年次には、専門教育の発展段階として専門科目を中心に学習します。2年次の学習を発展させ、自立した生活者として家庭生活及び人間生活環境の創造に関わる教育実践力を身につけます。また、それまでの学習に基づいて、各自関心のある研究テーマに即して卒業研究をスタートさせます。

4年次には、卒業研究の遂行と完成により科学的な思考力を培うとともに、学校教育並びに生涯教育において人間生活教育の理論と実践を融合してグローバルな視点で社会に貢

献できる能力を身につけます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

音楽文化系コース・音楽文化教育プログラム

音楽文化教育プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

1年次には、専門基礎科目である「ソルフェージュⅠ」、「声楽基礎研究」、「鍵盤楽器基礎研究」、「作曲基礎研究」等を履修し、音楽に関する基礎的な知識と技能を修得します。併せて、教養教育科目や外国語科目を履修し、音楽分野に偏らないグローバルな視野と能力を育成するとともに、社会と平和に貢献するための自覚を促します。また、「中・高等学校教育実習入門」を履修し、教育実習に対する基本的な心構えを学びます。

2年次には、専門基礎科目である「生涯活動教育論」及び教養教育科目を引き続き履修し、視野を広げる他、「教職入門」、「教育の思想と原理」、「教育と社会・制度」等の教育職員免許状取得に係る授業、及び「音楽科授業論」、「作曲」、「声楽」、「ピアノ」、「管弦打楽器」等の専門科目を履修し、教育と音楽について理論と実技の両面から専門的に学びます。また、教育実習の現場を視察する「中・高等学校教育実習観察」を履修し、音楽科授業を様々な視点から分析する能力を養います。

3年次には、教職必修科目及び「中等音楽科教育法（日本音楽・民族音楽）」等の専門科目を引き続き履修する他、各附属学校における「教育実習指導B」及び「中・高等学校教育実習Ⅰ」を履修し、教育現場での実践力を培います。また「コンサート・マネジメント」を履修し、実際に定期演奏会の企画・運営を行うことにより、協働して問題を発見し解決する能力を高めます。

4年次には、本プログラムで修得した専門的な知識・技能・能力を活用し、独自のテーマに基づいた「卒業論文」にまとめます。また、引き続き専門科目を履修することにより、器楽・声楽・作曲・音楽教育学に関するより高度で専門的な研究を継続することができます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

造形芸術系コース・造形芸術教育プログラム

造形芸術教育プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。

1年次には、教養教育科目や外国語科目を履修し、専門教育の基盤づくりを行うとともに社会及び造形芸術教育に貢献するための広い視野と能力を培います。また、専門基礎科目である「芸術教育学概論」、「絵画表現論」、「絵画表現実習基礎」、「彫刻表現実習基礎」、「デザイン表現実習基礎」、「造形芸術基礎論」等を履修し、造形芸術教育に関する基礎的な知識を修得します。

2年次には、教養教育科目を引き続き履修して、専門教育の基盤づくりを行うとともに、「生涯活動教育論」、「美術科教育方法・評価論」、「彫刻表現論」、「デザイン概論」、「工芸表現論」、「工芸表現実習基礎」等の専門基礎科目を履修することで、造形芸術教育を学習していく上で必要な概括的かつ基礎的知識と技能を獲得し、分野間の理解を深めます。

3年次には、「芸術教育教材・構成論」、「芸術教育思想」、「美術科授業プランニング演習」等の専門科目を主として履修し、発達過程に即した造形芸術教育を実践するための必要な専門的知識を修得します。また、「卒業研究基礎演習Ⅰ」または「卒業研究基礎制作Ⅰ」を履修し、卒業研究のための基礎的な能力を高めます。

4年次には、造形芸術教育の発展的内容を学んで学習を深めます。また、卒業研究では、「卒業研究基礎演習Ⅱ」または「卒業研究基礎制作Ⅱ」における学習をふまえ、論文作成・作品制作を行います。ここでは、本プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマに取り組むことで、自ら問題を発見して解決する力を培います。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

教育学系コース・教育学プログラム

教育学プログラムでは、学生が教育に関するさまざまな理論や思想、事象、課題について、哲学的・歴史的・社会的・国際比較の視野に立って学習し研究するとともに、教育方法・技術や教育課程、学校経営・教育行財政、社会教育・生涯学習、幼児教育、高等教育をめぐる具体的問題群についての理論的・実践的検討を行いうるよう構成されています。本プログラムでは到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。

1年次には、教養教育科目を履修し、専門教育の基盤づくりを行います。また、「教育哲学」から「高等教育概論」まで11領域にわたって開設された専門基礎科目を履修し、教育関連諸科学の基礎的知識を修得します。

2年次には、教養教育科目や専門基礎科目を引き続き履修するとともに、教育哲学から幼児教育学まで10領域にわたって開設された領域基礎演習を履修することで、教育に関する資料・情報・データの収集力と具体的な教育課題に対する分析力・判断力、外国語運用能力や調査・研究の基礎となる教育学の研究手法を修得します。2年次までに履修した領域基礎演習や「教育学総合演習A」をもとに、学生は自分の研究関心に即して特定領域を選択し、3年次以降に備えます。

3年次には、領域基礎演習や研究法に関する専門科目を引き続き履修します。それとともに、学生は特定領域の研究室に所属します。自分の選択した領域の課題演習を履修することで、指導教員による少人数・個別指導を受けながら卒業論文のテーマを設定し、「教育学総合演習B」で卒業論文の構想発表を行います。

4年次には、自分の選択した領域の課題研究を履修し、卒業論文作成に取り組みます。卒業論文では、教育の専門家に求められる研究開発能力・政策立案能力や、生涯にわたって自らの能力・学識を開発しつづけるための自己学習力を培います。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

心理学系コース・心理学プログラム

心理学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、人間の心の仕組みや働きを理解し、心の測定法やデータの収集・分析などの方法を修得し、それらを実践し新たな知の探求ができるための基礎を育成します。また、実社会において生じる心や行動の問題の解決のための基礎となる知識や技能を育成します。そのために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

心理学プログラムの教育課程は、(公益社団法人)日本心理学会が認定する「認定心理士」の申請に必要な科目、並びに公認心理師法施行規則(平成29年文部科学省・厚生労働省令第3号)において大学における公認心理師となるために必要な科目として示された科目を充たすものです。

1年次には、「心理学概論A・B」、「大学教育入門」及び英語などの教養教育科目を履修して専門教育の基礎づくりを行うとともに、「心理学基礎実習」を履修し、心理学の研究を体験し、心の測定法やデータの収集・分析などの基礎的な方法を身につけます。

2年次には、教養教育科目を引き続き履修するとともに、「知覚・認知心理学」、「学

習・言語心理学」，「社会・集団・家族心理学」，「教育・学校心理学」，「発達心理学」，「臨床心理学概論」などの心理学各領域の概論を履修し，心の仕組みや働きを理解するための標準的な知識を身につけます。また，「心理学研究法」，「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」，「心理社会調査法」などの研究法科目を履修し，人間の心について理解するための方法・技能を身につけます。

3年次には，心理学の各領域の特論として，「神経・生理心理学」，「対人心理学」，「教育相談」，「児童・青年期発達論」，「乳幼児心理学」，「障害者・障害児心理学」などを履修し，心の仕組みや働きを理解するための発展的・応用的な知識を身につけます。

3-4年次には，学士課程のまとめとして，実際に心理学が使われている複数の職場を見学する「心理実習Ⅰ・Ⅱ」や，研究を遂行する能力・技能を身につけるために「心理学実験」，「課題研究Ⅰ・Ⅱ」を履修し，現代社会における人間の心や行動に関する問題解決への意欲や態度を形成します。

また，2-3年次にかけて，心理学の実践・応用領域や関連領域の科目として，「心理学の支援法」，「健康・医療心理学」，「福祉心理学」，「司法・犯罪心理学」，「精神疾患とその治療」，「関係行政論」などの科目を履修し，実社会において生じる心や行動の問題の解決に寄与するための知識・技能を身につけます。

上記のように編成した教育課程では，講義，実技，演習等の教育内容に応じて，アクティブラーニング，体験型学習，オンライン教育なども活用した教育，学習を実践します。

学修成果については，シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に，本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

自然系コース，数理系コース，技術・情報系コース，社会系コース，国語文化系コース，英語文化系コース，日本語教育系コース，健康スポーツ系コース，人間生活系コース，音楽文化系コース，造形芸術系コース，教育学系コース，心理学系コース・異文化コミュニケーションプログラム

異文化コミュニケーションプログラムでは，プログラムが掲げる「英語による情報発信力，異文化を理解し積極的に交流する資質を備えて社会に貢献する人材を育成する」という目標を実現させるために，次の方針のもとに教育課程を編成し，実施する。

教養教育

英語，または英語／日本語のバイリンガルで開設される多様な教養教育科目や外国語科目，平和に関する科目を履修し，専門教育の基盤づくりを行うとともに，平和を希求する社会に貢献するための広い視野と能力を培う。

専門科目

＜異文化に関する深い認識を形成する＞

専門基礎科目として，2年次，3年次で「世界の教育・日本の教育」，「教育とグローバルマインド」，「異文化接触と文化学習」，「異文化コミュニケーション」「平和情報発信演習（戦争と平和の教育学）Ⅰ，Ⅱ」等を履修する。これらの科目を通して，異文化理解に関する深い認識を形成するとともに，持続可能な開発目標に向け多様な視野で問題に取り組むことができる態度を育成する。2，3年次では，広島大学において開設される英語またはバイリンガルの講義・演習を広く履修し，自文化，異文化への理解を深める。

英語を母語または第2言語とする教員による指導の元で，英語を学習言語として卒業論文を作成する。

また，学内外の留学プログラムを積極的に活用する。

＜英語力，英語を用いたコミュニケーション能力を高める＞

英語による高度な情報発信力，コミュニケーション能力を育成するために，教養教育の外国語（英語）に加えて，専門教育においても英語を母語または第2言語とする教員によって体系的に語学教育を行う。

また，多言語環境に適応する力を育成するために，2年，3年次には，言語学の理論と方法，対照言語学等の言語学，社会言語学，言語心理学，第2言語習得論演習等の応用言語学の科目を履修する。

<p><異文化理解, 自文化発信・交流の資質を高める></p> <p>多様な文化に興味・関心を持ち積極的に交わる態度を育成するために, 2年次, 3年次では, 主として英語圏出身の留学生を対象とする講義・演習に参加し, 共に学ぶ。また, 留学生対象の科目に授業補助者として参加し, 異文化交流の実習を行う。</p> <p>異文化理解, 異文化間コミュニケーションの基盤形成として, 「異文化コミュニケーション課題演習 I, II」「対人心理学」, 「社会・集団・家族心理学」等を履修する。特に, 「異文化コミュニケーション課題演習 I, II」は卒業論文に繋がる科目として, 各自のテーマを定めて, 異文化間のコミュニケーションについて深く探求する。</p> <p>上記のように編成した教育課程では, 講義, 実技, 演習等の教育内容に応じて, アクティブラーニング, 体験型学習, オンライン教育なども活用した教育, 学習を実践する。学修成果については, シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に, 本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: インターネット)</p> <p>https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/03</p> <p>https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/002 (学部第3年次編入学試験))</p>
<p>(概要)</p> <p>※教育学部は令和7年4月に改組を予定しています (計画中)。 「(計画中)」となっているプログラムについては, 改組後の内容を記載しています。</p> <p>学部のアドミッション・ポリシー</p> <p>1 求める学生像</p> <p>教育学部では, 21世紀にふさわしい学校教育の創造や生涯学習社会の構築に貢献できる幅広い社会的視野と豊かな課題探究力を有する人材の育成を目指しており, 次のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 高等学校での基礎的・基本的な学力を幅広くきちんと身につけ, 自ら考え, 学ぶ意欲を持つ人 (2) 広く人間の心や教育又は初等・中等教育における各教科に強い興味・関心・情熱を持つ人 (3) 自らの問題意識に基づいて, 主体的に学修や研究を遂行し, 物事に多面的, 創造的にアプローチする人 (4) 子どもを愛し, 将来, 教員になることを希望する人, 又は大学院に進学し, 研究者や専門家になることを目指す人 <p>2 入学者選抜の基本方針</p> <p>教育学部に, 初等教育, 特別支援教育, 中等教育, 高等教育, 生涯教育, さらには教育学や心理学まで, 教育に関するあらゆる段階・分野を網羅した5つの類・16のプログラムを設置しており, 各プログラムでは, 編成している各主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ, 入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し, 多面的・総合的な評価による選抜を実施します。</p> <p>募集単位 (類・プログラム) のアドミッション・ポリシー</p> <p>教育学部 <u>第一類 (学校教育系) 初等教育学プログラム (計画中)</u></p> <p>1 求める学生像</p> <p>初等教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ, 入学前に子どもを愛する心と教育への情熱を持っていることを基盤とし, さらに, 以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 知識・技能については, 小学校教員としての実践的指導力の習得に必要な幅広い基礎学力を持つとともに, 小学校の諸教科等の学習を支援できる基礎的能力を育んできた人 (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については, 知識を活用して課題を解決する力, 小学校教員としてのコミュニケーションに関わる力を育んできた人 (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については, 自らの視野を広げようとする意欲と柔軟性を持ち, 協調性やコミュニケーション能力を高めようとする向上心を持った人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・小学校の諸教科等に関連する基本的内容
- ・子どもの成長・発達に関連する基本的内容
- ・学校行事や課外活動，社会的活動等への参与を通じた社会的貢献に関連する基本的内容

また，入学後には，子どもの成長・発達に強い関心を持ち，授業や課外活動，社会的活動等に積極的に参加し，自ら問題を発見・解決する力を培うことのできる学生を求めています。

2 入学受入れの基本方針

本プログラムでは，以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型，外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は，受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して，自ら課題を発見し，その解決に向けて探究し，成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち，多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト	○ 課題レポート，面接，大学入学共通テスト	○ 調査書，自己推薦書，課題レポート，面接
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 日本留学試験，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等，個別学力検査	○ 個別学力検査	

教育学部 第一類 (学校教育系) 特別支援教育学プログラム (計画中)

1 求める学生像

特別支援教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校 (特別支援学校高等部を含む) 若しくは中等教育学校段階での基礎的・基本的な知識・技能を主体的・協働的な学習により身につけている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、自ら課題を発見し、論理的に課題解決の筋道を洞察する思考力や判断力、表現力等を主体的・協働的な学習により身につけている人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、特別支援学校教員として社会に貢献したいという強い信念と豊かな人間性を身につけようと努力し、他者を共感的に理解し、創造的に課題を解決していこうとする態度を主体的・協働的な学習により身につけている人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・教育全般に関する基本的内容
- ・課題解決に関する基本的内容
- ・他者理解と自己表現に関する基本的内容

また、入学後に、特別支援教育に携わる教員としての基礎的知識・技能、障害のある児童等の指導にあたるために必要とされる論理的思考力、協働的・創造的に課題を解決していこうとする態度や実行力を、講義・演習、実習等の学修により身につけ、将来、「特別支援学校」での活躍を目指す人を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型、外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	

教育学部 第二類 (科学文化教育系) 理科教育学プログラム (計画中)

1 求める学生像

理科教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、理科に関連する基礎的・基本的学力を、実験・観察を含む授業や多様な自然体験等を通して身につけている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、科学的思考力・判断力及び課題探究力を、実験・観察を含む授業や多様な自然体験、及び各種のプレゼンテーションの機会等を通して身につけている人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、将来、理科教育や研究における多様な場で活躍することを目指し、自らの問題意識に基づいて学習や研究を遂行する力を、実験・観察を含む授業や多様な自然体験、及び各種のプレゼンテーションの機会等を通して身につけている人

なお、入学前に、理科の内容について高等学校での選択科目だけでなく、日常生活の中で見られる様々な事象の理解を通して、できるだけ幅広い知識を身につけておくことを期待します。

また、入学後に、中学校・高等学校理科教員、及び教育関係機関における理科教育関連業務に携わる専門的職員としての基礎知識、技能、態度を修得し、将来、中学校・高等学校又は生涯学習を含む理科教育の場での活躍を目指す人や、大学院に進学して科学教育・科学教育方法学あるいは科学教育内容学（物理教育、化学教育、生物教育、地学教育）に関する研究者となることを目指す人を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 面接
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、小論文	○ 大学入学共通テスト、小論文、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	
	総合型選抜外国人留学生型 3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、面接	○ 面接	○ 面接

教育学部 第二類 (科学文化教育系) 数学教育学プログラム (計画中)

1 求める学生像

数学教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校段階までの数学における基本的概念や原理・法則、及びそれらからなる体系を理解しており、それとともに事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりするために必要な技能を備えている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、未知の問題や事象に対して数学を用いて取り組んだり、自らの思考や解決の過程を振り返って評価・改善したりするとともに、数学的表現を用いて一連の取り組みを簡潔かつ明瞭に表現する力を備えた人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、数学の良さ及び数学を学ぶ楽しさを知り、問題解決の過程のなかで自らの役割を認識し、他者を尊重し、粘り強く取り組む態度を備え、将来的に地域や国際社会で活躍しようという意欲を持った人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

数学が歴史的にどのように必要とされ発展してきたか、そして現代社会にどのように活用されているのかについて関心を持ち、いづらか知っておいてほしい。なお、「数学I」をはじめとする高等学校数学科のすべての科目を履修していることが望ましい。

また、入学後に教科や校種にとらわれず広い視野で学校教育を学ぼうとすること、そのために自ら問い、成長しようとする主体的で自律的な学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型、外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト	○ 調査書、自己推薦書、課題レポート
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	

教育学部 第二類 (科学文化教育系) 技術情報教育学プログラム (計画中)

1 求める学生像

技術情報教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、中学校や高等学校段階で学んだ幅広い基礎的・基本的学力を有するとともに、技術的素養や情動的素養を育んできた人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、中学校の技術科及び高等学校の情報科で学んだ内容に関して十分活用できる能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、次に示す事項に意欲を持つこと。すなわち、中学校や高等学校段階での学習を通じて学んだ技術や情報、関連する教科の問題を多様な視点から発見・具体化し、周囲とのコミュニケーションを通して知識と技能を総合し問題解決に当たる意欲を持つ人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

日常生活に関連する技術・情報について関心を持ち、多面的にものごとを見て論理的に思考・判断できるように幅広く学習しておくこと

また、入学後に、ものづくりと情報技術に関する分野に強い関心を持って挑戦できる、次のような人を求めています。

- (1) 中学校や高等学校において技術教育、情報教育、工業教育に携わる教員を目指す人
- (2) 大学院に進学し、技術・情報の教育や専門科学領域に関する研究を推進する人
- (3) 民間企業や公的機関における技術者、企業等における教育専門家を目指す人

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程, 後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型, 国際バカロレア型, 外国人留学生型2月実施, 3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目					
区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)	
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査		
	後期日程	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト、面接	○	面接
広島大学 光り輝き 入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 大学入学共通テスト、面接	○	調査書、自己推薦書、面接
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書	○ 面接	○	IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査		
	総合型選抜外国人留学生型 3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、面接	○ 面接	○	面接

教育学部 第二類 (科学文化教育系) 技術・情報系コース

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本コースが編成している中等教育科学(技術・情報)プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、編入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、中学校、高等専門学校や大学等で学んだ幅広い基礎的・基本的な学力を十分に有するとともに、技術的素養や情動的素養を育ててきた人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、中学校の技術科及び高等専門学校や大学等の情報科目で学んだ内容に関して十分に活用できる能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、次に示す事項に意欲を持つこと。すなわち、中学校、高等専門学校や大学等の段階での学習を通じて学んだ技術や情報、関連する教科の問題を多様な視点から発見・具体化し、周囲とのコミュニケーションを通して知識と技能を総合し問題解決に当たる意欲を持つ人

なお、第3年次の編入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。日常生活に関連する技術・情報について関心を持ち、多面的なものごとを見て論理的に思考・判断が的確にできるように幅広く学習しておくこと。

また、第3年次の編入学後に、ものづくりと情報技術に関する分野に強い関心を持って挑戦できる、次のような人を求めています。

- (1) 中学校や高等学校において技術教育、情報教育、工業教育に携わる教員を目指す人
- (2) 大学院に進学し、技術・情報の教育や専門科学領域に関する研究を推進する人
- (3) 民間企業や公的機関における技術者、企業等における教育専門家を目指す人

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入するための専門的知識及び語学力を修得していることを確認し、本コースのカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために、個人面接(口頭試問を含む)及び集団面接で英語、数学及び技術(情報を含む)に関する思考力、技術(情報を含む)への関心、学習意欲などを総合的に点数化し、出願書類の評価(A～Dの段階評価)を総合して評価します。

教育学部 第二類 (科学文化教育系) 社会認識教育学プログラム (計画中)

1 求める学生像

社会認識教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校段階での基礎的・基本的な学力を幅広く堅実に身につけている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、国内外の人文・社会現象やそれらに関わる課題に対する原因解明や問題解決に向けて多面的・多角的に考察し、自らの考えを発信していくことのできる人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、国内外の人文・社会現象に関わる課題に対して、他者と積極的に意見を交換し、より良い問題解決を導くことのできるコミュニケーション能力を備えた人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・高等学校段階での基礎的・基本的な学力を幅広く堅実に定着させておくこと
- ・書籍や新聞などを読むことにより、人文・社会科学(教育学、心理学、地理学、歴史学、倫理学、法学、経済学など)に関する幅広い領域の知識の習得に努めること
- ・国内外の人文・社会現象やそれらに関わる課題に対して普段から関心を持ち、多面的・多角的に考察し、自らの考えを発信できるようになっておくこと

また、入学後には、プログラムのカリキュラムを通じて、以下のような知識・理解、技能・態度を修得することができる人材を求めています。

- ・「社会認識教育学」の基本的な認識枠組を修得し、教科教育の目的・内容・方法を研究できる知識・理解、技能・態度を身につけることができる
- ・「社会認識内容学」に関連する人文・社会科学の諸分野の基本的な認識枠組を修得し、研究できる知識・理解、技能・態度を身につけることができる
- ・上の2つを総合して、優れた社会系教科教育を実践できる能力を身につけることができる

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程，後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型，外国人留学生型2月実施，3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト，面接	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト，面接	○ 調査書，自己推薦書
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 日本留学試験，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 個別学力検査	
	総合型選抜外国人留学生型3月実施	○ 日本留学試験，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 面接	

教育学部 第三類（言語文化教育系） 国語文化教育学プログラム（計画中）

1 求める学生像

国語文化教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、ことばとその文化の教育について、基礎的な知識を身につけるとともに、広く知り深く理解しようとする意欲をもつ人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、ことばとその文化の教育にそくして人間と社会及び両者の関係を考え、深い思考と独創的な視点、豊かな想像力を基盤に、中等国語科教育のあり方を分析・総合しようとする意欲をもつ人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、ことばとその文化の教育をめぐる総合的な視点から人間と社会及び両者の関係に働きかけ、あらたな地平を切り開いていこうとする意欲をもつ人

なお、入学前に学習しておくことが期待される知識・技能・態度は、以下のとおりです。

- ・高等学校段階までの諸教科で得られる、基本的な学力と思考力
- ・特に国語に関わる知識・技能として、国語を適切に表現、的確に理解し、互いに伝え合う力。古典としての古文・漢文を理解する力
- ・またそれらを通して、言語文化に対する理解や、ものの見方・感じ方・考え方を深めようとする態度

また、入学後に、下記のことができる学生を求めています。

- ・ことばとその文化の教育に関する知識・理解、中等国語科教育に関わる知的及び実践的能力・技能を身につけるとともに、それらをもとにした深い思考や独創的な視点をもって、ことばとその文化の教育の実態や現象、歴史や問題について分析的に思考し、総合的に判断することができること
- ・ことばとその文化の教育、中等国語科教育のかかえるアクチュアルな課題を発見し、探究し、解決することができ、新たな中等国語科教育実践を創造することができること

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 学校推薦型選抜Ⅱ型、外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	学校推薦型選抜Ⅱ型	○ 小論文、大学入学共通テスト	○ 小論文、大学入学共通テスト	○ 調査書、推薦書、志望理由書、面接
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	

教育学部 第三類（言語文化教育系） 英語文化教育プログラム（計画中）

1 求める学生像

英語文化教育プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校段階までの基礎的・基本的な知識・技能を、主体的な学習を遂行することによって身につけた人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、英語を的確に理解でき、適切に運用できる一定程度の英語コミュニケーション能力を自己の考えを論理的にかつ即興的に表現するなどの活動や体験を通じて身につけた人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、自らの問題意識に基づいて主体的に学習や研究を遂行し、物事に多面的、創造的にアプローチする力を、学んだことを活用して、協働的に問題解決を行う活動や体験を通じて身につけた人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ① 高等学校段階までの教育課程における基礎的・基本的な知識・技能
- ② 英語を的確に理解し、適切に運用できる知識・技能

また、入学後に、グローバル社会にふさわしい英語教育を普及できるような高度な英語によるコミュニケーション能力、教育内容や教材を開発し英語授業を立案・遂行する力、英語教育研究を遂行する力を、学士課程における主体的で協働的な学修や、教育課程外の場面で自律的な学修によって身につけることのできる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型、外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 調査書、自己推薦書
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

教育学部 第三類（言語文化教育系） 日本語・日本文化教育プログラム（計画中）

1 求める学生像

日本語・日本文化教育プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、日本語をはじめとする言語や文化に関する知識、および日本語教育に関する技能を、社会的背景を含めて身につけようとする人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、自分の頭で考え、自分のことばで語り、主体的にコミュニケーションできる人、また、異なる文化や価値観に対する興味関心と高い受容力・柔軟性を持つ人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、日本語を教えることの意義をよく理解し、周囲の人々と協力しつつ情熱をもって取り組むことができる人

なお、入学前に身につけておくことが期待される知識・能力は、日本語や外国語に関する幅広い知識及び異なる文化や価値観に対する受容力および柔軟性です。

また、入学後には日本語を外国語として教えるとともに日本語・日本文化について国際社会で説明できる知識と能力、先入観にとらわれない感覚と独創性を身につけるために主体的に行動することが出来る学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

・一般選抜 前期日程

・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 I 型, 国際バカロレア型, 外国人留学生型 2月実施
各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜 I 型	○ 小論文	○ 小論文, 面接	○ 調査書, 自己推薦書, 面接
	総合型選抜 国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書, 小論文	○ 小論文, 面接	○ 自己推薦書, 面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験, 本学が指定する英語民間試験の成績証明書等, 個別学力検査	○ 個別学力検査	

教育学部 第三類 (言語文化教育系) 多文化・グローバル教育学プログラム (計画中)

1 求める学生像

多文化・グローバル教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、母語を的確に理解し、適切に運用できる人、また、母語以外の言語や母文化以外の文化に対しても深い関心と興味があり、一定水準の知識を持っている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、国際社会の持続性に関して自ら課題を発見し、その解決に向けて、多種多様な情報を適切に取捨選択しつつ、他者との情報共有・対話場面で伝える相手や状況に応じた表現ができる人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、母語以外の言語で教えることの意義や他文化を理解し、自国または他国において文化的背景が異なる人々とも協力しつつグローバルな視点での教育活動や多文化交流に情熱をもって取り組むことができる人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、社会や文化、外国語（英語）に関する基礎的な知識、日本の教育、世界の教育への興味・関心に基づく、平和や持続可能な社会に関する幅広い知識、及び論理的、批判的な思考力です。

また、入学後には、英語の運用能力を向上させるとともに、平和や持続可能な社会の創造について国際社会で協働できる知識と能力を身につけ、グローバルな視点から国内外の教育・文化活動に携わることができる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
 - ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 I 型, 国際バカロレア型, 外国人留学生型 2月実施
- 各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜 I 型	○ 小論文	○ 小論文, 面接	○ 調査書, 自己推薦書, 面接
	総合型選抜 国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書, 小論文	○ 小論文, 面接	○ 自己推薦書, 面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験, 本学が指定する英語民間試験の成績証明書等, 個別学力検査	○ 個別学力検査	

教育学部 第四類（生涯活動教育系） 健康スポーツ教育学プログラム（計画中）

1 求める学生像

健康スポーツ教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、運動・スポーツが好きで高等学校段階での基礎的・基本的な保健体育の知識と技能を身につけている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、運動・スポーツ等の現場で、フェアプレイ、チームプレイを重んじ、対人関係を考慮した適切な思考や状況判断力を持ち、リーダーシップを発揮する表現力を身につけている人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、運動・スポーツについて主体的に学び実践することができ多様な人と分け隔てなくコミュニケーションをとることができる人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。
主には、保健体育の授業内容を十分に理解し、実践できること

また、入学後に体育・スポーツ等に関する理論や科学的な見地を実践的に捉え、実行し、これらの能力を身につけられる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合格判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、実技	○ 大学入学共通テスト、実技	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト、小論文実技実績に係る証明資料	○ 大学入学共通テスト、小論文実技実績に係る証明資料	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 実技実績に係る証明資料、実技	○ 大学入学共通テスト、面接、実技	○ 調査書、自己推薦書
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、実技実績に係る証明資料、実技	○ 小論文、面接、実技	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、自己推薦書
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、実技	○ 実技	
	総合型選抜外国人留学生型3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、小論文実技実績に係る証明資料	○ 小論文実技実績に係る証明資料	

教育学部 第四類 (生涯活動教育系) 家政教育学プログラム (計画中)

1 求める学生像

家政教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、人間生活の向上・発展に貢献する家政学及び関連の専門科学を学ぶために必要な、日本語及び外国語の読解力、人文科学、社会科学や自然科学に対する理解力、高等学校段階で習得すべき家庭科の能力及び他教科での基礎的・基本的な学力を十分に身につけた人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、人間生活に関する教育的課題や学問的課題を解決するために必要な、幅広い事柄に対する知的好奇心、問題を発見する観察力、問題解決に向けて思考し、表現する力を、学校生活及び家庭生活の中で主体的に考え、身につけた人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、自らの問題意識に基づいて、主体的に問題を探求し、広い視野を持って多様な人と交流するコミュニケーション能力を、学校行事や課外活動、社会的活動等に積極的に参加して身につけた人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・家庭科における基礎的・基本的な知識及び技能
- ・幅広い教科での基礎的・基本的な学力

また、入学後に家政教育についての専門的な資質・能力と実践力、学校教育並びに生涯教育において家政教育学の理論と実践を融合してグローバルな視点で社会に貢献できる力を、教養教育と専門教育で学び、自ら主体的に探究する学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜外国人留学生型2月実施
- ・広島大学光り輝き入試 学校推薦型選抜Ⅱ型

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	学校推薦型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 調査書、推薦書、志望理由書、面接
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	

教育学部 第四類 (生涯活動教育系) 音楽教育学プログラム (計画中)

1 求める学生像

音楽教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、音楽の専門的な学習や関連する学習をとおして、音楽の諸要素、音楽理論、作曲家、楽器、音楽の表現方法、音楽の歴史的・社会的事象に関する基礎的知識及びこれらの知識を基に表現様式や歴史的背景を踏まえ、適切に演奏する基礎的技能を身につけた人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、演奏や音楽学習への取り組み、音楽に関する発表をとおして、既存の知識に加え、必要となる新たな知識・技能を獲得し、それらを適切に組み合わせて課題を追究する基礎的能力を身につけた人
また、多様な音楽活動をとおして、適切に情報を扱い、判断する基礎的能力や、他の学習者と情報を適切に共有し、音楽活動を遂行する基礎的能力を身につけた人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、音楽の専門的な学習や関連する学習をとおして、自己の学習プロセスや思考プロセスを客観的に捉え、見通しを持った学習計画を立案・実行する基礎的能力及び他の学習者とコミュニケーションを図り、協力しながら集団で学習活動を遂行・達成する基礎的能力を身につけた人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。
音楽理論、正しいリズムと音高による視唱、器楽・声楽の演奏

また、入学後に多様な楽器の奏法に習熟し、アンサンブルの演奏と指導を行う能力を身につけることのできる学生及び音楽に関わる専門的な学修と教育学に関わる学修を関連付け、中・高等学校音楽科教員や生涯教育における音楽教育者として指導する能力を身につけることのできる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
 - ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施
- 各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、実技	○ 大学入学共通テスト、実技	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、実技、面接	○ 大学入学共通テスト、実技、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、ディプロマプログラム試験における書類	○ ディプロマプログラム試験における書類、面接	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接
	外国人留学生型2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、実技	○ 実技	

教育学部 第四類 (生涯活動教育系) 美術教育学プログラム (計画中)

1 求める学生像

美術教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、中等教育における基礎的・基本的な学力を幅広く身につけており、美術教育や造形芸術のさまざまな分野に興味を持ち、美術の学習や作品制作等を実践できる基礎的な知識と技能を持った人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、社会における美術の意味を考え、多様な人と広くコミュニケーションすることに関心があり、それを実現する手段・方法として造形芸術における基礎的な描写力や構成力、表現力を活用することができる人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、学校生活や地域における活動等を通して、生涯にわたって造形芸術の表現活動を実践し続ける人々を支援する指導者あるいは教員として、多くの人と協働しながら社会に貢献したいと考えている人や、将来大学院に進み、さまざまな教育の場において、より専門的な造形芸術の教育・研究に携わることをめざしている人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・美術以外の分野にも広く興味関心を持ち、高等学校段階での基礎的・基本的な知識を幅広く習得していること

また、入学後に以下のような能力を身につけられる人を求めています。

- ・自ら優れた造形表現活動を展開するための技能を修得し、その活用ができる人
- ・造形芸術教育の教授内容に関連した基礎的・基本的な認識を形成し、その研究ができる人
- ・教科教育的思考や教科横断的思考を育て、教育研究ができる人
- ・発達過程に即した造形芸術教育の専門的・発展的な認識を形成し、その実践ができる人

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目							
区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)		知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)		主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)	
一般選抜	前期日程	○	大学入学共通テスト, 実技	○	大学入学共通テスト, 実技		
	後期日程	○	大学入学共通テスト, 実技	○	大学入学共通テスト, 実技		
広島大学 光り輝き 入試	総合型選抜Ⅱ型	○	実技	○	大学入学共通テスト, 面接, 実技	○	調査書, 自己推薦書, 美術に関わる活動実績調査書, 面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○	日本留学試験, 本学が指定する英語民間試験の成績証明書等, 実技	○	実技		
	総合型選抜外国人留学生型 3月実施	○	日本留学試験, 本学が指定する英語民間試験の成績証明書等, 実技	○	実技		

教育学部 第五類 (人間形成基礎系) 教育学プログラム (計画中)

1 求める学生像

教育学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、教育学を学ぶための基礎的な学力として、日本語及び外国語の読解力を有し、社会や人間、文化等に関わる高等学校段階までの幅広い教科の学習内容を確実に習得した人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、教育学を学ぶための論理的思考力、具体的な課題について多様な観点から判断する能力、資料・情報・データを用いてわかりやすく表現する能力を有した人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、教育界が抱えている多くの問題について積極的に情報収集し、問題を解決しようとする意欲のある人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

教育界が抱えている多くの問題について、周囲の人々と意見交換したり、文献を読んだりすることを通じて、教育学に対する知識を深め、関心を高めておくこと

また、入学後に教育学プログラムの教育課程を履修することによって、教育学に関する高い識見と総合的な判断力を身につけ、教職、教育行政職(公務員)、国際的な教育開発の実践家など教育学の専門性を生かせる職業に就こうとする人、さらに博士課程後期に進学し全国の大学の教育学部の教員として「先生の先生」になろうとする人を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程, 後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型, 外国人留学生型2月実施, 3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目					
区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)	
一般選抜	前期日程	○	大学入学共通テスト、個別学力検査	○	大学入学共通テスト、個別学力検査
	後期日程	○	大学入学共通テスト	○	大学入学共通テスト、小論文
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○	大学入学共通テスト	○	大学入学共通テスト、小論文、面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○	日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○	個別学力検査
	総合型選抜外国人留学生型 3月実施	○	日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○	小論文

教育学部 第五類（人間形成基礎系） 心理学プログラム（計画中）

1 求める学生像

心理学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、心理学を学ぶための基礎的な学力として、日本語及び外国語の読解力・表現力、豊かな知識と深い洞察力が必要であるため、幅広い教科で十分な学力を備えている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、複雑で多様な人間の心や行動に関して、自ら課題を発見し、課題解決型の思考・判断を行い、その結果を他者に説明できる基礎的能力を持つ人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、現代社会における、心や行動に関する問題に積極的に関心を持ち、主体的・独創的に探究を進め、他者と協調しながら心や行動に関する問題の解決に関わろうとする人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

心理学を学ぶための基礎的な学力として、日本語及び外国語の読解力・表現力、社会現象や自然・生命現象などの理解力が必要です。そのためには幅広い教科で十分な学力を備えること

また、入学後に、人間に関する知の蓄積に立脚して、心の測定法やデータの収集・分析などの方法を修得し、論理的に考え合理的に判断し、事実に基づきながら新たな知を探求する研究活動を実践できる学生、研究の過程や成果を表現したり、さまざまな情報を交換したりしながら他者と協調的に学修することができる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本プログラムでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目					
区分		基礎的・基本的な 知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、 自ら課題を発見し、その 解決に向けて探究し、成 果等を表現するために必 要な思考力・判断力・表 現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様 な人々と協働しつつ 学習する態度 (主体性・協働性)	
一般 選 抜	前期日程	○ 大学入学共通テ スト、個別学力検査	○ 大学入学共通テ スト、個別学力検査		
	後期日程	○ 大学入学共通テ スト、小論文	○ 大学入学共通テ スト、小論文		
広島 大 学 光 り 輝 き 入 試	総合型選抜 Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テ スト、調査書、自己推 薦書、面接	○	調査書、自己推 薦書、面接
	総合型選抜 外国人留学生 型 2月実施	○ 日本留学試験、本学 が指定する英語民間 試験の成績証明書 等、個別学力検査	○ 個別学力検査		
	総合型選抜 外国人留学生 型 3月実施	○ 日本留学試験、本学 が指定する英語民間 試験の成績証明書 等、小論文	○ 小論文		

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、健全な社会的関心と一定の法的素養（リーガルマインド）を備えた人材を社会に送り出すために、多様な分野で応用できる基礎力として次の3つの力を養成することを目的とする。</p> <p>(1)幅広い視野で社会問題を発見する力 (2)法制度の体系的理解に基づいて問題を分析する力 (3)論理的思考の下で具体的解決を提案する力</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/05 ）
<p>（概要）</p> <p><u>法学科昼間コース・公共政策プログラム</u></p> <p>公共政策プログラムでは、官公庁やNPO等において、制度の運用や評価・立案について高い能力を発揮することができる人材を育成します。</p> <p>そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（法学）」の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い視野から社会問題を発見することができる。 ・法制度の体系的理解に基づいて法・政治過程の動態をグローバルな視点から分析することができる。 ・論理的思考の下で政策課題の具体的解決を提案することができる。 <p><u>法学科昼間コース・ビジネス法務プログラム</u></p> <p>ビジネス法務プログラムでは、民間企業等において、企業活動の法的理解や実務について高い能力を発揮することができる人材を育成します。</p> <p>そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（法学）」の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い視野から社会問題を発見することができる。 ・現行法制下で企業が抱える諸問題をグローバルな視点から分析することができる。 ・論理的思考の下で企業活動における課題の具体的解決を提案し、実務を遂行することができる。 <p><u>法学科昼間コース・法曹養成プログラム</u></p> <p>法曹養成プログラムでは、グローバル化した現代社会が抱える諸問題を法的視点から体系的に理解し、法曹として実務を遂行するための能力や技能の土台を修得することをめざす。また、その基盤として、多様な分野で応用できる基礎力を養成し、健全な社会的関心と高度な法的素養を備えた人材を育成する。</p> <p>そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（法学）」の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い視野から法・社会問題を発見することができる。 ・法制度の体系的理解に基づいて法・社会問題を分析することができる。 ・論理的思考の下で法・社会問題の具体的解決を提案することができる。 <p><u>法学科夜間主コース・法政総合プログラム</u></p> <p>法政総合プログラムでは、法学的素養に基づき現代社会の諸問題に総合的にアプローチする、実務能力において優れた人材を育成します。</p> <p>そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（法学）」の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い視野から社会問題を発見することができる。 ・法制度の体系的理解に基づき、法・政治過程や企業活動の問題点をグローバルな視点か

ら分析することができる。

- ・論理的思考の下で行政活動や企業活動における課題の具体的解決を提案することができる。

法学科昼間コース・Law and Politics Program

Law and Politics Program では、法学的素養に基づき、国際社会が抱える多様な問題に総合的にアプローチする、実務能力において優れたグローバル人材を育成します。

そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を習得した学生に「学士（法学）」の学位を授与します。

- ・幅広い視野から社会問題を発見することができる。
- ・法制度の体系的理解に基づき、法・政治過程や企業活動の問題点をグローバルな視点から分析することができる。
- ・課題解決にむけて、異なる文化や価値観をもつ他者との間で、その文化や価値観を理解しながら、自分の意見を述べ、かつ議論を重ねることができる。
- ・論理的思考の下で行政活動や企業活動における課題の具体的解決を提案することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/05>)

（概要）

法学科昼間コース・公共政策プログラム

公共政策プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

- ・1年次には教養教育科目に位置付けられる基盤科目（「法学基礎」「政治学基礎」など）や専門教育科目に位置付けられる専門基礎科目（「統治システム論」「財産法入門」など）を履修し法学部提供のプログラムへと導入します。
- ・2年次にはプログラムを選択し、法律系および政治・社会系基礎科目の履修や「基礎演習」への参加を通してプログラムの到達目標を達成するための基礎固めをします。
- ・3・4年次には「専門演習」に参加するとともに、各分野の応用科目を履修することによって、各専門分野に応じた法・政治過程の動態や政策課題を分析する応用能力を涵養します。
- ・「専門演習」におけるゼミ論の作成や統合科目「公共政策と公私連携」（4年次後期履修）における論文作成を通して、本プログラムで身につけた知識・技能・能力を統合し、課題解決能力を育成します。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学習成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価とともに、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

法学科昼間コース・ビジネス法務プログラム

ビジネス法務プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

- ・1年次には教養教育科目に位置付けられる基盤科目（「法学基礎」「政治学基礎」など）や専門教育科目に位置付けられる専門基礎科目（「財産法入門」「民法総則」など）を履修し法学部提供のプログラムへと導入します。
- ・2年次にはプログラムを選択し、法律系および政治・社会系基礎科目の履修や「基礎演習」への参加を通してプログラムの到達目標を達成するための基礎固めをします。
- ・3・4年次には「専門演習」に参加するとともに、各分野の応用科目を履修することにより、各専門分野に応じて企業やその関連領域が抱える問題を分析する応用能力を涵養します。
- ・「専門演習」におけるゼミ論の作成や統合科目「国際社会と企業法務」（4年次後期履修）における論文作成を通して、本プログラムで身につけた知識・技能・能力を統合し、

課題解決能力を育成します。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学習成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価とともに、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

法学科昼間コース・法曹養成プログラム

法曹養成プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。

- ・1年次には教養教育科目を中心に履修しつつ、専門基礎科目を履修し法学部提供のプログラムへと導入する。
- ・2年次にはプログラムを選択し、法律系の基本科目・関係科目等の履修や基礎演習への参加を通してプログラムの到達目標を達成するための基礎固めをし、選択必修科目の履修によって理解をより確かなものとする。
- ・3年次には早期卒業を目標として、専門演習に参加するとともに、法科大学院の入学前に身につけておくべき能力を満たすための学修をする。
- ・早期卒業等をしなかった場合、4年次には、専門演習に参加するとともに、各分野の関係科目を履修することによって、法・社会の問題分析や課題解決を提案する応用能力を涵養する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学習成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価とともに、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

法政総合プログラム

法政総合プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

- ・1年次には教養教育科目に位置付けられる基盤科目（「法学基礎」「政治学基礎」など）や専門教育科目に位置付けられる専門基礎科目（「統治システム論」「民法総則」など）を履修し法学部提供のプログラムへと導入します。
- ・2年次には法律系および政治・社会系基礎科目の履修や一部の「専門演習」への参加を通してプログラムの到達目標を達成するための基礎固めをします。
- ・3・4年次には「専門演習」に参加するとともに、各分野の応用科目を履修することにより、各専門分野に応じて法・政治過程や企業活動の問題点を分析する応用能力を涵養します。
- ・「専門演習」におけるゼミ論の作成を通して、本プログラムで身につけた知識・技能・能力を統合し、課題解決能力を育成します。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学習成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価とともに、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

法学科昼間コース・Law and Politics Program

Law and Politics Programでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。

- ・1年次には教養教育科目（平和科目、領域科目、社会連携科目など）を履修し日本の事情・社会について広く学びます。
- ・2年次には法律系および政治・社会系基礎科目の履修を通してプログラムの到達目標を達成するための基礎固めをします。
- ・3・4年次には「専門演習」に参加するとともに、各分野の応用科目を履修することにより、各専門分野に応じて法・政治過程や企業活動の問題点を分析する応用能力を涵養

します。

- ・「専門演習」におけるゼミ論の作成や統合科目「Integrated subjects Law and Politics」（4年次後期履修）における論文作成を通して、本プログラムで身につけた知識・技能・能力を統合し、課題解決能力を育成します。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学習成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価とともに、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/05>

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/003> (学部第3年次編入学試験)

(概要)

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

法学部では、次のような学生を求めています。

- ・高等学校での基礎的・基本的な学力を幅広くしっかりと身につけ、特に国語や社会、外国語に高い学力を有する人
- ・人間と社会への深い関心と幅広い理解力を備え、現実に生じている社会の諸現象にさまざまな疑問を抱き、その背景を知りたい、解決策を探ってみたいと思う人、他者の意見を聞くことができ、語り合う過程で新たなものを発見しうると思う人
- ・将来、官公庁、民間企業などで活躍することを希望する人、法科大学院に進学して法曹をめざす人、又は大学院に進学し研究者や専門家になることを希望する人

2 入学者選抜の基本方針

法学部に法学科を設置しており、学生の多様なニーズに応え、卒業後の幅広い進路に対応するための昼間コース及び夜間主コースでは、これらの人を受け入れるため、編成している各主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位（学科・コース）のアドミッション・ポリシー

法学部 法学科 昼間コース

1 求める学生像

本コースが編成している公共政策プログラム、ビジネス法務プログラム、法曹養成プログラム及びLaw and Politics Programのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校での基礎的・基本的な学力を幅広くしっかりと身につけ、特に国語や社会、外国語に高い学力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、人間と社会への深い関心と幅広い理解力を備え、現実に生じている社会の諸現象にさまざまな疑問を抱き、その背景を知りたい、解決策を探ってみたいと思う人、論理的思考の下でバランスのとれた判断のできる人、他者の意見を聞くことができ、語り合う過程で新たなものを発見していくことのできる自己表現力、コミュニケーション能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、将来、官公庁、民間企業などで活躍すること、法科大学院に進学して法曹をめざすこと、又は大学院に進学し研究者や専門家になることを志し、その実現のために目的意識を持って主体的に学び、地道な努力を重ねることができる人

なお、第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・高等学校段階での基礎的・基本的な学力を幅広くしっかりと定着させておくこと
- ・書籍や新聞などを読むことにより、社会科学に関する幅広い領域の知識習得に努めること
- ・国内外の社会の諸現象やそれらに関わる課題に対して普段から関心を持ち、自らの考

えを発信できるようになっておくこと

また、入学後は、修学、課外活動及びボランティア活動等を通じて、幅広い視野から社会問題を発見する能力、法制度の体系的理解に基づいて問題を分析する能力、論理的思考の下で問題の具体的解決を提案する能力を身につけることのできる学生を求めています。

2 入学受入れの基本方針

本コースでは、以下の入学受入れを実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学受入れの実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学受入れに関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学受入れにおける重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト、総合問題	○ 大学入学共通テスト、総合問題	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、小論文、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト、小論文、面接	○ 面接
	総合型選抜国際バカロレア型	○ 面接	○ 面接	○ 面接
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 口述試験、日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 口述試験	○ 口述試験
	総合型選抜外国人留学生型3月実施	○ 口述試験、日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 口述試験	○ 口述試験

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本コースが編成している公共政策プログラム及びビジネス法務プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校での基礎的・基本的な学力を幅広くしっかりと身につけ、特に国語や社会、外国語に高い学力を有する人

- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、人間と社会への深い関心と幅広い理解力を備え、現実に生じている社会の諸現象にさまざまな疑問を抱き、その背景を知りたい、解決策を探ってみたいと思う人、論理的思考の下でバランスのとれた判断のできる人、他者の意見を聞くことができ、語り合う過程で新たなものを発見していくことのできる自己表現力、コミュニケーション能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、将来、官公庁、民間企業などで活躍すること、法科大学院に進学して法曹をめざすこと、又は大学院に進学し研究者や専門家になることを志し、その実現のために目的意識を持って主体的に学び、地道な努力を重ねることができる人

なお、第3年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・大学や短期大学、高等専門学校等で身につける法学・政治学・社会学に関する基礎的学力を定着させておくこと
- ・書籍や新聞などを読むことにより、社会科学に関する幅広い領域の知識習得に努めること
- ・国内外の社会の諸現象やそれらに関わる課題に対して普段から関心を持ち、自らの考えを発信できるようになっておくこと
- ・キャリアビジョンをしっかりと持ち、その実現に向けて自ら切り拓いていこうとする意志を持つこと

また、第3年次の入学後は、修学、課外活動及びボランティア活動等を通じて、幅広い視野から社会問題を発見する能力、法制度の体系的理解に基づいて問題を分析する能力、論理的思考の下で問題の具体的解決を提案する能力を身につけることのできる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

小論文（200点満点）の得点及び口述試験の評価を総合して評価します。

ただし、判定上順位を定める必要がある場合は、小論文の得点と本学が指定する英語民間試験の等級又はスコアを点数化したもの（100点満点）の合計点が高い者を上位者とします。

なお、本学が指定する英語民間試験の等級又はスコアを点数化したものについては、以下の基準に基づいたものとし、複数の英語民間試験を受験している場合は、CEFR相当レベルの最も高い1項目のみを対象とします。

CEFR相当レベル C1以上：100点 B2：80点

関心・意欲・態度

修学に対する関心・意欲・態度を、口述試験を通じて評価します。

知識・技能

大学や短期大学、高等専門学校等で身につける法学・政治学・社会学に関する基礎的学力を備えていることを確認し、公共政策プログラム及びビジネス法務プログラムのカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力をみるために、小論文及び本学が指定する英語民間試験の成績によって評価します。

思考力・判断力・表現力

法学・政治学・社会学を中心とした社会科学系の学問を学ぶ上で必要な思考力・判断力・表現力が育まれているかを、小論文、本学が指定する英語民間試験の成績及び口述試験で評価します。

主体性・協働性

修学に対する主体性・協働性を、口述試験を通じて評価します。

法学部 法学科 夜間主コース

1 求める学生像

本コースが編成している法政総合プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校での基礎的・基本的な学力を幅広くしっかりと身につけ、特に国語や社会、外国語に高い学力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、人間と社会への深い関心と幅広い理解力を備え、現実に生じている社会の諸現象にさまざまな疑問を抱き、その背景を知りたい、解決策を探ってみたいと思う人、論理的思考の下でバランスのとれた判断のできる人、他者の意見を聞くことができ、語り合う過程で新たなものを発見していくことのできる自己表現力、コミュニケーション能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、将来、学んだ専門知識をもって職場や地域社会で活躍すること、法科大学院に進学して法曹をめざすこと、又は大学院に進学し研究者や専門家になることを志し、その実現のために目的意識を持って主体的に学び、地道な努力を重ねることができる人

なお、第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・ 高等学校段階での基礎的・基本的な学力を幅広くしっかりと定着させておくこと
- ・ 書籍や新聞などを読むことにより、社会科学に関する幅広い領域の知識習得に努めること
- ・ 国内外の社会の諸現象やそれらに関わる課題に対して普段から関心を持ち、自らの考えを発信できるようになっておくこと

また、入学後は、修学、課外活動及びボランティア活動等を通じて、幅広い視野から社会問題を発見する能力、法制度の体系的理解に基づいて問題を分析する能力、論理的思考の下で問題の具体的解決を提案する能力を身につけることのできる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本コースでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・ 一般選抜 前期日程、後期日程
 - ・ 広島大学光り輝き入試 総合型選抜 国際バカロレア型、社会人型、フェニックス型
- 各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目							
区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)		知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)		主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)	
一般選抜	前期日程	○	大学入学共通テスト、個別学力検査	○	大学入学共通テスト、個別学力検査		
	後期日程	○	大学入学共通テスト、総合問題	○	大学入学共通テスト、総合問題		
広島大学 光り輝き入試	総合型選抜 国際バカロレア型	○	面接	○	面接	○	面接
	総合型選抜 社会人型	○	小論文、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等 (※)	○	小論文、面接	○	面接
	総合型選抜 フェニックス型	○	小論文	○	小論文、面接	○	面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜 社会人型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本コースが編成している法政総合プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校での基礎的・基本的な学力を幅広くしっかりと身につけ、特に国語や社会、外国語に高い学力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、人間と社会への深い関心と幅広い理解力を備え、現実に生じている社会の諸現象にさまざまな疑問を抱き、その背景を知りたい、解決策を探ってみたいと思う人、論理的思考の下でバランスのとれた判断のできる人、他者の意見を聞くことができ、語り合う過程で新たなものを発見していくことのできる自己表現力、コミュニケーション能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、将来、学んだ専門知識をもって職場や地域社会で活躍すること、法科大学院に進学して法曹をめざすこと、又は大学院に進学し研究者や専門家になることを志し、その実現のために目的意識を持って主体的に学び、地道な努力を重ねることができる人

なお、第3年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・大学や短期大学、高等専門学校等で身につける法学・政治学・社会学に関する基礎的学力を定着させておくこと
- ・書籍や新聞などを読むことにより、社会科学に関する幅広い領域の知識習得に努めること
- ・国内外の社会の諸現象やそれらに関わる課題に対して普段から関心を持ち、自らの考えを発信できるようになっておくこと
- ・キャリアビジョンをしっかりと持ち、その実現に向けて自ら切り拓いていこうとする意志を持つこと

また、第3年次の入学後は、修学、課外活動及びボランティア活動等を通じて、幅広い視野から社会問題を発見する能力、法制度の体系的理解に基づいて問題を分析する能力、論理的思考の下で問題の具体的解決を提案する能力を身につけることのできる学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

小論文（200点満点）の得点及び口述試験の評価を総合して評価します。

ただし、判定上順位を定める必要がある場合は、小論文の得点と本学が指定する英語民間試験の等級又はスコアを点数化したもの（100点満点）の合計点が高い者を上位者とします。

なお、本学が指定する英語民間試験の等級又はスコアを点数化したものについては、以下の基準に基づいたものとし、複数の英語民間試験を受験している場合は、CEFR相当レベルの最も高い1項目のみを対象とします。

CEFR相当レベル C1以上：100点 B2：80点

関心・意欲・態度

修学に対する関心・意欲・態度を、口述試験を通じて評価します。

知識・技能

大学や短期大学、高等専門学校等で身につける法学・政治学・社会学に関する基礎的学力を備えていることを確認し、法政総合プログラムのカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力をみるために、小論文及び本学が指定する英語民間試験の成績によって評価します。

思考力・判断力・表現力

法学・政治学・社会学を中心とした社会科学系の学問を学ぶ上で必要な思考力・判断力・表現力が育まれているかを、小論文、本学が指定する英語民間試験の成績及び口述試験で評価します。

主体性・協働性

修学に対する主体性・協働性を、口述試験を通じて評価します。

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien ）
<p>（概要）</p> <p>本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次に掲げるとおりとする。</p> <p>(1)学問的専門性と豊かな人間性を併せ持つ指導的人材を育成し、社会の要請に応えること。</p> <p>(2)経済学の理論・応用、歴史、政策及び経営・情報の全般にわたる基礎展開能力、問題解決能力及び課題探索能力を持つ人材を育成し、社会の発展に貢献すること。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/07 ）
<p>（概要）</p> <p><u>経済学科昼間コース・現代経済プログラム</u></p> <p>現代経済プログラムでは、経済学に関する基本的知識を修得し、それを基にした専門的能力を習得することによって、複雑化する現代社会における、経済問題の分析や国際的な視野を持った人材を育成します。さらには海外留学や大学院進学への推奨などによって、より高度な専門的知識を持った人材の育成を目指します。このため、本プログラムでは、次の2段階の「到達目標」を設定し、さらに「演習」、「卒業論文指導」を通じて、以下の「身につける力」を身につけ、教育課程によって定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（経済学）」の学位を授与します。</p> <p>「到達目標」</p> <p>(1) 第一到達目標は、新聞その他報道等の情報と経済学の各分野の基本的知識を連結できるといった経済学に関する基本的知識を修得すること。</p> <p>(2) 第二到達目標は、様々な社会現象に対して、各分野の専門的見地から一定の論述ができることといった各科目の専門的知識を修得すること。</p> <p>「身につける力」</p> <p>(1) グローバルな経済の分析や予測を数理的な分析手法により行うことができる。</p> <p>(2) 社会経済の動向を長期的な歴史的視野から見通すことができる。</p> <p>(3) 地球規模の環境問題などに対しグローバルな視点から政策を立案して実行できる。</p> <p>(4) 社会福祉や資金調達などの生活に密着した問題を専門的知識・手法を応用することにより解決できる。</p> <p><u>経済学科夜間主コース・経済・経営統合プログラム</u></p> <p>社会における経済活動の在り方を研究する経済学と、営利・非営利のあらゆる「継続的事業体」における組織活動の企画・経営に関する科学的知識の体系である経営学は、社会科学の両輪です。一般市民向けの生涯教育も担う広島大学東千田キャンパスで、高校卒業とともに入学する一般的な大学生のみならず、勤労学生、「総合型選抜（社会人型、22歳以上対象）」、「同（フェニックス型、60歳以上対象）」で合格した社会人などを対象に夜間授業時間帯に授業科目が提供されています。経済学と経営学を統合した本プログラムは、複雑化する現代社会における経済・経営問題の分析や国際的視野を持った人材を育成することを目標とします。さらには海外留学や大学院進学への推奨などによって、より高度な専門的知識を持った人材の育成を目指します。このため本プログラムでは、次の2段階の「到達目標」を設定し、さらに「演習」を通じて、以下の「身につける力」を身につけ、教育課程によって定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（経済学）」の学位を授与します。</p> <p>「到達目標」</p> <p>(1) 第一到達目標は、新聞その他報道等の情報と経済学・経営学の各分野の基本的知識を連結できるといった経済学、経営学、会計学、情報科学に関する基本的知識を修得すること。</p>

(2) 第二到達目標は、様々な社会現象に対して、各分野の専門的見地から一定の論述ができるといった各ユニットの専門的知識を修得すること。

「身につける力」

(1) 中国地方における中核人材として活躍するため、地域経済／組織経営に関する専門的知識を活用できる。

(2) 全国レベルで活躍できる中核人材となるため、学部教育と大学院教育が一体的に組み合わせられたカリキュラム編成により、経済学、経営学、会計学、情報科学に関する専門的知識を応用することが可能な、高度な能力を発揮できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/07>）

（概要）

経済学科昼間コース・現代経済プログラム

現代経済プログラムでは、ディプロマ・ポリシーで設定した「到達目標」に到達し、「演習」、「卒業論文指導」を履修することにより「身につける力」を習得するために、次の方針のもとに教育課程を編成し実施します。

本プログラムのカリキュラムは、経済学の基本的知識の修得と、それを基にした経済学各分野の専門的能力の育成を柱としています。到達目標に到達するために必要な基礎的科目を1年次から順次修得して、その上でより高度な専門的・実践的科目を修得するように授業を編成しています。

まず、到達目標へ円滑に到達するため及び専門科目の効果的学習のための基礎的科目である教養教育科目として「教養ゼミ」・「基盤科目」・「平和科目」などを履修します。

次に各学生が以下の「身につける力」に対応した専門基礎科目、専門科目を選択し履修します。

身につける力(1)では、1年次から2年次にかけて専門基礎科目で数理的分析手法を学んだ上で、2年次から4年次にかけて理論・計量経済学分野の専門科目を履修します。

身につける力(2)では、1年次から2年次にかけて専門基礎科目で経済史の基礎を学んだ上で、2年次から4年次にかけて歴史経済科学分野の専門科目を履修します。

身につける力(3)では、1年次から2年次にかけて専門基礎科目で経済政策論や国際経済学の基礎を学んだ上で、2年次から4年次にかけて経済政策分野の専門科目を履修します。

身につける力(4)では、1年次から2年次にかけて専門基礎科目で金融、財政、労働経済学の基礎を学んだ上で、2年次から4年次にかけて応用経済学分野の専門科目を履修します。

教養教育科目、専門基礎科目、専門科目を履修することにより、教養教育科目、専門基礎科目修了時に、「到達目標(1)」、専門科目修了時に「到達目標(2)」に到達します。

3年次では、「演習」を履修し、少人数教育のもと、相互に切磋琢磨し合い専門的知識の応用能力や論考する能力を鍛えるとともに、プレゼンテーション能力を養います。

4年次では、「卒業論文」を履修し、専門的知識の応用能力や論考する能力を鍛えた成果として卒業論文を作成・提出することができます。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、ディスカッション、オンライン教育などを活用した教育、学習を实践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

また、国際的な視野を持った人材を育成するため、外国の大学等での学修の単位認定や短期海外派遣学生に「演習」・「卒業論文」の履修に配慮するといった留学可能なカリキュラムとなっています。

経済学科夜間主コース・経済・経営統合プログラム

経済・経営統合プログラムでは、ディプロマ・ポリシーで設定した「到達目標」に到達し、「演習」を履修することで「身に付ける力」を習得するために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。

本プログラムのカリキュラムは、経済学・経営学に関する基本的知識の修得と、それを

基にした経済学・経営学各分野の、専門的能力の育成を柱としています。到達目標に到達するために必要な基礎的科目を1年次から順次修得して、その上でより高度な専門的・実践的科目を修得するように授業を編成しています。

まず、到達目標へ円滑に到達するため及び専門科目の効果的学習のための基礎的科目である教養教育科目として「教養ゼミ」・「基盤科目」・「平和科目」などを履修します。

次に、1年次から2年次にかけて専門基礎科目の経済基礎ユニット及び経営基礎ユニットから、2年次から4年次にかけて専門科目の経済応用ユニット及び経営応用ユニットからそれぞれ履修し、教養教育科目、専門基礎科目修了時に「到達目標(1)」、専門科目修了時に「到達目標(2)」に到達します。

3年次では、「演習」を履修し、少人数教育のもと、相互に切磋琢磨し合い専門的知識の応用能力や論考する能力を鍛えるとともに、プレゼンテーション能力を養います。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、ディスカッション、オンライン教育などを活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/07>

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/004> (学部第3年次編入学試験))

(概要)

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

経済学部では、次のような学生を求めています。

- (1) 官公庁や企業での活躍を目指す学生
- (2) 先端領域のビジネス分野でビジネスモデルの開発や起業を目指す学生
- (3) グローバル経済の分析や予測を、数理的分析手法を駆使して行うエコノミストを目指す学生
- (4) 地球規模の問題に対しグローバルな視点から政策を立案し実行するリーダーを目指す学生
- (5) 従来にない独創的な理論の構築を目指し、深い思索と幅広い視点から学問研究に従事しようとする学生

2 入学者選抜の基本方針

経済学科昼間コース及び夜間主コースが編成している各主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付け、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位（学科・コース）のアドミッション・ポリシー

経済学部 経済学科 昼間コース

1 求める学生像

本コースが編成している現代経済プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能について、「経済学を学ぶために必要な基礎学力として、高等学校等で学ぶことにより身につける国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報の知識」
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力について、「日常の政治・経済問題に関して自ら解決策を考えることにより身につける問題発見・解決能力、自己革新能力」や「学内行事や課外活動、ボランティア活動等に主体的に取り組むことにより身につける自己表現力、コミュニケーション能力」
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度について、「学内行事や課外活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む態度」や「自分の適性を活かしたキャリアビジョンが明確で、その実現のために目的意識を持って頑張る態度」

なお、第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- (1) 高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報の知識
- (2) 日常の政治・経済問題に関して自ら解決策を考えること
- (3) 学内行事や課外活動、ボランティア活動等に主体的に取り組むこと
- (4) 自分の適性を活かしたキャリアビジョンを明確にして実現のために目的意識を持つこと

また、第1年次の入学後に「教養教育科目と専門基礎科目を修了した時点で、経済学に関する基本的知識を修得し、新聞その他報道等の情報と経済学の各分野の基本的知識を連結できる能力」、「専門科目修了時に、各学科目の専門的知識を修得し、様々な社会現象に対して各分野の専門的見地から一定の論述ができる能力」、「卒業論文を作成することによって、専門的知識の応用能力や論考する能力、プレゼンテーション能力」を身につけることができる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本コースでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施、3月実施
- ・広島大学光り輝き入試 学校推薦型選抜 II型

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト、小論文	○ 大学入学共通テスト、小論文	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜 国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書	○ 面接	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	
	総合型選抜 外国人留学生型 3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、小論文	○ 小論文	
	学校推薦型選抜 II型	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 調査書、推薦書、志望理由書、面接

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本コースが編成している現代経済プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能について、「経済学を学ぶために必要な基礎学力として、高等学校等で学ぶことにより身につける国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語の知識」
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力について、「日常の政治・経済問題に関して自ら解決策を考えることにより身につける問題発見・解決能力、自己革新能力」や「学内行事や課外活動、ボランティア活動等に主体的に取り組むことにより身につける自己表現力、コミュニケーション能力」
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度について、「学内行事や課外活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む態度」や「自分の適性を活かしたキャリアビジョンが明確で、その実現のために目的意識を持って頑張る態度」

なお、第3年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- (1) 短期大学、高等専門学校等で学ぶ経済に関する基礎知識
- (2) 日常の政治・経済問題に関して自ら解決策を考えること
- (3) 学内行事や課外活動、ボランティア活動等に主体的に取り組むこと
- (4) 自分の適性を活かしたキャリアビジョンを明確にして実現のために目的意識を持つこと

また、第3年次の入学後に「専門基礎科目を修了した時点で、経済学に関する基本的知識を修得し、新聞その他報道等の情報と経済学の各分野の基本的知識を連結できる能力」、「専門科目修了時に、各学科目の専門的知識を修得し、様々な社会現象に対して各分野の専門的見地から一定の論述ができる能力」、「卒業論文を作成することによって、専門的知識の応用能力や論考する能力、プレゼンテーション能力」を身につけることができる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本コースが編成している現代経済プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付け、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

経済学部 経済学科 夜間主コース

1 求める学生像

本コースが編成している経済・経営統合プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能について、「経済学や経営学を学ぶために必要な基礎学力として、高等学校等で学ぶことにより身につける国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報の知識」
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力について、「経済学、経営学、会計学、情報科学といった社会科学が取り組むべき現実的課題に興味を持ち、自ら解決策を考えることにより身につける問題発見・解決能力、自己革新能力」や「学内行事や課外活動、ボランティア活動等に主体的に取り組むことにより身につける自己表現力、コミュニケーション能力」
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度について、「学内行事や課外活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む態度」や「自分の適性を活かしたキャリアビジョンが明確で、その実現のために目的意識を持って頑張る態度」

なお、第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- (1) 高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語、情報の知識
- (2) 日常の政治・経済問題に関して自ら解決策を考えること

- (3) 学内行事や課外活動，ボランティア活動等に主体的に取り組むこと
- (4) 自分の適性を活かしたキャリアビジョンを明確にして実現のために目的意識を持つこと

また，第1年次の入学後に「教養教育科目と専門基礎科目を修了した時点で，経済学，経営学，会計学，情報科学に関する基本的知識を修得し，新聞その他報道等の情報と経済学・経営学の各分野の基本的知識を連結できる能力」，「専門科目修了時に，様々な社会現象に対して各分野の専門的見地から一定の論述ができる能力」を身につけることができる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本コースでは，以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程，後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 社会人型，フェニックス型
- ・広島大学光り輝き入試 学校推薦型選抜 II型

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は，受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して，自ら課題を発見し，その解決に向けて探究し，成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち，多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト，小論文	○ 大学入学共通テスト，小論文	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜 社会人型	○ 小論文，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等 (※)	○ 小論文，面接	○ 面接
	総合型選抜 フェニックス型	○ 小論文	○ 小論文，面接	○ 面接
	学校推薦型選抜 II型	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト，面接	○ 調査書，推薦書，志望理由書，面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜 社会人型について，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は，任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

※令和7年度第3年次編入学試験において学生募集を停止する予定です(計画中)。

学部等名 理学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、自然界に働く普遍的な法則や基本原理の解明を目指した専門的教育研究活動を通じて、自然科学の基礎を十分に修得させ、真理探究への鋭い感性と総合的判断力を培うことによって、社会のさまざまな分野で活躍することのできる、研究者、技術者、教育者等としての素養を備えた人材を養成する。</p> <p><u>数学科</u></p> <p>現代数学の理論の基礎・応用を学習し、幅広い知識を習得するとともに、高度な論理性と弾力的な数学的思考力を身に付けることによって、研究者、技術者、教育者等として社会の各方面で活躍することのできる人材を養成する。</p> <p><u>物理学科</u></p> <p>(1) 理学の基盤学問としての物理学の専門知識を主とした高度な教養を身に付け、真理を解き明かし、自然を探究する能力を持つ人材を養成する。</p> <p>(2) 基礎学力と物理分野の高度な専門知識及びそれを使いこなす能力を持ち、研究者、技術者、教育者等として社会で活躍できる人材を養成する。</p> <p><u>化学科</u></p> <p>化学の基礎知識を体系化して習得し、その確固たる知力に裏打ちされた豊かな創造性及び国際性を併せ持った化学者としての素養を身につけた人材を養成する。さらに、最先端研究に従事することにより、研究者としての心構えや基礎を確立する。</p> <p><u>生物科学科</u></p> <p>生物科学の幅広い分野の基礎知識及び専門知識並びに実験、調査及び解析の諸技術を習得し、生物学的諸問題に対処できる基礎力を蓄えた人材を育成する。基礎的研究や応用的開発に従事する技術者、産業界における実務や理科教育等関連分野で活躍できる人材を養成する。</p> <p><u>地球惑星システム学科</u></p> <p>地球惑星科学に関する幅広い基礎知識を習得し、未解決問題の発見とその解決の能力を養い、環境問題、自然災害等に関わる社会的要請にも応え得る人材を養成する。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/09 ）
<p>（概要）</p> <p><u>数学科・数学プログラム</u></p> <p>本プログラムでは、数学に関する専門的な知識と技能を備えた研究者・教育者・情報化社会のニーズに応え得る職業人など、様々な分野で変化や新たな現実に柔軟に対応して活躍できる人材を養成します。</p> <p>そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程によって定められた基準の単位数を修得した学生に「学士（理学）」の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養を身につけグローバルな視野をもって考え判断することができる。 ・現代数学の諸分野の基礎的理論の本質を厳密に理解し、応用することができる。 ・数学の学習・研究により磨き上げられた論理的思考能力と表現力を活用することができる。 ・様々な事象を数学的にとらえ、一般化・抽象化・体系化・モデル化して処理することができる。 ・大学院進学後により高度な内容の学習や研究を行うことができる、あるいは教育界・産業界等の幅広い方面で活躍できる基礎能力と先端的知識が身に付いている。

物理学科・物理学プログラム

本プログラムでは、以下の4項目に示す物理学における基礎的、専門的な知識・能力・技能を有し、大学院におけるより専門的な教育・研究に必要な能力を身につけ、大学や国立研究機関の研究者、あるいは企業の技術職や専門職等で活躍することのできる人材の育成のため、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（理学）」の学位を授与します。

- ・物理学における基礎的、専門的な知識・能力・技能。
- ・実験や観測などの客観的事実やモデル計算の結果に対して、物理学の知識・能力・技能を駆使して自ら論理的に考えることができる能力。
- ・物理学に限らず、広い視野と倫理観を持って、科学研究、教育、実業の幅広い分野で活躍することができる素養。
- ・国際的な感覚を持ち、科学的な内容に関する報告や議論、プレゼンテーションなどを英語で行うことができる能力。

化学科・化学プログラム

本プログラムは、化学をバックグラウンドにもち、基礎的・応用的研究、産業界における実務、理科教育などあらゆる化学関連分野の第一線で活躍することが期待され、加えて国際性の資質も備えた科学者を養成することを目的としています。また、本プログラムは、自立性と柔軟性を持って業務を遂行できる能力をもつ人材の輩出を目指しています。

本プログラムでは、以下の能力、素養をもち、教育課程の定める基準単位数を修得した学生に「学士（理学）」の学位を授与します。

- ・深い化学的知識、専門技能、思考力、判断力、独創的視点を基盤にして、新しい化学分野を創造するために必要な素養。
- ・複数の分野にまたがる学際領域や、既存の枠組みを越えた新しい化学に対する関心を基盤とした、現代社会をリードするために必要な能力。
- ・主体性を持って活発な学問的、化学的関心を常に抱き、総合的な視点から新しい状況、環境に対応するために必要な能力。
- ・継続して努力する能力、自らの考えを論理的に説得力ある言葉で表現・説明する能力、及び他者との議論により自らの理解を修正・改善する能力。

生物科学科・生物学プログラム

本プログラムでは、生物学の知識・経験を有し、基礎的研究や応用的開発に従事する技術者、産業界における実務や理科教育などあらゆる関連分野の第一線で活躍できる人材、プレゼンテーション能力を併せもった国際人としての資質を備えた人材などの育成を目指しています。具体的には以下の知識・能力を習得し、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に学士（理学）の学位を授与します。

- ・生物に見られる現象を分子・細胞から個体・集団レベルまで様々な角度から捉え、理解し、考察できる能力を身につけている。
- ・一般教養の涵養に加え、生物学の基礎と専門知識を修得している。
- ・生物学分野における専門英語の基礎を修得している。
- ・生物学の研究に用いられる実験技術を習得するとともに、生物学の問題を主体的に解決する能力を身につけている。
- ・生物学に関わる自らの考えを記述し、発表する技能を修得している。

地球惑星システム学科・地球惑星システム学プログラム

本プログラムは、地球惑星科学の様々な分野の融合である地球惑星システム学に関連する研究者、技術者、教育者として社会で活躍できる国際的な視野を持った人材の育成を目指しています。本プログラムでは、以下の能力を身につけ、基準となる単位数を修得した学生に「学士（理学）」の学位を授与します。

- ・地球惑星システム学の幅広い分野を理解するための数学、物理学、化学、生物学、地球惑星科学の基礎を習得する。

- ・地球惑星システム学の幅広い分野に必要な英語と情報処理の基礎を習得する。
- ・地球惑星システム学に関して、日本語及び英語の学術文献を読み、ミクロからマクロのレベルまでの様々な構造と現象について、理解し考察することができる。
- ・地球惑星システム学に関して、専門的な研究を遂行し、結果を論文にまとめ、英語で発表することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/09>）

（概要）

数学科・数学プログラム

本プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げた到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。

- ・1年次には、人文・社会・自然・情報・平和・外国語などの幅広い教養と総合的な判断力を培います。また、数学概説、線形代数学、微分積分学に関する科目を履修することで数学の論理的な基礎を習得し、教養ゼミでの発表・討議を通して協働して学ぶ態度を養成します。
- ・2年次には、代数学・解析学・数学通論等の専門基礎科目を通して現代数学の諸分野の基礎的理論の本質を厳密に学ぶとともに数学的基礎能力（概念理解力・計算力・論証力）を養成し、演習を通して論理的思考力と表現力を高めます。また、2年次以降に開講される計算数学・確率統計・計算数理等では様々な事象をモデル化・体系化して処理する方法や計算機を用いた解析方法を学びます。
- ・3年次には、代数学・幾何学・解析学・確率統計学・応用数学における一般化・抽象化された専門的な内容を選択科目として開講することで自発的な学習を促し、それぞれの分野の最前線を学ぶために必要となる知識を修得します。
- ・4年次には、大学院への接続も踏まえて各分野の先端的内容を学びます。また、卒業研究では、選択した分野の最前線を学び、独自の研究テーマに取り組むことで、問題発見と解決能力・創造力・論理的思考能力・表現力を磨きあげてゆきます。

なお、学修の成果は、各科目の成績評価とともに本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

物理学科・物理学プログラム

本プログラムは、積み上げの学問である物理学の知識・能力・技能を習得するため、教養教育科目、専門基礎科目、専門科目の階層化された科目群により構成されています。また、専門基礎科目までは物理学に閉じることなく、理学一般に通用する基礎学力を習得できる編成となっています。専門基礎科目では、講義科目に対応する演習科目を設け、物理学の理解と活用力を育成します。

なお、学修の成果は、各科目の成績評価と共に本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。教育課程は次の方針を基に編成、実施します。

- ・物理数学、力学、電磁気学、量子力学、熱統計力学などの専門基礎科目の履修により、物理学の基礎を身につける。さらに、より専門的に高度な内容の専門科目の履修により、専門分野の知識と理解を深める。また、物理学実験を通して実験技術の習得を行います。
- ・物理学実験や卒業研究を通して、実験データやモデル計算の結果に対して、物理学の知識・能力・技能を駆使して自ら論理的に考えることができる能力を養成します。
- ・教養教育科目、セミナー、卒業研究を通して、物理学に限らず、広い視野と倫理観を持って、科学研究、教育、実業の幅広い分野で活躍することができる素養を養います。
- ・外国語授業、セミナー、卒業研究を通して、国際的な感覚を持ち、科学的な内容に関する報告や議論、プレゼンテーションなどを英語で行うことができる能力を養成します。

化学科・化学プログラム

本プログラムでは、ディプロマ・ポリシーが掲げる目標を実現するために、広島文理科大学からの伝統を受け継ぐ体系化された質の高い教育プログラムを準備しており、学生の習熟度などに配慮しながら柔軟に対応できる実施体制を整えています。そして、年度ごとに実施後の点検評価をして常に教育方法の改善に心掛けています。また、この教育プログラムは、大学院でのさらに先端的な教育と研究にスムーズにつながるよう設計されています。なお、学修の成果は、各科目の成績評価と共に本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。各年次の教育方針と、実施する教育課程は以下のとおりです。

- ・1年次には、専門教育科目として数学、物理学、生物学、地球惑星科学の各概説科目を履修し、自然科学の広い分野の基礎知識を学びます。これにより、既存の枠組みを越えた、学際的な領域を開拓できる素養を身につけます。また英語を中心とした外国語教育によって、自身の思考内容や論理展開を外国語で表現するための基礎力を養います。教養教育では、幅広い教養と総合的な判断力を養うことで、豊かな人間性を育むことを目指します。一方、化学専門基礎では、高等学校までに習得した化学・物理学・生物学・数学の基礎知識を再確認することで、より進んだ化学の修得に備えます。また、化学のすべての領域に必要とされる量子化学の初歩を習得します。
- ・2年次では、より深い化学的知識を得るために本格的な化学の専門教育を行います。これにより、新しい化学分野を創造するために必要な基礎能力を向上させます。化学の基本分野である物理化学、無機・分析化学、有機化学について、複数の教員が一貫して同じ教科書を用い、それぞれの分野を体系的に学ぶことができます。
- ・3年次では、化学実験の実習を通年で行います。これにより、個々の化学的技能の向上を図るとともに、課題完遂まで継続して努力する能力を養います。また、より応用面に繋がる化学分野の科目や、世界の第一線で展開されている先端化学について学びます。これにより、人類の直面する諸問題を解決する上で化学が果たす役割を知り、地域社会や国際社会において主導的な活動をするための創造力と実践力の基礎能力を養います。
- ・4年次では、化学科の研究グループにおいて卒業研究を実施し、成果の発表を行います。これにより、教員や学生などと協同して自らが主体的に研究を進めていく能力、未知の性質や現象を客観的に眺め、その要因や機構を論理的に説明する能力、得られた化学的知見を説得力ある言葉で表現する能力、及び他者との議論により自らの理解を修正・改善する能力を養います。加えて卒業後に産業界、教育界、学会、大学院など化学関連各分野の第一線で活躍できる基盤を固めます。

生物科学科・生物学プログラム

本プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる到達目標を実現するために、広島文理科大学からの伝統を引き継ぐとともに現代生物学の概念と手法の加味された質の高い教育プログラムを通して、学生が意欲的かつ主体的に学習に取り組めるよう、教育体制を整えています。

- ・1年次では、教養教育科目を通じて一般教養を涵養するとともに、「基礎生物科学A・B」などの専門科目を通して生物学の基礎を学びます。
- ・主に2，3年次で履修する専門科目は、分子・細胞から個体・集団レベルまでの生物学の様々な分野に関わる内容を含んでいます。その多くは選択必修となっており、学生が主体的に学習することで専門知識を修得します。
- ・2，3年次では、「生物科学基礎実験I～IV」を通して実験技術の基礎を学ぶとともに、実験結果をもとにした考察、討論を行い、報告書を作成します。
- ・「生物科学英語演習」、「生物科学セミナー」、専門科目の演習等を通じ、専門英語の基礎を学びます。
- ・最終年次では、配属された研究室で卒業研究を行い、最新の生物学の研究課題に取り組みます。その過程で生物学の研究に用いられる実験技術を習得します。さらに主体的に行った研究の成果を卒業論文としてまとめ、卒業論文発表会で発表し、生物科学科教員の評価を受けます。

なお、学修の成果は、各科目の成績評価と共に本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

地球惑星システム学科・地球惑星システム学プログラム

本プログラムは、地球惑星科学の様々な分野の融合である地球惑星システム学について、まず基礎を幅広く学んだうえで、その後専門性を深めていく構成になっています。

- ・1年次では、教養及び専門基礎教育において数学、物理学、化学、生物学、地球惑星科学の基礎を幅広く学び、英語を中心とした語学と情報処理の基礎を学ぶことで、地球惑星システム学に必要な基礎力を身につけます。教養ゼミと野外巡検で地質に関する基礎知識を身につけます。
- ・2年次では、専門教育において地質学、地球惑星内部物理学、宇宙地球化学の基礎を学び、地球惑星システム学の幅広い分野に対応できる専門的基礎力を身につけます。英語については地球惑星科学に特化した授業により専門で役に立つ英語の基礎を身につけます。野外巡検では1年次とは異なるフィールドで地質に関する知識を広げます。
- ・3年次では、専門教育の選択科目を中心に講義と演習で専門性を深めます。英語については地球惑星科学に特化した授業により専門で役に立つ英語を身につけます。実習としては地質調査と室内実験を行うことで、野外観察、データ処理、レポートの作成、プレゼンテーションなど研究活動に必要な実践的能力を身につけます。
- ・4年次では、研究室に所属して各自のテーマで卒業研究を行います。研究室での活動を通して専門分野に関わる知識や技術を身につけるのに加えて、セミナーや発表練習などでコミュニケーションとプレゼンテーションの能力を育みます。

なお、学修の成果は、各科目の成績評価と共に本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/09>

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/005> (学部第3年次編入学試験)

(概要)

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

理学部では、自然の真理解明のための基礎的知識、基本的手法と技術及び論理的思考力を培い、幅広い科学的素養を身につけた人材の育成を目指しており、次のような学生を求めています。

- (1) 自然科学に関する基礎的な知識と理解力を備えており、特に高等学校教育課程の数学と理科において高い学力を身につけた人
- (2) 自然界への知的好奇心に満ち、課題の発見と解決に積極的に取り組み、真理解明への探究心の旺盛な人。より高度な専門知識と技術を身につけて創造性を発揮する勉学意欲にあふれている人
- (3) 大学での学修のために必要な文章読解力と語学力を持ち、学修・研究対象について論理的に思考できる人。また、得た結論を日本語及び外国語で論理的にわかりやすく表現しようとする人
- (4) 将来、修得した科学的素養を活かして社会において指導的役割を果たすことを目指す人。専門性と独創性を磨き、大学院進学も視野に入れて研究者・技術者・教育者になることを希望する人

2 入学者選抜の基本方針

理学部には、学生の多様なニーズに応え、卒業後の幅広い進路に対応するために数学科・物理学科・化学科・生物科学科・地球惑星システム学科の5学科を設置しており、各学科で編成している主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位（学科）のアドミッション・ポリシー

理学部 数学科

1 求める学生像

本学科が編成している数学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校等のカリキュラムに沿って数学における基礎的な知識を身につけた人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、数学をはじめとする大学での学修のために欠かせない文章読解力、具体的な場面で知識や技能を適切に応用できる思考力と数学センス、そして自分の考えを論理的に表現する能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、個性豊かに探求心に満ち、主体性を持って数学を学ぶ意欲にあふれた人。また、積極的に数学科の仲間と議論し、難しい課題にも意欲的に取り組み、数学科の仲間をリードして数学科を元気にしてくれる人

なお、第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ① 「数学I」，「数学II」，「数学III」，「数学A（図形の性質，場合の数と確率）」，「数学B（数列）」，「数学C（ベクトル，平面上の曲線と複素数平面）」を習得し，よく身につけておくこと
- ② 「物理基礎・物理」，「化学基礎・化学」，「生物基礎・生物」，「地学基礎・地学」のうち2科目以上を習得し，残りの科目も基礎知識を身につけておくこと
- ③ 数学を学ぶために必要な外国語を習得しておくこと
- ④ 国語については数学を学ぶために必要な読解力・表現力・コミュニケーション能力を身につけておくこと

また、入学後はまず数学の論理的な基礎を修得し、それをもとに代数・解析・幾何等現代数学の諸分野の基礎理論の本質を厳密に学び、代数学・幾何学・解析学・確率統計学・応用数学から選択した科目で必要となる知識を修得したのち、各分野の先端的内容を学んで独自の研究テーマに取り組む卒業研究を行います。数学に関する専門的な知識と技能を備えた研究者・教育者・技術者として社会で活躍することを目指す学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程，後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 I型，国際バカロレア型，外国人留学生型2月実施，3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目							
区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)		知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)		主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)	
一般選抜	前期日程	○	大学入学共通テスト、個別学力検査	○	大学入学共通テスト、個別学力検査		
	後期日程	○	大学入学共通テスト、個別学力検査	○	大学入学共通テスト、個別学力検査		
広島大学 光り輝き 入試	総合型選抜 I 型	○	筆記試験、面接	○	筆記試験、面接	○	面接、調査書、自己推薦書
	総合型選抜 国際パカローレア型	○	筆記試験、面接、IB最終試験6科目の成績評価証明書	○	筆記試験、面接、IB最終試験6科目の成績評価証明書	○	面接、志望理由書
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○	日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○	日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査		
	総合型選抜 外国人留学生型 3月実施	○	日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○	日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査		

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本学科が編成している数学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校等のカリキュラムに沿って数学における基礎的な知識を身につけた人
- (2) 思考力・判断力、表現力等の能力については、数学をはじめとする大学での学修のために欠かせない文章読解力、具体的な場面で知識や技能を適切に応用できる思考力と数学センス、そして自分の考えを論理的に表現する能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、個性豊かに探求心に満ち、主体性を持って数学を学ぶ意欲にあふれた人。また、積極的に数学科の仲間と議論し、難しい課題にも意欲的に取り組み、数学科の仲間をリードして数学科を元気にしてくれる人

なお、第3年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- (1) 高等学校で学ぶ数学（数学 I・数学 II・数学 III・数学 A・数学 B（数列、ベクトル）など）について理解し、さらに大学教養科目程度の微分積分学、線形代数学に加え、現代数学を学ぶために必要となる集合、写像、論理などに関する基礎知識、さらに計算機などの情報機器についての運用能力の基礎を身につけておくこと
- (2) 数学科第3年次生が求められる論理的な思考力、数学的基礎能力（概念理解力・計算力・論証力）を身につけておくこと
- (3) 数学を学ぶために必要な外国語を修得しておくこと
- (4) 第3年次生として数学を学ぶために必要な読解力・表現力・コミュニケーション能力に加え、人文・社会・自然・情報など幅広い教養と総合的な判断力を身につけておくこと

また、入学後は第3年次生として編入され、数学科3年次生と共に学びます。これまでの学習状況に応じて微分積分学、線形代数学、集合論、位相空間論など第2年次生までに学ぶ数学の基礎的な科目についても同時進行で学ぶことがあります。このように、大学で学ぶ数学の基礎を固めながら代数・解析・幾何等現代数学の諸分野の基礎理論の本質を厳密に学びます。編入学生については入学時に担当チューターと履修計画について個別面談により決めていきます。さらに、代数学・幾何学・解析学・確率統計学・応用数学から選択した科目で必要となる知識を習得したのち、各分野の先端的内容を学んで独自の研究テーマに取り組む卒業研究を行います。数学に関する専門的な知識と技能を備えた研究者・教育者・技術者として社会で活躍することを目指す学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

筆記試験（100点満点）に、面接（段階評価）と学業成績（成績証明書による書類審査、段階評価）を加味して、総合的に判定します。

関心・意欲・態度

数学への興味・関心や、これまで意欲的に学んだ内容について、面接により評価します。

知識・技能

第3年次編入学生として数学について専門的に学ぶために必要な知識を有し、数学プログラムのカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力が備わっているかを、筆記試験及び面接により評価します。筆記試験では微積分・線形代数について、基礎学力及び概念や論理的思考の習熟度をみる問題を出題します。

思考力・判断力・表現力

知識を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を有し、数学プログラムのカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を備わっているかを、筆記試験及び面接により評価します。

主体性・協働性

これまで主体的に数学を学んできたか、また数学的コミュニケーション能力を持って数学科3年次生として同学年の仲間や教員と論理的に議論し、意欲的に問題に取り組めるか、面接により評価します。

理学部 物理学科

1 求める学生像

本学科が編成している物理学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、物理学の基礎を学ぶために必要な、高等学校段階の物理学、数学についての高い学力を持つ人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、実験や計算などの課題に取り組むのに必要な、自らの知識・能力・技能を駆使して、論理的に考える能力を持つ人
- (3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度については、幅広い分野で活躍するために必要な、コミュニケーション能力、特に英語について高い能力を持つ人

なお、第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ①物理学の基礎を学ぶために必要な、高等学校段階の物理学について、理解を深めること
- ②物理学の基礎を学ぶために必要な、高等学校段階の数学について、理解を深めること
- ③物理学を学ぶために必要な、外国語を習得しておくこと
- ④物理学を学ぶために必要な、日本語の必要な読解力・表現力・コミュニケーション能力を身につけておくこと

また、入学後には、階層化された科目群による物理学の知識・能力・技能の修得、理学一般に通用する基礎学力の習得に意欲的に取り組み、大学院におけるより専門的な教育・研究に必要な能力を身につけることのできる学生、またそれらの知識や経験を活かして、将来、国公立研究機関の研究者や企業の技術職として社会で活躍することを目指す学生を

求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程，後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型，国際バカロレア型，外国人留学生型2月実施，3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜 II型	○ 大学入学共通テスト，口頭試問，調査書	○ 大学入学共通テスト，口頭試問，面接，調査書	○ 面接，調査書，自己推薦書
	総合型選抜 国際バカロレア型	○ IB 最終試験6科目の成績評価証明書，口頭試問	○ IB 最終試験6科目の成績評価証明書，口頭試問，面接	○ IB 最終試験6科目の成績評価証明書，志望理由書，面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 個別学力検査	○ 日本留学試験，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等，個別学力検査	
	総合型選抜 外国人留学生型 3月実施	○ 個別学力検査	○ 日本留学試験，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等，個別学力検査	

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本学科が編成している物理学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、3年次編入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、専門的な物理学を学ぶために必要な、大学専門基礎段階の物理学，数学についての高い学力を持つ人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、実験や計算などの課題に取り組むのに必要な、自らの知識・能力・技能を駆使して、論理的に考える能力を持つ人
- (3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度については、幅広い分野で活躍するために必要な、コミュニケーション能力，特に英語について高い能力を持つ人

なお、3年次編入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ①専門的な物理学を学ぶために必要な、大学専門基礎段階の物理学について、理解を深めること

- ②専門的な物理学を学ぶために必要な、大学教養科目段階の数学について、理解を深めること
- ③物理学を学ぶために必要な、外国語を習得しておくこと
- ④物理学を学ぶために必要な、日本語の必要な読解力・表現力・コミュニケーション能力を身につけておくこと

また、3年次編入学後には、階層化された科目群による物理学の知識・能力・技能の修得、理学一般に通用する基礎学力の習得に意欲的に取り組み、大学院におけるより専門的な教育・研究に必要な能力を身につけることのできる学生、またそれらの知識や経験を活かして、将来、国公立研究機関の研究者や企業の技術職として社会で活躍することを目指す学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入するための専門的知識を修得していることを確認し、本学科のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために、口頭試問と面接を課します。入学者の選考は、口頭試問、面接、学業成績及びTOEIC(R)L&Rのスコアをそれぞれ段階評価し、総合的に判定します。

理学部 化学科

1 求める学生像

本学科が編成している化学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、物質の化学的性質を原子や分子の性質に基づいて説明する能力、物質が示す化学的現象を基本的な原理や普遍的な法則に基づいて説明する能力及び基本的な化学実験器具を操作する技能を、暗記や記憶に頼ることなく書籍や実験を通じて論理的な思考の積み重ねにより身につけた人
- (2) 思考力・判断力・表現力等については、物質が示す性質や現象を客観的に眺め、その要因や機構を矛盾や飛躍のない論理展開に基づいて明らかにする判断力及び日本語又は外国語により自らの思考内容や論理展開を説得力ある言葉で表現する能力を、化学だけでなく数学や理科の知識と関連づけて学習することにより身につけた人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、独学により深く正確な理解に到達しようと努力を継続する能力及び教員や生徒との議論により獲得した考え方に基づいて自らの理解を修正・改善する能力を、他者との相対評価や競争意識に基づくのではなく、自らが設定した学習到達目標の実現を目指すことにより身につけた人

なお、第1年次の入学前に習得しておくべき科目や身につけておくべき能力等は以下のとおりです。

- ①「化学基礎・化学」(必須)、「物理基礎・物理」,「生物基礎・生物」,「地学基礎・地学」から2科目以上を習得。習得しなかった科目についても基礎的な内容を学習しておくことが望ましい
- ②「数学I」,「数学II」,「数学III」,「数学A(図形の性質, 場合の数と確率)」,「数学B(数列)」,「数学C(ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面)」を習得。化学に関する諸現象を数式で表現し解析する能力
- ③国語及び外国語の科目については、研究論文を読解するための語学力, 実験レポートや研究論文の作成及び研究発表を行うための表現力, 作文力, コミュニケーション能力
- ④地理歴史又は公民の科目については、自分自身と国内外の社会との関わりを思考するための基礎知識

また、入学後に、自然界で観測されるマクロな現象をミクロな原子や分子の性質や運動に基づいて理解する能力を、微分・積分及び確率を主体とする数学の基本的な技能に基づいて身につけることのできる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針
 本学科では、以下の入学者選抜を実施します。
 ・一般選抜 前期日程、後期日程
 ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型、外国人留学生型2月実施、3月実施
 各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 大学入学共通テスト、面接	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜 II型	○ 大学入学共通テスト、調査書、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト、自己推薦書、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査、日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	
	総合型選抜 外国人留学生型 3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、面接	○ 面接、日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜 II型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本学科が編成している化学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、物質の化学的性質を原子や分子の性質に基づいて説明する能力、物質が示す化学的現象を基本的な原理や普遍的な法則に基づいて説明する能力、及び基本的な化学実験器具を操作する技能を、暗記や記憶に頼ることなく書籍や実験を通じて論理的な思考の積み重ねにより身につけた人
- (2) 思考力・判断力・表現力等については、物質が示す性質や現象を客観的に眺め、その要因や機構を矛盾や飛躍のない論理展開に基づいて明らかにする判断力、及び日本語又は外国語により自らの思考内容や論理展開を説得力ある言葉で表現する能力を、化学だけでなく数学や理科の知識と関連づけて学習することにより身につけた人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、独学により深く正確な理解に到達しようと努力を継続する能力、及び教員や生徒との議論により獲得した考え方に基づいて自らの理解を修正・改善する能力を、他者との相対評価や競争意識に基づくのではなく、自らが設定した学習到達目標の実現を目指すことにより身につけた人

た人

なお、第3年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ①無機化学，分析化学，物理化学，有機化学の専門的知識や技法を学ぶために必要な専門基礎
- ②線形代数や微積分など，化学に関する諸現象を数式で表現して議論するために必要となる一般数学
- ③研究論文を読解するのに必要な外国語（英語），実験レポートや研究論文の作成及び研究成果の発表に必要な論理的表現，文章構成技術，コミュニケーション技術
- ④専門的な化学実験を実施するために基本となる実験技術

また，第3年次の入学後により高度なあるいは応用面に繋がる化学分野の専門知識・技能を修得し，最先端の研究の遂行に主体性をもって取り組み，その結果得られた化学的知見を論理的に表現することのできる学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入するための専門的知識を修得していることを確認し，本学科のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために，口頭試問と面接を課します。入学者の選考は，口頭試問，面接，学業成績及びTOEIC(R)L&Rのスコアをそれぞれ段階評価し，総合的に判定します。

理学部 生物科学科

1 求める学生像

本学科が編成している生物学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ，入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については，大学において生物学を学ぶために必要な基礎学力，あるいは国際生物学オリンピックなどの生物学に関連したコンテストや各種シンポジウムに参加し，優秀な成績をおさめる能力
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については，生物や生物学が関わる自然現象について論理的に思考し，表現できる能力
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については，生命現象に関する課題を生物科学科の教員や学生と話し合いながら主体的に探求し，解決する能力

なお，第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は，以下のとおりです。

- ①論理的思考と表現力の基礎である国語については，実験レポートや研究論文を作成するための読解，表現およびコミュニケーション方法
- ②「生物基礎・生物」，「物理基礎・物理」，「化学基礎・化学」から2科目以上を習得して，自然現象を理解するために必要な基礎知識
- ③「数学I」，「数学II」，「数学III」，「数学A（図形の性質，場合の数と確率）」，「数学B（数列）」，「数学C（ベクトル，平面上の曲線と複素数平面）」を学習し，生物学の諸現象を数学的に考察して処理する基礎知識
- ④生命現象の観察や実験等を通じて，問題を探究・解決する方法
- ⑤英語で記述された基礎的な生物学教科書の読解
- ⑥生物学研究に必要な論理的思考方法

また，入学後には，分子・細胞レベルから個体・集団レベルにみられる生物学的要素や事象を体系的に学修できる基礎生物学教育（講義や実習）を履修する。これにより生物学の高度な専門知識・技術を身につけ，生物や生命現象を多角的に捉えることができる学生，更にそれらの知識や経験を活かして，将来研究者あるいは高度な専門性をもつ技術者として社会で活躍することを目指す学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本学科では，以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型, 外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜 II型	○ 大学入学共通テスト, 調査書, 面接, 本学が指定する英語民間試験の成績証明書, グローバルサイエンスキャンパス修了証, 日本生物学オリンピックにおける成績等 (※)	○ 大学入学共通テスト, 自己推薦書, 面接	○ 調査書, 自己推薦書, 面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験, 本学が指定する英語民間試験の成績証明書等, 個別学力検査	○ 個別学力検査	

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜 II型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、グローバルサイエンスキャンパス修了証、日本生物学オリンピックにおける成績の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本学科が編成している生物学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、大学において生物学を学ぶために必要な基礎学力
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、生物や生物学に関わる自然現象について論理的に思考し、表現できる能力
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、生命現象に関する課題を生物科学科の教員や学生と話し合いながら主体的に探究し、解決する能力

なお、第3年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ① 大学において生物学を学ぶために必要な基礎知識
- ② 英語で記述された基礎的な生物学教科書の読解
- ③ 実験レポート等の作成方法
- ④ 生命現象の観察や実験等を通じて、問題を探究・解決する方法
- ⑤ 生物学研究に必要な論理的思考方法

また、第3年次の入学後には、分子・細胞レベルから個体・集団レベルにみられる生物学的要素や事象を体系的に学修できる基礎生物学教育（講義や実習）を履修する。これにより生物学の高度な専門知識・技術を身につけ、生物や生命現象を多角的に捉えることができる学生、更にそれらの知識や経験を活かして、将来研究者あるいは高度な専門性をもつ技術者として社会で活躍することを目指す学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入するための専門的知識及び語学力を修得していることを確認し、本学科のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために、口頭試問と面接を課します。入学者の選考は、口頭試問、面接、学業成績及び TOEIC(R)L&R のスコアをそれぞれ段階評価し、総合的に判定します。

理学部 地球惑星システム学科

1 求める学生像

本学科が編成している地球惑星システム学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、基礎学力を備え、幅広い分野に科学的な好奇心をもち、探究心や勉学意欲の強い人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、地球や惑星における様々なプロセスを総合的に理解する学問である地球惑星システム学に興味をもち、また問題を自ら発見し解決へと導ける能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、地球或いは惑星スケールの自然現象を対象とするため、グローバルな視野をもち国際的な場で活躍を希望する人

なお、第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ① 論理的思考と表現力の基礎である国語については、実験レポートや研究論文作成のための読解力、表現力、コミュニケーション能力
- ② 論理的に科学を思考する能力
- ③ 地球惑星システム学を学ぶために必要な基礎的な英語力
- ④ 理科4科目から「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」のいずれかを含む2科目以上を習得。自然界でみられる現象を理解するために必要な基礎知識
- ⑤ 「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A（図形の性質、場合の数と確率）」、「数学B（数列）」、「数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）」を習得。地球惑星システム学の諸現象を数学的に考察し処理する基礎的な能力
- ⑥ 地球惑星システム学が関連する現象の観察や実験等を通じて、自然科学に対する関心や探究心を高め、探求する能力と態度

また、入学後には、地球惑星システム学が関連する諸現象を理解するための知識や方法論を修得し、自然界にみられる複雑な現象のなかで問題の本質を捉え、その問題の解決にあたる能力を身につける学生、またそれらの知識や経験を活かし、将来、研究者・技術者・教育者として社会で活躍することを目指す学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・ 一般選抜 前期日程、後期日程
- ・ 広島大学光り輝き入試 総合型選抜 I型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目							
区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)		知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)		主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)	
一般選抜	前期日程	○	大学入学共通テスト、個別学力検査	○	大学入学共通テスト、個別学力検査		
	後期日程	○	大学入学共通テスト	○	大学入学共通テスト、面接	○	面接
広島大学 光り輝き入試	総合型選抜 I 型	○	出願書類(地学オリンピック日本委員会の発行する個人成績証明書を含む)、口頭試問	○	口頭試問、面接	○	面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○	日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○	個別学力検査		
	総合型選抜 外国人留学生型 3月実施	○	日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、面接	○	面接	○	面接

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本学科が編成している地球惑星システム学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、基礎学力を備え、幅広い分野に科学的好奇心をもち、探究心や勉学意欲の強い人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、地球や惑星における様々なプロセスを総合的に理解する学問である地球惑星システム学に興味をもち、また問題を自ら発見し解決へと導ける能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、地球或いは惑星スケールの自然現象を対象とするため、グローバルな視野をもち国際的な場で活躍を希望する人

なお、第3年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ①地球惑星システム学が関連する現象の観察や実験等を通じて、自然科学に対する関心や探究心を高め、探求する能力と態度を有すること
- ②地学、物理、化学、生物の基礎的知識を有していること
- ③地学、物理、化学、生物のうち2科目以上の実験科目を履修していること
- ④微積分、線形代数、統計のうち2科目以上の数学科目を履修していること
- ⑤論理的思考と表現力の基礎である国語については、実験レポートや研究論文作成のための読解力、表現力、コミュニケーション能力が十分であること
- ⑥英語で書かれた基礎的な地球科学の教科書を読解できること
- ⑦論理的に科学を思考する能力を有すること

また、入学後には、地球惑星システム学が関連する諸現象を理解するための知識や方法

論を修得し、自然界にみられる複雑な現象のなかで問題の本質を捉え、その問題の解決にあたる能力を身につける学生、またそれらの知識や経験を活かし、将来、研究者・技術者・教育者として社会で活躍することを目指す学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入するための専門的知識を修得していることを確認し、本学科のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために、口頭試問と面接を課します。入学者の選考は、口頭試問、面接、学業成績及び TOEIC(R) L&R のスコアをそれぞれ段階評価し、総合的に判定します。

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、医学・医療、保健、福祉の実践者にふさわしい豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、専門職となるための基礎的知識、技能、態度を習得し、さらには科学的思考力と創造性に富み、地域の医療にも関心が深く、かつ国際性豊かな人材を育成することを目的とする。</p> <p><u>医学科</u></p> <p>医学科は、医師及び医学研究者を育成し、社会に貢献することを目的とする。</p> <p><u>保健学科</u></p> <p>保健学科は、看護師・保健師・助産師、理学療法士及び作業療法士領域の優れた人材を育成し、社会に貢献することを目的とする。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/10 ）
<p>（概要）</p> <p><u>医学科・医学プログラム</u></p> <p>医学科において、卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療専門職としての責任感、使命感、倫理観、誠実さ、熱意を備え、患者に共感し思いやりをもっていること。 2) 人体の正常構造と機能、ヒトの健康を正しく理解し、疾患の病因、経過、診断・治療法について十分な知識をもち、医師として診療にあたるうえで必要な医学的知識基盤を備えていること。 3) 基本的診察技能を身につけ、必要な情報を適切に聞き出し要約できる問診技能や問題志向型診療録を記載する技能を備えていること。 4) 自ら問題点をみつけてそれを解決する能力を有すること。また、自身の知識や技能の限界を把握し、生涯にわたって自らの努力で向上し続ける意欲と学習の習慣を身につけていること。 5) 患者や家族、周囲の医療スタッフと良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を備えていること。 6) 地域社会における健康の保持・増進のために医師の果たすべき社会的役割と責務を正しく理解していること。また、保健医療制度を正しく理解し、地域および行政と連携して地域医療に貢献する能力を有していること。 7) 医学・医療の発展のために生命科学としての医学研究が重要であることを認識し、研究の計画、実施、結果の解析、発表までの具体的な過程を経験し、そのために必要な手法を修得していること。また、自ら医学の発展に寄与しようとする気概を有していること。 8) 医学のグローバル化に対応した実践的な英語能力、国際交流能力を有すること。 <p>6年間にわたる必修科目すべての履修と所定の単位修得を通してこれらの能力を身につけ、卒業試験に合格した者に対し、学士（医学）の学位を授与する。</p> <p><u>保健学科・看護学プログラム</u></p> <p>看護学プログラムでは、看護専門職者としての基礎的知識、技能、態度を修得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮できる人材を養成する。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（看護学）」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の基盤となる人間・健康・環境・看護実践理論を理解し、必要な知識を習得する。 2) 援助的関係を形成するために必要な能力を習得する。

- 3) 看護実践において科学的に判断し、計画的に実施する能力を習得する。
- 4) 看護実践において生命や人の尊厳を重視し、人権を擁護する倫理的判断能力を習得する。
- 5) 看護職者として、特定の健康課題に対応する実践能力を習得する。
- 6) 他職種と連携・協働し、保健医療福祉組織における看護職者としての役割を果たす実践基礎能力を習得する。
- 7) 看護学の発展に寄与する専門職者として研鑽し続けるための基本姿勢を習得する。

保健学科・理学療法学プログラム

理学療法学プログラムでは、専門職の理学療法士としての基礎知識、技能、態度を修得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成する。

そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる146単位を修得した学生に「学士（保健学）」の学位を授与する。

プログラムの到達目標

- 1) 理学療法の基礎となる基礎医学の理解により、理学療法の土台を築くことができる。
- 2) その土台の上に立ち、理学療法の対象疾患・患者を理解できる。
- 3) それらの知識を活用し、自ら問題を発見し追求・解決することができる。
- 4) それらの知識を活用し、理学療法士として必要な実践的な解決能力・技能が身につけている。
- 5) 安全性や倫理性に配慮した患者中心の理学療法を実践することができる。
- 6) 患者や医師、メディカルスタッフに信頼される人間関係を構築できる。

保健学科・作業療法学プログラム

作業療法学プログラムでは、専門職の作業療法士としての基礎知識、技能、態度を修得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断能力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指した教養教育課程の定める基準となる単位数を修得し、且つ以下の能力を身につけ、専門教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（保健学）」の学位を授与します。

- 1) 作業的存在としての人間を探求し、ひとが作業を通して健康で幸福な生活を行うための種々の理論や技術を獲得している。
- 2) 作業療法の実践に必要な基本的知識と技能を修得することに加え、作業遂行の課題を的確に捉え、その解決のために広範な知識を統合できる能力を身につけている。
- 3) 専門職として、人々の権利や主体性を尊重し、臨床における倫理的、誠實的、共感的、献身的な態度を有し、他職種との協力や専門職発展への献身などにも対応できる能力を身につけている。
- 4) 国際社会および地域社会の変化に対して対応できる、また常に科学的な思考を持って臨床場面で生じる課題と向き合う基礎的な能力を備えている。
- 5) 変化する社会的ニーズを的確に捉え、生涯にわたって自らの知識、技術、態度を評価し、自ら学び続ける創造的な姿勢と習慣を身につけることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/10>）

（概要）

医学科・医学プログラム

- 1) 医師としての豊かな人間性を涵養し、また、専門職職業人（プロフェッショナル）として人々の健康を守る使命感・責任感を陶冶するため、6年間を一体とする計画的な専門職養成教育を行う。また、入学後早期から実際の医療現場に接する実習を行うことで、医師の仕事と他の医療職の業務を理解し、医師となるべき心構えと医師のあるべき態度を自ら考え自覚することを促す。
- 2) 将来、どの専門分野に進もうと、その土台となる幅広い知識と技能を身につけるため、

統合的な講義体系を組み、専門分野の概念にとらわれない教育を行う。また、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠する教育計画のもと、基本的な知識や技能を遺漏なく体系的に修得させる。

- 3) 臨床実習には見学型および診療参加型実習を採用し、医療現場で医師としての業務を体験することで知識・技能・態度を実践的に学ぶ。これらを統合して診療にあたる能力を身につけることで、卒業後の臨床研修に連続して移行できる診療能力を確立させる。
- 4) PBL(Problem-based learning)テュートリアルやTBL(Team-based learning)などのグループワーク教育により、学生自身が何をどれだけ学ぶかを考えながら学習を進められるような主体的な学習姿勢を養う。また自ら問題点を見つけそれを解決する姿勢と能力の確立も目指す。このため、知識伝達型講義は全授業時間の半分程度とし、残りは演習や小グループによるディスカッションとする。これらを通して、生涯にわたって自らの努力で向上し続ける意欲と学習の習慣を修得する。
- 5) 低学年のうちからグループ学習を積極的に取り入れることで、協働することの重要性を学び、チームの一員として責任をもってチームに貢献する姿勢の確立を図る。また、信頼関係に根ざした良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を修得するため、診療参加型実習によって患者との良好な人間関係を築く技術を修得させる。
- 6) 疾病の予防や健康に関する問題を社会の中で捉え、保健制度や医療経済についても十分な知識を持たせるため、演習や実習を通じて保健医療制度における医師の役割や責務への理解を促す。また、地域医療実習によって地域社会における医師の果たす役割を理解させ、すべての学生が県内各地域の医療機関で実習することで医療と地域住民の生活との関係を理解し、地域の抱える保健・医療上の問題を認識させる。
- 7) 科学的な思考と方法論を十分身につけるため、臨床診療を行うための知識や診療技術の教授と並行して、医学研究にも参画させる。これにより、医学研究の意義と重要性を理解し、自らも医学の発展に寄与しようとする気概と研究心を養う。
- 8) 入学時に全学生にTOEIC(R)IPテストを受験させ、個々の英語力を評価し、外国語教育研究センターの教員による英語の集中講義を取り入れ、臨床で役立つ実践的な英語力を養い、英語による高いレベルのコミュニケーション能力を修得させる。また、医学研究実習では、海外の研究施設で研究を行うことも選択させ、研究活動を行いながら国際交流能力の向上を図る機会を設ける。
- 9) 社会人としての幅広い教養を備え、また、医学的問題を幅広い視野からとらえる能力を併せ持つため、広い視点での教養教育を行う。また、化学、物理学など、高校で学ばない科目があることで専門教育に支障をきたさないよう、高校での未修得科目に対する補充教育も行う。さらに広島という独自の地域性を考慮しつつ、グローバルな視野で常に平和を希求する人材を養成するための教養教育も行う。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

保健学科・看護学プログラム

本プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。

第1ステップ：1年次で、「豊かな人間性と幅広い教養、専門科目を支える教養教育科目」「人間の心身の機能に関する専門基礎科目」「看護実践の基礎となる専門科目」を履修し、複眼的な視野で広範な教養を育むとともに、健康と看護について深く探求するための基礎的知識を習得する。

第2ステップ：2年次に、「疾病の予防、発症、治癒に関する専門基礎および専門科目」「健康と環境に関する専門科目」「看護基礎技術に関する専門科目」「ヘルスケアシステムに関する専門科目」の科目群を中心に学習を進め、看護学に関する専門知識や人々との援助的関係を形成するために必要な能力を

深める。

第3ステップ：3年次第1・2タームに、「個人と家族、地域の健康問題と看護に関する専門科目」を履修し、看護実践者として科学的に判断し計画的に実施するための基礎的能力を育成する。

第4ステップ：3年次第3・4タームと4年次第1・2タームで、「看護実践上の判断能力を習得するための臨地実習」を履修し、看護実践者に必要な基礎的能力と、保健医療福祉組織の中で他職種と連携・協働し、看護職者としての役割を果たす実践基礎能力を育成する。また、4年次第3・4タームでは、「看護教育学概説」「卒業研究」を通して、より包括的に看護学を考究し、問題の発見と解決に向けた探求の基本姿勢を育成する。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

保健学科・理学療法学プログラム

理学療法学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。

- ・1年次には、教養教育科目を通して教養、基礎学力の醸成を行うと同時に、専門基礎科目である「解剖学」「生理学」「リハビリテーション科学入門」「リハビリテーション概論」「発達障害学」、さらに専門科目である「理学療法概論」「物理療法学」も開講され、入学当初より理学療法的発想のもとで問題の発見と解決に向けた探求の基本姿勢を育む。
- ・2年次には、理学療法学の学問的背景や基礎となる授業が中心となり、主に「解剖学実習」「生理学実習」「基礎運動学」「リハビリテーション内科学」「リハビリテーション整形外科学」「基礎理学療法学」「運動系理学療法学」「神経系理学療法学」「機能能力診断学」「補装具学」などの必修科目が開講され、これらの科目を通して専門分野の基礎知識と技能・態度を修得する。また夏季には、2週間の臨地見学実習「臨床実習（I）」が計画されており、早期より医療機関や介護福祉施設の実際の現場をみて、理学療法を学ぶことができる。
- ・3年次には、主に「臨床運動学」「機能能力診断学実習」「運動系理学療法学実習」「神経系理学療法学演習」「内部障害リハビリテーション学」「補装具学演習」「日常生活活動学」「職業倫理・職場管理学」などの専門科目が開講されており、理学療法を展開するために必要となる、情報の収集・評価・報告および根拠に基づいた治療に関する基礎知識と技能・態度を修得する。さらに、2度の短期臨地実習「臨床実習（II）」が計画されており、学問分野と実務との関連についての理解を深め、より具体的な課題への取り組み方について学ぶことができる。
- ・4年次には、長期の臨地実習「臨床実習（III）」が計画されている。3年次までの教育課程で学んだ知識、技能、態度と理学療法過程を、実習施設において指導者による指導を受けながら理学療法の実践を行い、実践に適合した知識、技能、態度の統合を確立する。また、安全性や生命倫理に対する判断力、医療チームの一員として協同する能力と態度を修得する。こうした経験を重ねることで、保健・医療・福祉に関わる理学療法の専門職としての資質と自覚を高める。また、卒業研究を通して、専門的な問題を理解・整理し、調査や分析、実験などに基づき解決するための能力を身につけ、理学療法学の学問として意義と重要性についても学ぶ。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習、実習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

保健学科・作業療法学プログラム

作業療法学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。

- ・1年次には、教養教育科目を通して教養、基礎学力の醸成を行うと同時に、「解剖学」「生理学」「リハビリテーション科学入門」などの共通専門科目、「作業療法学概論」「基礎作業学」、「リハビリテーション概論」などの専門基礎科目の一部を開講し、作業療法的発想のもとで問題の発見と解決に向けた探求の基本姿勢を育む。光り輝き入試 総合型選抜制度(大学院進学型)で入学した学生は、1年次より「プロジェクト研究演習」を履修し、早期から大学教員が実践する研究を体験し、大学院で行う研究活動に必要な知識と技術を養う。
- ・2年次には、作業療法学の学問的背景や基礎となる授業を中心とし、主に「解剖学実習」「生理学実習」「基礎運動学」「リハビリテーション整形外科学」「リハビリテーション精神医学」「リハビリテーション神経内科学」など必修科目を開講し、これらの科目を通して専門分野の基礎知識と技能・態度を修得する。また、国際交流、科学探索、地域交流に関連した科目を選択可能とし、主体的に各領域に特化した基本的な知識や技術を学ぶ。
- ・3年次には、主に「身体障害作業療法学演習」「精神障害作業療法学演習」「発達障害作業療法学演習」「老年期障害作業療法学演習」「日常生活活動評価学演習」などの専門科目を開講し、作業療法を展開するために必要となる、情報の収集・評価・報告および根拠に基づいた治療に関する基礎知識と技能・態度を修得する。さらに、夏期の短期臨床実習を計画し、学問分野と実務との関連についての理解を深め、より具体的な課題への取り組み方について学ぶことができる。
- ・4年次には、長期臨床実習を計画している。3年次までの教育課程で学んだ知識、技能、態度と作業療法過程を、実習施設において指導者による指導を受けながら作業療法の実践を行い、実践に適合した知識、技能、態度の統合を目指す。同時に、実習を通して対象者や家族、他職種とのコミュニケーションの重要性についても認識を深める。こうした経験を重ねることで、保健・医療・福祉に関わる作業療法の専門職としての資質と自覚を高める。また、3年次から開始した卒業研究を完成することで、専門的な問題を理解・整理し、調査や分析、実験などに基づき解決するための能力を身につけ、作業療法学の学問として意義と重要性についても学ぶ。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/10>)

(概要)

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

医学部では、広島大学医学部医学科、保健学科の各専攻で学ぶことを強く願い、人と関わり、人の健康のために学び、働く人となる意欲を持ち、各学科・専攻で行われる専門教育を修了するための学力と適性を備えた人を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

医学部に、学生の多様なニーズに応え、卒業後の幅広い進路に対応するための医学科及び保健学科の2つの学科及び保健学科に3つの専攻を設置しており、各学科・専攻では、これらの人を受け入れるため、編成している各主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位（学科・専攻）のアドミッション・ポリシー

医学部 医学科

1 求める学生像

本学科が編成している医学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、総合学習や課外活動などを通じて、以下の能力と資質を身につけている人を求めています。
 - ・人と関わることが好きで、人の痛みに共感できる人
 - ・医療を通して地域・社会に貢献しようとする意欲と情熱のある人
 - ・高いコミュニケーション能力を持ち、周囲の人と良好な関係を築くことができる人
 - ・責任を持って周囲の人と協調して働くことができる人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、教科の学習や総合学習等を通じて、以下の能力や資質を身につけている人を求めています。
 - ・自ら問題点をみつけて、解決しようとする人
 - ・情報を客観的かつ的確に判断することができる人
 - ・積極的に問題の解決にあたる人
 - ・グローバルな視点を持ち、国際交流に積極的な人
- (3) 知識・技能については、様々な教科の学習を通じて、以下の能力や資質を身につけている人を求めています。
 - ・生命科学に深い関心がある人
 - ・高等学校で学習するすべての教科の学力を幅広く身につけている人
 - ・特に理科、数学、英語において高い学力を有する人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・ボランティア（医療系以外も含む）などの社会貢献に取り組んだ経験があること

また、入学後には、医学プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に掲げる能力・資質を身につけるように努力・邁進する学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施
- ・広島大学光り輝き入試 学校推薦型選抜 II型医学部医学科（ふるさと枠）

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目				
区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 面接
	総合型選抜Ⅱ型	○ 小論文、面接、大学入学共通テスト	○ 小論文、面接、大学入学共通テスト	○ 面接、調査書、自己推薦書、出願要件を証明できる書類
広島大学光り輝き入試	総合型選抜国際バカロレア型	○ 面接、国際バカロレア試験の成績、本学が指定する英語民間試験の成績	○ 面接	○ 面接、志望理由書
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	○ 面接
	学校推薦型選抜Ⅱ型 医学部医学科 (ふるさと枠)	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト、面接、調査書、志望理由書、推薦書	○ 面接、調査書、志望理由書、推薦書

医学部 保健学科 看護学専攻

1 求める学生像

本専攻が編成している看護学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 保健医療に関心を持ち、柔軟で幅広い視野を持って広く社会に貢献することを希望する人
- (2) 高等学校段階までの学習と経験から、幅広い基礎学力と豊かな人間性を身につけている人
- (3) 社会の一員としての良識と高い倫理観・責任感を備え、他者への思いやりがある人
- (4) 探究心が旺盛で、社会から積極的に学び、自己の能力を開拓する努力を惜しまない人
- (5) 困難や問題に遭遇しても、冷静に、かつ前向きに対処しようとする創造性とチャレンジ精神に富む人
- (6) 協調性とコミュニケーション能力に優れ、積極的に他者と助け合いながら、人生を切り開こうとする人

なお、入学前に学習しておくことを希望する内容は、以下のとおりです。

- ・将来看護職となる者としてのコミュニケーション力、社会への関心及び論理的思考力や問題解決力

また、入学後には、以下の能力を身につけられる学生を求めています。

- ・幅広い教養、看護学についての知識と技能を総合して活用できる能力を基盤に、将来

看護学の研究・教育・臨床において指導的役割を担える能力
 ・医療人としてのコミュニケーション能力、規範意識、マナーを身につけ、良好な対人関係のもと、人と社会に貢献できる能力

2 入学者受入れの基本方針

本専攻では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型, 国際バカロレア型, 外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	
広島大学光り輝き入試	総合型選抜 II型	○ 大学入学共通テスト, 小論文, 面接	○ 大学入学共通テスト, 小論文, 面接	○ 小論文, 面接, 調査書, 自己推薦書
	総合型選抜 国際バカロレア型	○ 面接	○ 面接	○ 面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験, 本学が指定する英語民間試験の成績証明書等, 個別学力検査	○ 個別学力検査	○ 面接

医学部 保健学科 理学療法学専攻

1 求める学生像

本専攻が編成している理学療法学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 障害を持った方々の「心」を察することのできる人
- (2) 何事に対しても積極的かつ意欲的に取り組み、最後までやり遂げる気持ちを持ち続ける人
- (3) 他人のことばに耳を傾け、豊かなコミュニケーション能力を身につけながらチームワークを図り、ともに成長しようと努力する人
- (4) 得られた知識をもとに物事を科学的に捉え、将来、保健・医療・福祉の発展に尽そうという意欲を持つ人
- (5) 理学療法の実践を通して社会へ貢献し、奉仕しようとする意欲に満ち溢れた人

なお、入学前に学習しておくことを希望する内容は、コミュニケーション力、科学的思考力です。

また、入学後には、理学療法の知識と技能の実践のみならず、研究能力の基盤をもとに、社会に貢献できる能力を身につけられる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針
 本専攻では、以下の入学者選抜を実施します。
 ・一般選抜 前期日程
 ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型, 国際バカロレア型, 外国人留学生型2月実施
 各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	○ 面接
広島大学 光り 輝き 入試	総合型選抜 II型	○ 大学入学共通テスト, 小論文, 面接	○ 大学入学共通テスト, 小論文, 面接	○ 小論文, 面接, 調査書, 自己推薦書
	総合型選抜 国際バカロレア型	○ 面接	○ 面接	○ 面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験, 本学が指定する英語民間試験の成績証明書等, 個別学力検査	○ 個別学力検査	○ 面接

医学部 保健学科 作業療法学専攻

1 求める学生像

本専攻が編成している作業療法学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 作業療学分野での研究者, 教育者又は行政職, あるいは国内のみならず国際的な指導的臨床実践者として, 社会に貢献しようとする意欲と情熱のある人
- (2) 作業療法学を学ぶための基礎知識, 英語力ならびに文章表現力を有している人
- (3) 社会性や協調性を持ち, 責任感がある人
- (4) 積極的に学び, 自己の能力を開拓する努力を惜しまない人
- (5) 困難や問題に遭遇しても, 冷静に, かつ前向きに対処しようとする人

なお, 入学前に学習しておくことを希望する内容は, 以下のとおりです。

- ・高等学校段階での基本的な知識を幅広く身につけていること
- ・英語の読み書き力および英語会話力を身につけていること
- ・論理的な思考を行い文章で表現できる能力を身につけていること

また, 入学後には, 以下の能力を身につけられる学生を求めています。

- ・高等学校段階で未修学の科目に関する基礎知識を初等授業で身につけること
- ・作業療法士となる者として必要な基礎的ならびに専門的知識を身につけること
- ・自ら積極的に学び, 自己能力を開拓できること
- ・他者とのコミュニケーション力, 問題を解決できる論理的思考を身につけること
- ・弱者や障がい者への関心といたわりの心を身につけること

- 2 入学者受入れの基本方針
 本専攻では、以下の入学者選抜を実施します。
- ・一般選抜 前期日程
 - ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型, 国際バカロレア型, 外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	○ 大学入学共通テスト, 個別学力検査	○ 面接
広島大学 光り輝き 入試	総合型選抜 II型	○ 大学入学共通テスト, 小論文, 面接	○ 大学入学共通テスト, 小論文, 面接	○ 小論文, 面接, 調査書, 自己推薦書
	総合型選抜 国際バカロレア型	○ 面接	○ 面接	○ 面接
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験, 本学が指定する英語民間試験の成績証明書等, 個別学力検査	○ 個別学力検査	○ 面接

学部等名 歯学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、歯科医学・医療、口腔保健学、口腔工学に関わる基盤的・融合的教育を行うとともに、豊かな人間性及び科学的探究心を備え、国内・国際社会に貢献できる歯科医療人を輩出し、歯科医学・医療へ貢献することを目的とする。</p> <p>歯学科</p> <p>歯学科は、歯科医師となるための基盤的教育を行うとともに、歯科医学・医療の発展を国内外で主導する人材を育むための専門教育を実施する。これらによって、科学的探求心、国際性、高度な学識と医療技術及び豊かな人間性を備えた歯科医師を輩出し、歯科医学・医療へ貢献することを目的とする。</p> <p>口腔健康科学科</p> <p>口腔健康科学科は、口腔健康科学に基づいた基盤的教育を行うとともに、口腔保健の発展を国内外で主導する人材を育むための専門教育を実施する。</p> <p>口腔保健学専攻</p> <p>口腔保健学専攻は、歯学、医学、保健学及び福祉に関する知識並びに技術を統合した口腔保健学の確立と体系化、国際的な教育研究拠点の構築、あるいは口腔保健学の高度専門化において活躍できる人材を育成する。また同時に、上記の素養を備えた養護教諭を育成する。これらによって、科学的探求心、国際性、高度な学識と医療技術及び豊かな人間性を備えた口腔保健学の専門家を輩出し、歯科医学・医療、口腔保健及び福祉に貢献することを目的とする。</p> <p>口腔工学専攻</p> <p>口腔工学専攻は、歯学、医学及び工学に関する知識並びに技術を統合した口腔工学の確立と体系化、国際的な教育研究拠点の構築、あるいは口腔工学の高度専門化において活躍できる人材を育成する。これらによって、科学的探求心、国際性、高度な学識と医療技術及び豊かな人間性を備えた口腔工学の専門家を輩出し、歯科医学・医療へ貢献することを目的とする。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/11 ）
<p>（概要）</p> <p>歯学科・歯学プログラム</p> <p>歯学プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める単位を修得した者に学士（歯学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）豊かな人間性を備え、専門職としての歯科医師の責務を理解し、これを実践するための知識、技能、態度を身につけている。 （2）研究の重要性を認識し、科学的思考力と創造性を備えている。 （3）論理的思考に基づく洞察力と問題解決能力を備え、生涯を通じて学習することができる。 （4）患者やその家族、医療関係者との適切なコミュニケーションができる。 （5）歯科医療に関連した社会の変化や科学の進歩に対応できる。 （6）多文化・多領域との共存と理解を深め、国際社会で自己の見解を積極的に主張できる。 <p>口腔健康科学科・口腔保健学プログラム</p> <p>口腔保健学プログラムでは、口腔保健と学校保健の分野で活躍できる以下の人材を養成します。</p>

- ・高度先進的な口腔保健医療人
- ・口腔保健分野の研究者，教育者
- ・養護教諭一種免許を取得し，学校保健で活躍できる歯科医療人

そのため，本プログラムでは，以下の能力を身につけ，教育課程の定める単位を修得した者に学士（口腔健康科学）の学位を授与します。

- （１）歯科衛生士として必要な基礎的教養，基礎歯科医学，臨床歯科医学，歯科衛生士専門科目，隣接医学について，総合的知識と技能を統合し活用できる。
- （２）患者，スタッフと良好な対人関係を築いて，チーム歯科医療を行うことができる。
- （３）将来，口腔保健学の研究者，歯科衛生士の教育あるいは臨床における指導的役割を担うために，最先端の知識，教育能力，情報収集能力，問題解決能力，研究能力，論理的思考力，生涯学習能力を修得し活用できる。
- （４）歯科専門知識を有する養護教諭として，学校保健の場で必要とする知識，技能，態度を修得し活用できる。

口腔健康科学科・口腔工学プログラム

口腔工学プログラムでは，歯学，医学及び工学に関する知識・技術を統合した口腔工学の分野で活躍できる以下の人材を養成します。

- ・研究者マインドを持った歯科医療人及び臨床マインドを持った企業人・研究者・教育者
- ・国際的に活躍できるオーラルエンジニア
- ・口腔工学の分野を切り開き，口腔工学の確立と体系化，高度専門化に寄与する教育者・研究者
- ・人類愛にあふれ，道徳心と豊かな人間性をそなえ，強い責任感を持つ医療人・教育者・研究者

そのため，本プログラムでは，以下の能力を身につけ，教育課程の定める単位を修得した者に学士（口腔健康科学）の学位を授与します。

- （１）教養教育科目，歯科技工学，基礎歯科医学，臨床歯科医学，隣接医学，関連工学についての知識と技能を総合して活用できる。
- （２）必要な知識・技能・コミュニケーション能力に加えて，医療人としての規範意識とマナーを身につけ，患者，スタッフと良好な対人関係を築くことができ，患者中心のチーム歯科医療が実践できる。
- （３）最先端の知識，高度な技能，情報収集能力，問題解決能力，科学的探究心，研究能力，論理的思考力，生涯学習能力を基盤に，口腔工学の研究・教育・臨床において指導的役割を担うことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/11>）

（概要）

歯学科・歯学プログラム

歯学プログラムでは，プログラムが掲げる到達目標を学生が達成できるように，以下の方針の下に教育課程を編成し，実践します。

- （１）教養教育では，専門教育に必要な学問的基盤を確立させるとともに，学際的・総合的な知識や方法論，視座を修得させ，医療人に必要な幅広い教養と規範意識を備えた豊かな人間性を育む。
- （２）教養教育の外国語科目の履修により基礎的英語力を高めるとともに，日本語・英語併用で行われる専門教育(Dual Linguistic Education)を実施し，国際歯学コース生や短期留学生と学生生活を共にすることにより，様々な国の文化への共感と理解を深め，国際交流能力を向上させる。
- （３）専門教育では，生命科学に基づく歯科医療を実践するためのバイオデンタル教育を実施し，生命科学の基礎知識や技能，歯科医師に必要な専門知識や臨床基礎技能を修得さ

せるとともに、科学リテラシーや研究倫理、医の倫理についての理解を深め、実践的な歯学研究教育により科学的思考力と創造性を育む。

- (4) 早期臨床体験実習を通して、将来の歯科医療人としての自覚を促すとともに、患者中心の歯科医療、患者やその家族、医療関係者との良好なコミュニケーション構築の重要性、歯科医療のニーズの多様性を認識させる。さらに、臨床実習により、国民が求める質の高い歯科医療を提供し、地域社会における役割を果たすために必要な視座、知識・技能・態度を修得させる。
- (5) 自己主導型学習として Problem Based Learning (PBL) などを取り入れながら、全教育課程を通じた統合的な歯科医学教育を行うことにより、医療人としてのプロフェッショナルリズムを涵養するとともに、問題解決能力、批判的思考力、生涯学習能力を向上させ、全人的な考え方に基づく歯科医療に必要な能力と国際社会に通用する総合力を培う。

学修の成果は、歯学プログラムによる各科目の成績評価と本教育プログラムで設定する到達目標への到達度評価に、社会・国民の要請に応え優れた歯科医師の育成に向けて臨床実習開始前に実施される共用試験 Computer Based Testing (CBT)、Objective Structured Clinical Examination (OSCE) 及び診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験を加えて評価する。

口腔健康科学科・口腔保健学プログラム

口腔保健学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生が達成できるように、以下の方針の下に教育課程を編成し、実践します。

- (1) 第1年次には、他学部学生とともに教養教育を受け、幅広い教養を身につけ、歯科医療人となるための知的基盤を養います。また、「教養ゼミ」における PBL (Problem Based Learning) により、自己主導型学習を進めるための基本的な態度・技能・知識を修得します。さらに、専門の基礎知識を修得し、専門性を深めるための基盤を作ります。
- (2) 第2～4年次には、専門科目を履修し、専門知識と技能を修得します。この専門科目には、口腔保健に関する科目とともに、生命科学などの基礎科学並びに歯科及び隣接医学などを含みます。
- (3) 第3年次及び第4年次に「口腔保健学臨床・臨地実習」を履修し、それまでに修得した専門知識と技能を臨床現場において実施します。それを通して、専門的歯科医療、一般的歯科医療及びチーム医療などについての技能・知識を修得し、コミュニケーション能力、医療人としての規範意識とマナー、社会性、協調性及び判断力を身につけます。
- (4) 養護教諭コース選択者は、第4年次に「養護実習」を履修し、学校保健活動を行う教育者として、教職への使命感、教育的愛情及び対人関係能力などを修得します。
- (5) 第3年次及び第4年次には「卒業研究」を履修し、教員が行なっている最先端の研究に参加、あるいは口腔保健学に関する問題を自分で発見、研究及び解決します。それを通じて情報収集能力、問題解決能力、研究能力及び論理的思考力の修得を行います。
- (6) バイオデンタル教育と IPE を通じて、科学的探究心に加え、多職種と連携可能な高度な学識と医療技術を養います。

なお、学修の成果は、各科目の成績評価と、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度評価に、臨床実習開始前に実施される Objective Structured Clinical Examination (OSCE) を加えて評価する。

口腔健康科学科・口腔工学プログラム

口腔工学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生が達成できるように、以下の方針の下に教育課程を編成し、実践します。

- (1) 第1年次には、他学部学生とともに教養教育を受け、幅広い教養を身につけ、歯科医療人となるための知的基盤を養います。また、「教養ゼミ」における PBL (Problem Based Learning) により、自己主導型学習を進めるための基本的な態度・技能・知識を修得しま

- す。さらに、専門の基礎知識を修得し、専門を深めるための基盤を作ります。
- (2) 第2～4年次には、専門科目を履修し、最先端の専門知識と高度な技能を修得します。この専門科目には、歯科技工士に関する科目とともに、生命科学や生体材料などの基礎科学、歯科及び隣接医学、システム工学やITなどの関連工学を含みます。
- (3) 第3年次及び第4年次に「口腔保健工学臨床的実習」を履修し、それまでに修得した専門知識と技能を大学病院において実践します。それを通して、大学病院における、歯科技工業務、専門的歯科医療、一般的歯科医療及びチーム医療についての技能・知識を修得し、コミュニケーション能力、医療人としての規範意識とマナー、社会性、協調性及び判断力を身につけます。
- (4) 第3年次及び第4年次に「卒業研究」を履修し、情報収集能力、問題解決能力、研究能力、論理的思考能力及びプレゼンテーション能力を修得し、科学的な探究心と積極性、柔軟性、創造力及び忍耐力を養います。
- (5) バイオデンタル教育とIPEを通じて、科学的探究心に加え、多職種と連携可能な高度な学識と医療技術を養います。

なお、学修の成果は、各科目の成績評価と、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/11>）

（概要）

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

歯学部では、入学段階において、将来医療人となるための十分な豊かな人間性を備えていると同時に、専門職医療人として高度な学識と医療技術を身につけるための科学的探究心を持ち、幅広い知識を統合して問題解決を図ることができ、国際社会で活躍する強い意志を持った学生を求めます。

2 入学者選抜の基本方針

歯学部では、学生からの多様なニーズに応え、卒業後の幅広い進路に対応するために歯学科及び口腔健康科学科の2つの学科を設置し、さらに口腔健康科学科には2つの専攻を設置しています。各学科・専攻では、編成している各主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位（学科・専攻）のアドミッション・ポリシー

歯学部 歯学科

1 求める学生像

本学科が編成している歯学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、歯科医学、歯科医療を学ぶために必要な基礎的学力を身につけている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、社会の変化や科学の進歩に対応することのできる、深い思考と独創的な視点、豊かな想像力と問題解決能力を備えている人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、将来医療人となるための十分な責任感と豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、情報収集能力、問題解決能力、論理的思考能力、プレゼンテーション能力を持っている人

なお、入学前に学習しておくことを希望する内容は、以下のとおりです。

- ・日本語での読解、コミュニケーション
- ・英語での基本的な読解、コミュニケーション
- ・国語、社会、数学、理科、情報の幅広い知識

また、入学後に以下の能力を身につけられる学生を求めています。

- ・生命科学の基礎知識や技能，高度な歯科医療技術
- ・患者や医療スタッフと良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力
- ・国民が求める質の高い歯科医療を提供するための視座・知識・技能・態度
- ・医療人としての規範意識とマナー，社会性，協調性，判断力
- ・多職種と連携可能な科学的探究心と高度な学識
- ・国際的に活躍できる医療人，生命科学者としての外国語とコミュニケーション能力

2 入学者受入れの基本方針

本学科では，以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程，後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型，国際バカロレア型，外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は，受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して，自ら課題を発見し，その解決に向けて探究し，成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち，多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査，面接	○ 面接
	後期日程	○ 大学入学共通テスト，小論文	○ 大学入学共通テスト，小論文，面接	○ 小論文，面接
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト，小論文，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト，小論文，面接	○ 面接，調査書，自己推薦書，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書	○ 面接	○ 面接，IB最終試験6科目の成績評価証明書及び志望理由書
	総合型選抜外国人留学生型2月実施	○ 日本留学試験，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等，個別学力検査，面接	○ 個別学力検査，面接	○ 面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は，任意です。

歯学部 口腔健康科学科 口腔保健学専攻

1 求める学生像

本専攻が編成している口腔保健学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識については、医療系学生として口腔健康科学を学ぶために必要な基礎的学力を身につけ、大学での学修に活用できる人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、コミュニケーション能力、社会性、協調性、判断力を有し、論理的思考力、問題解決能力や柔軟性を身につけ、それを医療系学生としての学修や臨床実習に活用できる人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、医療人として不可欠な人類愛に溢れ、責任感、道徳心と豊かな人間性を備え、また、科学的な探求心と積極性、想像力と忍耐を有し、医療系学生としての学修や臨床実習に活用できる人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

- ・課されている大学入学共通テスト及び個別試験の科目を含め、高等学校における科目についての幅広い学習
- ・日本語での読解力、コミュニケーション能力
- ・英語での基本的な読解力、コミュニケーション能力
- ・論理的思考力、問題解決能力

また、入学後に高度な学識と医療技術、科学的探求心及び豊かな人間性を培い、卒業後には専門医療人として歯科医学・医療、口腔保健及び福祉の分野において、人と社会のために貢献できる能力を修得できる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本専攻では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目				
区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 面接
広島大学光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、小論文、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト、小論文、面接	○ 面接、調査書、自己推薦書、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書	○ 面接	○ 面接、IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	○ 面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

歯学部 口腔健康科学科 口腔工学専攻

1 求める学生像

本専攻が編成している口腔工学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、口腔工学を学ぶために必要な基礎学力を幅広く身につけている人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、将来、医療人になるのに必要なコミュニケーション能力、幅広い知識を統合して問題解決を図る能力、論理的思考力、判断力、柔軟性をもっている人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、将来、医療人になるのに十分な道徳心、人類愛、社会常識、豊かな人間性、協調性、積極性、科学的探究心、学習意欲、忍耐力、国際感覚をもっている人

口腔工学専攻では、このような多様な能力を身につけた上で、将来、以下のいずれかを目指す人を求めています。

- ・歯科技工士やメディカルアーティストなどチーム医療の一員として、研究者マインドをもって活躍する医療人
- ・新しい学問分野である口腔工学を切り開く研究者
- ・オーラルエンジニアとして活躍できる臨床マインドをもった企業人
- ・口腔工学分野の教育者
- ・国際社会で活躍する人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

国語、社会、数学、理科、外国語、情報を広く学習しておくこと

また、入学後には、以下の能力を身につけられる学生を求めています。

- ・幅広い教養，歯科技工学，基礎歯科医学，臨床歯科医学，隣接医学，関連工学についての知識と技能を総合して活用できる能力
- ・医療人としてのコミュニケーション能力，規範意識，マナーを身につけ，患者，スタッフと良好な対人関係を築くことができ，患者中心のチーム歯科医療を実践できる能力
- ・情報収集能力，問題解決能力，科学的探究心，研究能力，論理的思考力，生涯学習能力を基盤に，口腔工学の研究・教育・臨床において指導的役割を担うことができる能力

2 入学者受入れの基本方針

本専攻では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程，後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型，国際バカロレア型，外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は，受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して，自ら課題を発見し，その解決に向けて探究し，成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち，多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	○ 大学入学共通テスト，個別学力検査	○ 面接
	後期日程	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト	○ 面接
広島大学光り輝き入試	総合型選抜 II型	○ 大学入学共通テスト，小論文，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等 (※)	○ 大学入学共通テスト，小論文	○ 面接，調査書，自己推薦書，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等 (※)
	総合型選抜 国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書	○ 面接	○ 面接，IB最終試験6科目の成績評価証明書，志望理由書
	総合型選抜 外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等，個別学力検査	○ 個別学力検査	○ 面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜 II型について，本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は，任意です。

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、先端的医療薬学研究と先端的創薬科学研究の遂行を通じて薬学の発展を担う人材を育成することによって、人類の健康と社会の持続的発展に貢献し、国立大学薬学部としての使命を果たすため、医療の基盤をなす医薬品等の開発や適正使用に関する基礎体系を修得し、創薬、医療薬学に関わる科学者、技術者、薬剤師の育成を目的とする。</p> <p><u>薬学科</u></p> <p>薬学の学修と研究を通じて、生命倫理を基盤に、薬学に関する知識、技能、態度を修得し、先端的医療薬学の実践と研究で活躍しうる資質・能力を有する人材の育成を目的とする。</p> <p><u>薬科学科</u></p> <p>薬学の学修と研究を通じて、生命倫理を基盤に、薬科学に関する知識、技能、態度を修得し、独創的な創薬科学分野で活躍しうる資質・能力を有する人材の育成を目的とする。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/14 ）
<p>（概要）</p> <p><u>薬学科・薬学プログラム</u></p> <p>薬学プログラムでは、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定され学士（薬学）の学位が授与されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬学を学ぶ上で必要な物理学、化学、生物学、数学及び医療従事者のための心理学などの基本的な能力ならびに幅広い教養を身につけている。 2) 医薬品及び生体物質を含む化学物質の基本的な反応性を理解するために、代表的な反応、分離法、構造決定法などの基本的な知識・技能を身につけ、それらを説明・実施できる。 3) 生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために生命体の構造や機能調節などに関する基本的な知識・技能を身につけ、それらを説明・実施できる。 4) 医薬品の薬理作用の過程を理解するために、疾患に対する薬物の作用、作用機序及び体内での運命に関する基本的な知識・技能・態度を身につけ、それらを説明・実施できる。 5) 薬物治療の基礎・応用知識を理解し、すべての臓器に関する主な疾患に対する標準的な薬物治療に関して説明できる。 6) 医薬品や化学物質のヒトへの影響、及び生活環境や地球生態系と人類の健康に関する基本的な知識・技能・態度を身につけ、それらを説明・実施できる。 7) 社会において薬剤師が果たすべき責任、義務などを正しく理解するため、薬学、薬物に関する法律、制度、経済及び薬局業務に関する基本的な知識・技能・態度を身につけ、それらを説明・実施できる。 8) チームの一員として医療に参画するために、調剤、製剤、服薬説明、処方設計支援などの薬剤師業務に必要な基本的な知識・技能・態度を身につけ、それらを説明・実施できる。 9) 医療の担い手として求められる多様なニーズに柔軟に対応できる薬剤師として活躍するために、問題を発見し、その解決に向けた方向性を示すことができる。 10) 薬学・科学・医療の進歩に対応するために、新しい知識や情報、科学技術を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けるために必要な基礎的な力を身につけている。 11) 次世代の薬剤師の育成を担うために、後進の指導の重要性を理解し、実践できる。

薬科学科・薬科学プログラム

薬科学プログラムでは、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定され学士（薬科学）の学位が授与されます。

- 1) 薬科学を学ぶ上で必要な物理学、化学、生物学、数学及び倫理学などの基本的能力ならびに幅広い教養を身につけている。
- 2) 医薬品及び生体物質を含む化学物質の基本的な反応性を理解するために、代表的な反応、分離法、構造決定法などの基本的な知識・技能を身につけ、それらを説明・実施できる。
- 3) 生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために生命体の構造や機能調節などに関する基本的な知識・技能を身につけ、それらを説明・実施できる。
- 4) 医薬品の薬理作用の過程を理解するために、疾患に対する薬物の作用、作用機序及び体内での運命に関する基本的な知識・技能を身につけ、それらを説明・実施できる。
- 5) 薬物治療に関する基本的な知識を身につけ、それを説明できる。
- 6) 医薬品や化学物質のヒトへの影響、及び生活環境や地球生態系と人類の健康に関する基本的な知識・技能を身につけ、それらを説明・実施できる。
- 7) 多様化する社会のニーズに柔軟に対応でき、情熱あふれる研究者として活躍するために、問題を発見し、その解決に向けた方向性を示すことができる。
- 8) 薬学・科学・医療の進歩に対応するために、新しい知識や情報、科学技術を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けるために必要な基礎的な力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/14>)

（概要）

薬学科・薬学プログラム

薬学プログラムでは、そのディプロマ・ポリシーにおける 11 項目の能力をもち、豊かな人間性と幅広い教養を持った医療人を育成するため、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

- 1) 薬学を学ぶ上で必要な物理学、化学、生物学、数学及び医療従事者のための心理学などの基本的能力ならびに幅広い教養を身につけるために、1・2年次では平和科目、大学教育基礎科目、領域科目、外国語科目、情報・データサイエンス科目、健康スポーツ科目、社会連携科目、基盤科目を全学実施体制のもとに講義科目として設置する。専門基礎科目としては、早期体験やコミュニケーション・ヒューマニズムに関する科目を設置し、参加型学習を行う。
- 2) 医薬品及び生体物質を含む化学物質の基本的な性質を理解し、代表的な反応、分離法、構造決定法などに関する基本的な知識を身につけるために、物質の構造と性質、天然医薬資源に関連する科目（有機化学・分析化学など）を1・2年次においては専門基礎科目として、3年次ではより高度な内容を専門科目（生薬学・医薬品有機化学など）として設置する。これらを講義科目として学修した後、知識に基づいた技能を身につけるために、2年次後期及び3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 3) 生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解し、生命体の構造や機能調節などに関する基本的な知識を身につけるために、生命体の構造と機能に関連する科目（生化学など）を1・2年次においては専門基礎科目として、3年次ではより高度な内容を専門科目（生理化学・細胞生物学など）として設置する。これらを講義科目として学修した後、知識に基づいた技能を身につけるために、2年次後期及び3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 4) 医薬品の薬理作用の過程を理解し、疾患に対する薬物の作用、作用機序及び体内での運命に関する基本的な知識を身につけるために、医薬品の作用や医薬品の体内動態に関する科目（薬理学・生物薬剤学など）を1・2年次においては専門基礎科目として、3年次ではより高度な内容を専門科目（薬物動態解析学など）として設置する。これらを講義科目として学修した後、知識に基づいた技能や態度を身につけるために、3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 5) 薬物治療の基礎・応用知識を理解し、すべての臓器に関する主な疾患に対する標準的

- な薬物治療に関して説明できる知識を身につけるために、疾病と病態に関係する講義科目（医療薬学・臨床薬物治療学など）を4年次に専門科目として設置する。また5・6年次には、Problem based learning（問題基盤型学習）形式のグループ学習科目（臨床薬理学など）を設置する。さらにより実践的な技能を身につけるために、4年次後期に事前実習科目を、5年次には臨床実習科目を設置する。そしてこれらを統合した能力をさらに醸成するために、6年次に演習科目（日本薬局方演習）を設置する。
- 6）医薬品や化学物質のヒトへの影響、及び生活環境や地球生態系と人類の健康に関する基本的な知識を身につけるために、健康・環境に関する講義科目（衛生薬学など）を2・3年次に設置する。これらの知識に基づいた技能・態度を身につけるために、3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 7）社会において薬剤師が果たすべき責任、義務などを正しく理解し、薬学、薬物に関する法律、制度、経済及び薬局業務に関する基本的な知識を身につけるために、薬剤師業務や薬事関連法規に関する講義科目（薬事関係法規・薬剤経済学など）を4年次に設置する。より実践的な技能・態度を身につけるために、4年次後期に事前実習科目を、5年次には臨床実習科目を設置する。
- 8）医療にチームの一員として参画するための、調剤、製剤、服薬説明などの薬剤師業務に必要な基本的な知識を身につけるために、製剤の調製と医薬品の管理に関する講義科目（製剤設計学・医薬品情報学など）を3・4年次に設置する。より実践的な技能・態度を身につけるために、4年次後期に事前実習科目を、5年次には臨床実習科目を設置する。
- 9）医療の担い手として求められる多様なニーズに柔軟に対応できる薬剤師として活躍するために必須となる問題発見及び解決能力を身につけるために、3年次前期に演習科目（薬学研究方法論演習）を、3年次後期及び4年次では基礎的な内容（基礎研究Ⅰ～Ⅱ）を、5・6年次ではさらに高度な内容（臨床研究Ⅰ～Ⅲ）を卒業研究科目として設置し、丁寧な個別指導を行う。
- 10）薬学・科学・医療の進歩に対応できるように、新しい情報や知識を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続けるための必要な基礎的な力を身につけるために、1・2年次の外国語科目に加えて、2年次により専門性の高い外国語科目（薬学英语）を設置する。また3年次後期より研究室に配属して研究を行うための卒業研究科目（基礎研究Ⅰ～Ⅱ、臨床研究Ⅰ～Ⅲ）を設置し、丁寧な個別指導を行う。
- 11）次世代の薬剤師の育成を担うために、後進の指導の重要性を理解し、実践できる能力を身につけるために、研究室の下級生の卒業研究のサポートができるように、環境を整える。

学習成果の評価の方針

学修成果の評価は、上記カリキュラム・ポリシー1)～11)の方針に基づき構築したカリキュラムの学習方法毎に適した方法を用いて行い、ディプロマ・ポリシーの達成を目指します。概要としては、講義科目では、筆記試験または筆記試験にレポート課題を加味して評価します。実験実習科目ではレポート課題や実習記録などを総合的に評価します。参加型学習やグループ学習科目では、討論の内容やプレゼンテーションの内容で評価します。演習科目では、筆記試験あるいはレポート、プレゼンテーションにより評価します。事前実習科目では筆記及び技能試験で評価します。臨床実習科目では実習記録やプレゼンテーションにより評価します。卒業研究科目は、別に定めるルーブリックにより評価します。

これらの成績評価に加え、薬学プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

体系的な学びを促進するために、研究室配属のために一定の基準を設けます。臨床実習科目を履修するために、共用試験を課し、共用試験を受験するために一定の基準を設けます。

薬科学科・薬科学プログラム

薬科学プログラムでは、そのディプロマ・ポリシーにおける8項目の能力をもち、豊かな人間性と幅広い教養を持った科学者・技術者を育成するため、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

- 1) 薬科学を学ぶ上で必要な物理学，化学，生物学，数学及び倫理学などの基本的能力ならびに幅広い教養を身につけるために，1・2年次では平和科目，大学教育基礎科目，領域科目，外国語科目，情報・データサイエンス科目，健康スポーツ科目，社会連携科目，基盤科目を全学実施体制のもとに講義科目として設置する。専門基礎科目としては，早期体験やコミュニケーション・ヒューマンズに関する科目を設置し，参加型学習を行う。
- 2) 医薬品及び生体物質を含む化学物質の基本的な性質を理解し，代表的な反応，分離法，造決定法などに関する基本的な知識を身につけるために，物質の構造と性質，天然医薬資源に関連する科目（有機化学・分析化学など）を1・2年次においては専門基礎科目として，3年次ではより高度な内容を専門科目（生薬学・医薬品有機化学など）として設置する。これらを講義科目として学修した後，知識に基づいた技能を身につけるために，2年次後期及び3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 3) 生命体の成り立ちを個体，器官，細胞レベルで理解し，生命体の構造や機能調節などに関する基本的な知識を身につけるために，生命体の構造と機能に関連する科目（生化学など）を1・2年次においては専門基礎科目として，3年次ではより高度な内容を専門科目（生理化学・細胞生物学など）として設置する。これらを講義科目として学修した後，知識に基づいた技能を身につけるために，2年次後期及び3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 4) 医薬品の薬理作用の過程を理解し，疾患に対する薬物の作用，作用機序及び体内での運命に関する基本的な知識を身につけるために，医薬品の作用や医薬品の体内動態に関する科目（薬理学・生物薬剤学など）を1・2年次においては専門基礎科目として，3年次ではより高度な内容を専門科目（薬物動態解析学など）として設置する。これらを講義科目として学修した後，知識に基づいた技能や態度を身につけるために，3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 5) 薬物治療に関する基本的な知識を身につけるために，疾病と病態に係る講義科目（医療薬学・臨床薬物治療学など）を4年次に専門科目として設置する。これらの科目は自らの将来に向けた専門性を育むために，選択必修科目とする。
- 6) 医薬品や化学物質のヒトへの影響，及び生活環境や地球生態系と人類の健康に関する基本的な知識を身につけるために，健康・環境に関する講義科目（衛生薬学など）を2・3年次に設置する。これらの知識に基づいた技能・態度を身につけるために，3年次前期において実験実習科目を設置する。
- 7) 多様化する社会のニーズに柔軟に対応でき，情熱あふれる研究者として活躍するために必須となる問題発見及び解決能力を身につけるために，身につけた知識やスキルを統合し，問題解決と新たな価値の創造に繋げていく科学的思考能力を育成する。そのために3年次前期に演習科目（薬学研究方法論演習）を，3年次後期及び4年次では卒業研究科目（基礎研究Ⅰ～Ⅲ）を設置し，丁寧な個別指導を行う。
- 8) 薬学・科学・医療の進歩に対応できるように，新しい情報や知識を把握し，生涯にわたり自己研鑽を続けるための必要な基礎的な力を身につけるために，1・2年次の外国語科目に加えて，2年次により専門性の高い外国語科目（薬学英语）を設置する。また3年次後期より研究室に配属して研究を行うための卒業研究科目（基礎研究Ⅰ～Ⅲ）を設置し，丁寧な個別指導を行う。
- 9) 希望する学生のために，高等学校教諭一種免許状（理科）取得のための科目を設置する。

学習成果の評価の方針

学修成果の評価は，上記カリキュラム・ポリシー1)～9)の方針に基づき構築したカリキュラムの学習方法毎に適した方法を用いて行い，ディプロマ・ポリシーの達成を目指す。

します。概要としては、講義科目では、筆記試験または筆記試験にレポート課題を加味して評価します。実験実習科目ではレポート課題や実習記録などを総合的に評価します。参加型学習では、討論の内容やプレゼンテーションの内容で評価します。演習科目では、筆記試験あるいはレポート、プレゼンテーションにより評価します。卒業研究科目は、別に定めるルーブリックにより評価します。

これらの成績評価に加え、薬科学プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

体系的な学びを促進するために、研究室配属のために一定の基準を設けます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/14>

（概要）

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

薬学部では、次のような学生を求めています。

- (1) 高等学校段階での基礎的・基本的な学力を幅広くきちんと身につけ、特に理科（特に化学）・数学・英語に高い学力を有する人
- (2) 化学や生命科学を積極的に学ぼうとする人、並びに医療や薬を必要とする人たちの立場を真に理解し、医療の質の向上、あるいは医薬品の創薬と薬学研究の進歩発展に貢献したいと考える人
- (3) 大学院に進学して最先端の創薬科学を学び、国際的にも活躍できる創薬研究者・技術者・次世代医療開発者、高度医療情報提供者、環境・衛生技術者等の職能人となることを志す人。あるいは、高度な知識と技術を身につけ、チーム医療の中で科学的観点から意見が言える専門性の高い薬剤師となることを志す人

2 入学者選抜の基本方針

薬学部には薬学科及び薬科学科の2学科を設置しており、学生の多様なニーズに応え、卒業後の幅広い進路に対応するため、編成している各主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位（学科）のアドミッション・ポリシー

薬学部 薬学科

1 求める学生像

本学科が編成している薬学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校段階での基本的な学力を幅広くきちんと身につけ、特に理科（特に化学）・数学・英語に高い学力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、化学や生命科学を積極的に学ぼうとする人、並びに医療や薬を必要とする人たちの立場を真に理解し、医療の質の向上と薬学研究の進歩発展に貢献したいと考える人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、高度な知識と技術を身につけ、チーム医療の中で科学的観点から意見が言える専門性の高い薬剤師となることを志す人

また、入学後に、人類の健康増進と福祉の実践者にふさわしい豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、基礎的知識、技能及び態度を修得することにより、科学的思考力を備え優れた医療人となりえる人材を育成することを目指しています。

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
広島大学 光り輝き 入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)
	総合型選抜国際バカロレア型	○ 面接	○ 面接	○ 面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

薬学部 薬科学科

1 求める学生像

本学科が編成している薬科学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校段階での基本的な学力を幅広くきちんと身につけ、特に理科(特に化学)・数学・英語に高い学力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、化学や生命科学を積極的に学ぼうとする人、並びに医薬品の創製と薬学研究の進歩発展に貢献したいと考える人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、大学院に進学して最先端の創薬科学を学び、国際的にも活躍できる創薬研究者・技術者・次世代医療開発者、高度医療情報提供者、環境・衛生技術者などの職能人となることを志す人

また、入学後に、人類の健康増進と福祉の実践者にふさわしい豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、基礎的知識、技能及び態度を修得することにより、科学的思考力と創造性を発揮し得る人材を育成することを目指しています。

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅱ型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な 知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、 自ら課題を発見し、その 解決に向けて探究し、成 果等を表現するために必 要な思考力・判断力・表 現力等の能力 (思考力・判断力・表現 力)	主体性を持ち、多様 な人々と協働しつつ 学習する態度 (主体性・協働性)
一般 選 抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 面接
広島 大学 光 り 輝 き 入 試	総合型選抜 Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)
	総合型選抜 国際バカロレア型	○ 面接	○ 面接	○ 面接
	総合型選抜 外国人留学生 型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien ）
<p>（概要）</p> <p>工学の目的は“具現化の探求”であり、もって人類の平和、発展、存続に寄与することである。すなわち、自然との調和の中で、社会における要請や課題を解決するための具体的な方策を科学的な知識・技術に基づいて検討し、実現することである。</p> <p>本学部は、工学上の学術や技術に関する教育・研究を推進し、工学の目的を達成するための基礎能力・応用能力とともに社会性や自律性を備えた人材を育成して豊かな社会を作ることとする。グローバル化が加速する国際情勢、ますます厳しくなる環境問題、新しい価値の創造や急速な技術革新などの社会的課題を自ら敏感に察知し、それを解決できる論理的思考力を持ち、高度情報化等の進歩に的確に対応し、かつ、成果を内外に正しく発信できるコミュニケーション能力を備えた地域、日本、世界に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p><u>第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）</u></p> <p>各種機械・機器の機能や構造の設計生産、輸送機械とそれを取り巻くシステムの総合的設計・運営、機械材料・複合材料の開発と加工技術、革新的な高効率エネルギー変換技術といった専門分野に立脚しつつも、新しい領域においては高度化・深化する先進要素技術を統合して問題解決を担うことができる人材を育成する。そのために、材料力学、機械力学、熱力学、流体力学（いわゆる四力学）などの基礎的科目を重視し、加えて機械システム、輸送システム、材料加工、エネルギー変換の各分野における専門性の高い科目の教育も行うとともに、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。また、卒業研究を始めとした問題発見・設定・解決型の教育（PBL）を通じてコミュニケーション能力とリーダーシップを育成して、世界トップレベルの大学にふさわしい、平和で豊かな社会の持続的発展に寄与できる人材を育成する。</p> <p><u>第二類（電気電子・システム情報系）</u></p> <p>電気エネルギーシステム制御や情報処理（電気分野）、半導体素子や集積回路（電子分野）、複合・複雑システムの解析・制御（システム分野）、ソフトウェアや情報処理理論（情報分野）等の専門分野に関する教育・研究を行う。全分野に共通する基礎的な知識・学力を習得させるとともに、いずれかの分野における専門的な知識・技術を、関連分野を含めて統合的に習得させる。これにより、現代社会を支える電子情報処理、通信、電気エネルギー、システム制御等の技術の発展に貢献し、さらには異分野との融合を含む先端技術開発を通じて、地球環境と調和した快適な人間社会の実現に貢献できる人材を育成する。</p> <p><u>第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）</u></p> <p>応用化学、生物工学、化学工学の3つの専門分野を効果的に統合した教育・研究を行うことにより、高度な機能を持つ物質・材料の開発、発酵工学を基盤とした微生物のバイオテクノロジー、動植物の多様な機能を利用したバイオテクノロジーの開発、化学プロセスの設計・制御をはじめとして、環境の保全・浄化や資源エネルギーの開発等を含む幅広い基礎知識を習得させる。また、工学の諸分野の理解とともに、化学の高度な専門技術をバランス良く身に付けさせることで、地球環境問題を理解し、生活を豊かにする先端技術の創造とそれを基礎にした工業の開発・発展に貢献できる人材を育成する。</p> <p><u>第四類（建設・環境系）</u></p> <p>自然環境や社会・経済活動に関する総合的な理解を基に、持続可能な社会の実現に不可欠な社会基盤施設や建築物の計画・設計・建設・維持管理、地震・豪雨等に対する防災・減災、水質・大気質・エネルギー等の地域・地球環境の保全等に携わる技術者を養成するための教育・研究を行うことを目的とする。そして、自主的な創造活動等を通じて総合的な判断力・実行力を習得した人材を養成する。</p>

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/12>）

（概要）

第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）・機械システムプログラム

機械システムプログラムでは、自然との共生をはかり、人類の平和、発展、存続や幸福の実現に貢献できる、優れた人間性と理性を兼ね備えた行動力のある人材の育成を目指している。

本プログラムでは、上記を踏まえ、下記の能力をバランスよく身につけ、教育課程の定めた基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

- ・材料力学、機械力学やシステム制御等の分野を基礎とし、新しい概念に基づく機械システムの構造・機能や機械システムの設計・加工原理、計算機を援用した設計（CAEやCAD）、計測・制御技術、メカトロニクス技術、数値シミュレーションと情報処理などで知能化された新しい機械システムの設計・生産原理と応用などの機械システム工学の基礎を修得している。
- ・機械と人間との関わり合いや環境問題などについて広い視野を持ち、最先端の設計・生産技術開発を担えることができる。

第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）・輸送システムプログラム

輸送システムプログラムでは、輸送機器（自然環境と調和・共生する輸送機器や物流システムを計画、製作、建設、維持するための工学）、環境共生（地球圏環境を分析・把握し、環境へのインパクトを低減するための環境関連機器や環境システムを計画、設計、製作、維持するための工学）に関わる専門分野の知識のみならず、自ら工学的な問題を発見でき、科学的、合理的に問題解決策を探り、調和的、倫理的に工学的諸問題を解決できる実行力とリーダーシップを有する技術者、研究者を養成する。

そのため、本プログラムでは、幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養教育と、下記の到達目標を達成するように編成された専門教育を履修し、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

【到達目標 A】自然科学・人文・社会の3分野の視点から、総合的な知識を習得し、多面的に物事を考える能力および倫理観を養成。

【到達目標 B】エンジニア・研究者として必要な基礎知識の理解と習得。

【到達目標 C】輸送機器および環境共生に関わる専門知識とそれらを問題解決に応用できる能力の養成。

【到達目標 D】輸送機器および環境共生に関わる創成デザイン能力およびプロジェクト実行力の養成。

【到達目標 E】エンジニア・研究者として必要なコミュニケーション力および情報伝達力の養成。

第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）・材料加工プログラム

材料加工プログラムでは、自然との共生をはかり、人類の平和、発展、存続や幸福の実現に貢献できる、優れた人間性と理性を兼ね備えた行動力のある人材の育成を目指している。

本プログラムでは、下記の能力をバランスよく身につけ、教育課程の定めた基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

- ・材料力学、機械力学、熱力学、流体力学（いわゆる四力学）など機械系基礎科目を修得し、さらに次世代の製品開発・製造技術の基盤となる機能性材料の設計・開発と利用、生産・加工原理についての専門性の高い科目を修得している。
- ・機械と人間との関わり合い、次世代のエネルギーや環境問題などについて広い視野を持つ。

ち、最先端の設計・生産技術開発を担うことができる。

第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）・エネルギー変換プログラム

エネルギー変換プログラムでは、自然との共生をはかり、人類の平和、発展、存続や幸福の実現に貢献できる、優れた人間性と理性を兼ね備えた行動力のある人材の育成を目指している。

本プログラムでは、下記の能力をバランスよく身につけ、教育課程の定めた基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

- ・機械・材料系科目を中心とするエンジニアとしての基本技術と視点を身につけると同時に、熱力学、量子科学系の基礎物理学および流体力学、燃焼工学、伝熱工学といった工学に欠かせない学問などのエネルギーに関わる工学の基礎を修得している。
- ・機械と人間との関わり合い、次世代のエネルギーや環境問題などについて広い視野を持ち、最先端の設計・生産技術開発を担えることができる。

第二類（電気電子・システム情報系）・電気システム情報プログラム

電気システム情報プログラムでは、広い視野と見識、責任感と倫理観を備えると同時に、深い専門性と技術および問題分析・解決能力を有する人材を養成する。

そのため、本プログラムでは、全体として電気・システム・情報の分野を網羅しており、電気という実際のモノと、システム・情報という抽象概念の二つの観点から“電気”を統括的に取り扱う教育を行う。それぞれの分野の基本概念から先端的な知識、さらに相互の関係を体系的に習得させることで、当該分野の技術開発を先導できる人材や、今後ますます重要性を増す、異分野との融合による革新的技術の開発能力を持った人材の育成を目指している。

本プログラムでは、以下の知識と能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

- 【到達目標 A】 科学・技術と人間・社会・自然環境とのかかわりを多角的にとらえること、および技術者が社会に対して負っている責任を理解することができる。
- 【到達目標 B】 電気・システム・情報の各分野において共通して必要とされる基礎知識と、それらを応用できる能力を持っている。
- 【到達目標 C】 専門知識を用いて与えられた課題を分析し、社会の要請に合致した解決策を導き出す能力を持っている。
- 【到達目標 D】 課題を解決するための計画や方策を立案し、それを自主的に遂行できる能力を持っている。
- 【到達目標 E】 日本語や英語による情報収集・コミュニケーション能力、および成果や考察をまとめ、論理的に記述し、発表できる能力を持っている。

第二類（電気電子・システム情報系）・電子システムプログラム

電子システムプログラムでは、新しいデバイスの基礎となる物性・材料分野、ナノメートル寸法の高性能半導体デバイス分野、および高機能集積回路を中心とする集積システム分野に重点をおいた教育を行う。それぞれの分野の基本概念から先端的な知識、さらに相互の関係を体系的に習得させることで、電子工学分野の技術開発を先導できる人材や、今後ますます重要性を増す、異分野との融合による革新的技術の開発能力を持った人材の育成を目指している。

具体的には、本プログラムでは、幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養教育と、以下の到達目標を達成するように編成された専門教育を履修し、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

【到達目標 A】科学・技術と人間・社会・自然環境とのかかわりを多角的にとらえ、技術者が社会に対して負っている責任を理解することができる。

【到達目標 B】電子システム分野において必要とされる基礎知識と、それらを応用できる能力を持っている（応用することができる）。

【到達目標 C】専門知識を用いて与えられた課題を分析し、社会の要請に合致した解決策を導き出す能力を持っている（導き出すことができる）。

【到達目標 D】課題を解決するための計画や方策を立案し、それを自主的に遂行できる能力を持っている（遂行できる）。

【到達目標 E】日本語や英語による情報収集・コミュニケーション能力、および成果や考察をまとめ、論理的に記述し、発表できる能力を持っている（発表できる）。

第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）・応用化学プログラム

応用化学プログラムでは、専門職の化学技術者・研究者としての基礎知識、技能、姿勢を修得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成する。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

本プログラムでは、以下の(Ka)から(Ko)を到達目標として掲げている。プログラムへの登録から卒業までにおいて、応用化学に関する専門知識だけでなく、クリエイティブな発想力やコミュニケーション能力などを含めて、技術者・研究者として必要不可欠な基盤を養成することが、本プログラムの到達目標である。

(Ka) 確実な基礎知識を身につけている。

(Ki) 技術者としての社会的責任を果たす資質を身につけている。

(Ku) クリエイティブな発想力とデザイン能力を身につけている。

(Ke) 継続的自己啓発を行い、研究者・技術者として自立している。

(Ko) コミュニケーション能力と国際的センスを身につけている。

(Ka)から(Ko)の到達目標は、目標ごとに設定された授業科目を修得することで達成される。到達目標の詳細な内容は以下に示すとおりである。

(Ka) 確実な基礎知識を身につけている。

教養教育と専門教育において、幅広い基礎知識および化学に関する専門基礎知識、さらに応用化学に関する高度な専門知識を学び、これらの知識に裏付けられた論理的思考に基づく構想力を修得する。

(Ki) 技術者としての社会的責任を果たす資質を身につけている。

研究・技術を通して社会に貢献するために、研究者・技術者の責任をはたすことができるような資質を身につける。このために、科学と技術が社会に及ぼす効果などに対する理解力を養うとともに、技術の経済性・安全性・信頼性といった部分に関する知識とそれを地球的な視点から活用していく判断能力の修得を目標とする。

(Ku) クリエイティブな発想力とデザイン能力を身につけている。

修得した知識・技術を活用して応用化学に関する多様な問題を解決できるように、クリエイティブな発想力を身につける。また、研究者・技術者として問題解決のための能力を発揮するために、社会的に認められる倫理感、研究・開発のデザイン能力も身につける。

(Ke) 継続的自己啓発を行い、研究者・技術者として自立している。

自主的、継続的な学習能力とともに、情報収集、技術の向上、研究方法の改善、研究結果および成果の解析・理解などに関して、自立した研究者あるいは技術者としてみずから工夫して積極的に取り組み、問題解決への多面的なアプローチを図る姿勢を修得する。

(Ko) コミュニケーション能力と国際的センスを身につけている。

日本語による論理的な記述・発表・討論能力、および国際的視野で情報を収集・発信できる能力を養う。同時に地球的な視点から問題を取り扱うための国際的センスを身につける。

第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）・生物工学プログラム

生物工学プログラムでは、専門職である生物工学研究者・技術者としての基礎知識、技能、態度を修得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成する。

そのため、本プログラムでは、幅広く教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養教育と、以下の(A)から(E)の到達目標を達成するように編成された専門教育を履修し、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

- (A) 人・社会・自然と工学との関わりを理解し、多面的・論理的な思考力を発揮できる
- (B) 基礎自然科学を理解できる
- (C) 生物工学および生命科学の基礎知識を習得し応用技術に広く展開できる
- (D) 構想力や実行力を持ち、学習や研究成果を発信できる
- (E) 高いコミュニケーション能力を持ち、高度情報社会に適応できる

第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）・化学工学プログラム

化学工学とは、化学を実生活に役立てる際に必要となる工学の学問体系、つまり“化学の工学”である。たとえば、新しく発見あるいは合成された高機能物質を実生活で利用するためには、これらを工業製品として必要な量を適正な価格で効率的に生産する必要がある。そのため、限りある資源・エネルギーを有効に利用すると共に環境への負荷を最小とし、かつ最も効率の良い生産方式を選定あるいは開発しなければならない。そのため化学工学は、特に、最適な生産方式の開発、新しいプラントや装置の設計・運転管理に必要な原理を体系化した学問として発展している。

本プログラムでは、このような背景から、物質・エネルギーの効率的な利用や化学反応プロセスに関する教育・研究を通して、化学工学の基礎および専門知識を確実に修得した人材、化学工学的見地から環境問題にアプローチできる人材を育成する。

そのため、本プログラムは、以下の(A)～(E)を到達目標として掲げ、工学一般や化学工学に関する専門知識だけでなく、創造力、コミュニケーション能力など技術者・研究者として必要不可欠な基盤を養成し、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

- (A) 人・社会・自然と工学の関わりを理解と多面的な思考力を身につけている（工学倫理）
- (B) 論理的思考力を身につけている
- (C) 化学および化学工学の基礎の確実な修得と応用力を身につけている
- (D) 柔軟な適応力や創造力を身につけている、および自己啓発・研鑽意欲を持っている
- (E) プレゼンテーション・コミュニケーション能力の向上と高度情報化への適応力を身につけている

第四類（建設・環境系）・社会基盤環境工学プログラム

社会基盤環境工学プログラムは、社会基盤整備に携わる際に直面する様々な問題に自らの判断において総合的に対処できる技術者・研究者の育成を目指している。社会基盤施設を計画、設計、建設、維持管理するための工学理論の学習によって、以下に示す到達目標を達成するように編成された教養教育、専門教育を履修し、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

- (A) 教養・視野の広さ：広範化、複雑化する社会や自然環境を、自然、人文、社会という複数の科学的視点から観ることができる。
- (B) 課題発見力：国際社会・地域社会における自然と人間と技術とのかかわりを理解し、課題を発見できる能力。
- (C) 問題構成力：課題を論理的に整理し、技術的問題を構成できる。
- (D) 問題解析力：必要な情報を獲得し、技術的問題を抽象化、モデル化して、解析できる。
- (E) 評価力：複数の解決案を提案し、その結果を予測して、優劣を評価できる。

- (F) 伝達する能力：提案する解決案の内容、合理性、効果、実行可能性を他人に伝達できる。
- (G) 実行力・解決力：教養・視野の広さ、問題発見力、問題構成力、問題解析力、伝達する能力を総合的に駆使して、他者との協働により問題解決のプロセスを実行できる。さらに、以上のプロセスを体得し、問題解決力を自発的・継続的に高める。

第四類（建設・環境系）・建築プログラム

建築プログラムでは、広島固有性を背景に、幅広い知識と教養を学習し、かつ生活環境創造のための工学知識と技術を修得し、21世紀のサステナブルな開発、また情報化社会に対応した新しい建築物を自ら探求し、創造してゆくことのできる能力を育成する。

そのため本プログラムでは、幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養教育と、下記の到達目標を実現できるように編成された専門教育を履修し、卒業論文を含む、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

「知識・理解」

- 【A】 建築創造を通して平和な生活環境の実現に貢献できる。（平和な生活環境に貢献できる人材の育成）
- 【B】 社会の発展、人類の幸福に貢献できる。（人類の幸福に貢献できる人材の育成）
- 【C】 技術者として豊かな人格と倫理観を有している。（技術者としての倫理観の育成）
- 【D】 建築学の工学的な基礎知識を有している。（工学的基礎知識の修得）

「能力・技能」

- 【E】 建築学の総合的、個別的な専門知識・能力を有している。（建築専門知識・能力の修得）

「総合的な力」

- 【F】 デザイン能力が身についている。（デザイン能力の育成）
- 【G】 日本語および国際的コミュニケーション能力が身についている。（コミュニケーション能力の育成）
- 【H】 永続的な自己啓発、研鑽が出来る能力が身についている。（自己啓発、研鑽能力の育成）
- 【I】 的確で合理的な計画の立案と遂行能力が身についている。（計画立案と遂行能力の育成）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/12>）

（概要）

第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）・機械システムプログラム

機械システムプログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。

- ・機械系基礎教育とともに、新しい概念に基づく機械システムの構造・機能や機械システムの設計・加工原理、計算機を援用した設計（CAEやCAD）、計測・制御技術、メカトロニクス技術、数値シミュレーションと情報処理などで知能化された新しい機械システムの設計・生産原理と応用などに関する専門的教育を行っている。
- ・1年次には、平和科目、大学教育基礎科目、共通科目、基盤科目などの教養教育科目を修得すると共に、専門基礎科目や「工作実習」などの専門実習教育を履修する。
- ・2年次前期には、「材料力学Ⅰ」や「流体力学Ⅰ」などの第一類において共通し、重要な専門基礎科目に加え、後期から本プログラムの特徴を反映した専門性の高い先端要素技術関連科目とシステム統合化技術関連を専門科目として履修する。
- ・2年次後期から引き続き、3年次は専門科目が主要科目となり、本プログラムに必要な

科目を履修する。ただし、本プログラムでは、同一時限に複数の専門科目を開講しないように可能な限り配慮しているため、興味に応じて第一類の他プログラムが提供する専門科目の履修が可能となっている。

- ・4年次には、研究室に配属され、研究テーマを選択し、卒業論文を作成する。
上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。
学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）・輸送システムプログラム

輸送システムプログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとにカリキュラムを編成し、実践する。

- ・1年次においては、必修および選択必修から構成されるコア科目を修得する。これらの科目は、到達目標 A に対応し、語学、情報・データサイエンス科目、理数系科目、本プログラムの導入科目、その他の教養教育科目から構成されている。
- ・2年次においては、必修科目および選択必修科目を修得する。到達目標 B に対応する数学・力学系科目、到達目標 C に対応する材料力学・流体力学関連科目から構成されている。
- ・3年次においては、輸送機器および環境共生に関連の深い科目を修得するとともに、実験・実習、創成型プロジェクト科目群を通して、より専門性の高い知識と能力を養成する。到達目標 C に対応する専門性の強い力学系科目および、到達目標 D, E に対応するプロジェクト系科目から構成される。
- ・4年次において、輸送システムプログラムにおいて習得した、到達目標 A~E の能力を駆使して卒業論文に取り組み、また、提出された論文と発表の内容に基づいて、到達目標 A~E の習得状況を総合的に評価する。

上記のように編成した教育課程では、講義、実験、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。学修の成果は、各科目の成績評価と共に教育プログラムで設定する到達目標への到達度の二つで評価する。

第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）・材料加工プログラム

材料加工プログラムでは、機械系基礎教育とともに、新しい機能性材料の設計・開発と利用技術、生産・加工原理とその応用などに関する専門教育を行っている。プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。

- ・1年次には、平和科目、大学教育基礎科目、共通科目、基盤科目などの教養教育科目を修得すると共に、専門基礎科目や「工作実習」などの専門実習教育を履修する。
- ・2年次前期には、「材料力学 I」や「流体力学 I」などの専門基礎科目が主要な科目となる。また2年次後期にプログラムへの配属が行われ、これに伴ってプログラムに合わせた専門科目も主要な履修科目となる。
- ・3年次は引き続きプログラムに合わせた専門科目が主要な履修科目となる。
- ・4年次には、研究室に配属され、研究テーマを選択し、卒業論文を作成する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）・エネルギー変換プログラム

学修の成果は、各科目の成績評価と共に教育プログラムで設定する到達目標への到達度の二つで評価する。エネルギー変換プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。

- ・1年次には、平和科目、大学教育基礎科目、共通科目、基盤科目などの教養教育科目を修得すると共に、専門基礎科目や「工作実習」などの専門実習教育を履修する。
- ・2年次には、「熱力学Ⅰ」や「流体力学Ⅰ」などの専門基礎科目が主要な科目となる。また、第一類内に設定されている4つのプログラム（機械システム、輸送システム、材料加工、エネルギー変換）のうちのいずれかを選択して配属される。
- ・3年次は専門科目が主要科目となり、所属するプログラムに合わせて必要な授業を履修していく。
- ・4年次には、研究室に配属され、研究テーマを選択し、卒業論文を作成する。

上記のように編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

第二類（電気電子・システム情報系）・電気システム情報プログラム

電気システム情報プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、以下の知識・能力等を身につける教育課程を編成し、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

○ 知識・理解

- ・エンジニアとして基本的に備わっていることが必要とされる、社会と技術の関わりに関する理解、および倫理観の涵養（到達目標 A）。1年次に開講される教養教育科目の「大学教育入門」「人文社会学系科目群」および専門基礎科目の「エネルギーと情報システム概論」の履修を通して修得する。
- ・自然科学・技術者として必要とされる、微積分、線形代数など数学に関する基礎的な知識（到達目標 B）。1年次に開講される「微分積分学」などの基盤科目の履修を通して修得する。
- ・自然科学・技術者として必要とされる、物理学の理論および実験方法に関する基礎的な知識（到達目標 B）。1年次に開講される「一般力学」「物理学実験法・同実験」などの基盤科目の履修を通して修得する。
- ・電気・システム・情報分野の技術に関する全般的な理解・知識、およびこれらの分野に共通の基礎的な知識（到達目標 B）。1年次に開講される「エネルギーと情報システム概論」, 「回路理論Ⅰ」の履修を通して修得する。

○ 能力・技能

- ・電気・システム・情報分野の専門家として必要とされる数学的手法（到達目標 B）。1年次第3・4タームから2年次にかけて開講される「応用数学」などの専門基礎科目の履修を通して修得する。
- ・電気・システム・情報分野の基礎となる概念、知識および手法（到達目標 B）。1年次第3・4タームから3年次にかけて開講される専門科目の履修を通して修得する。
- ・電気・システム・情報分野の基礎概念、知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する能力（到達目標 B）。1年次第3・4タームから3年次にかけて開講される専門科目の履修を通して修得する。
- ・実的な問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法、および関連資料の収集により、問題・課題を解決する能力（到達目標 D）。2年次1・2タームから3年次に

かけて開講される「電気工学基礎実験」，「プログラミング」などの専門基礎科目の履修を通して修得する。

- ・ 実的な問題・課題に対して，自ら実行計画を立て，軌道修正を行ないつつ，基礎および専門的知識や手法を用いて，問題・課題を解決する能力（到達目標 C, D）。4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
- 総合的な力
- ・ 実的な問題・課題を分析し，社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すための創作的・論理的思考力や，この解決策を物理的に実現する技術開発能力（到達目標 C, D）。4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
 - ・ 研究などの結果を整理し，得られた成果の意義や有効性も含めて，文章で論理的に記述するとともに，口頭で分かりやすく発表し討論する能力（到達目標 E）。4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
 - ・ グループワークにおけるチームワーク，リーダーシップやコミュニケーション能力（到達目標 E）。2年次から3年次にかけて開講される「電気工学基礎実験」などの専門基礎科目の履修を通して修得する。
 - ・ 人類や社会そして個人に存在する様々な問題が，社会情勢や文化等によって多様に解釈できることを理解した上で，その問題解決に向けた取り組みができる能力（到達目標 A, D）。教養教育科目の「ベーシック外国語Ⅰ」「領域科目」などの履修を通して修得する。
 - ・ 研究遂行に必要な，英語に関する会話，リーディング，およびライティング能力（到達目標 E）。3年次に開講される「技術英語演習」および4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。

第二類（電気電子・システム情報系）・電子システムプログラム

到達目標 A から到達目標 E を達成するために求める能力および教育課程は以下のとおりである。編成した教育課程では，講義，演習等の教育内容に応じて，アクティブラーニング，オンライン教育なども活用した教育，学習を実践する。学修成果については，シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に，教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

○ 知識・理解

- ・ エンジニアとして基本的に備わっていることが必要とされる，社会と技術の関わりに関する理解，および倫理観の涵養（到達目標 A）。1年次に開講される教養教育科目の「大学教育入門」「情報・データサイエンス科目」および専門基礎科目の「エネルギーと情報システム概論」の履修を通して修得する。
- ・ 自然科学・技術者として必要とされる，微積分，線形代数など数学に関する基礎的な知識（到達目標 B）。1年次に開講される「微分積分学」などの基盤科目の履修を通して修得する。
- ・ 自然科学・技術者として必要とされる，物理学の理論および実験方法に関する基礎的な知識（到達目標 B）。1年次に開講される「一般力学」「物理学実験法・同実験」などの基盤科目の履修を通して修得する。
- ・ 電子システム分野の技術に関する全般的な理解・知識，およびこれらの分野に共通の基礎的な知識（到達目標 B）。1年次に開講される「エネルギーと情報システム概論」，「回路理論Ⅰ」の履修を通して修得する。

○ 能力・技能

- ・ 電子システム分野の専門家として必要とされる数学的手法（到達目標 B）。1年次第3・4タームから2年次にかけて開講される「応用数学」などの専門基礎科目の履修を通して修得する。
- ・ 電子システム分野の基礎となる概念，知識および手法（到達目標 B）。1年次第3・4タームから3年次にかけて開講される専門科目の履修を通して修得する。

- ・電子システム分野の基礎概念，知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する能力（到達目標 B）。1年次第3・4タームから3年次にかけて開講される専門科目の履修を通して修得する。
- ・実際的な問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法，および関連資料の収集により，問題・課題を解決する能力（到達目標 D）。2年次第1・2タームから3年次にかけて開講される「電気工学基礎実験」，「プログラミング」などの専門基礎科目の履修を通して修得する。
- ・実際的な問題・課題に対して，自ら実行計画を立て，軌道修正を行ないつつ，基礎および専門的知識や手法を用いて，問題・課題を解決する能力（到達目標 C, D）。4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。

○ 総合的な力

- ・実際的な問題・課題を分析し，社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すため創造的・論理的思考力や，この解決策を物理的に実現する技術開発能力（到達目標 C, D）。4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・研究などの結果を整理し，得られた成果の意義や有効性も含めて，文章で論理的に記述するとともに，口頭で分かりやすく発表し討論する能力（到達目標 E）。4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・グループワークにおけるチームワーク，リーダーシップやコミュニケーション能力（到達目標 E）。2年次から3年次にかけて開講される「電気工学基礎実験」などの専門基礎科目の履修を通して修得する。
- ・人類や社会そして個人に存在する様々な問題が，社会情勢や文化等によって多様に解釈できることを理解した上で，その問題解決に向けた取り組みができる能力（到達目標 A, D）。教養教育科目の「初修外国語」「領域科目」などの履修を通して修得する。
- ・研究遂行に必要な，英語に関する英会話，リーディング，およびライティング能力（到達目標 E）。3年次に開講される「技術英語演習」および4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。

第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）・応用化学プログラム

本プログラムの到達目標を達成するためには，基礎的な学力・知識を教養教育科目において修得したうえで，工学および化学の専門分野を学習する必要があるが，本プログラムでは，2年次第1・2タームまでに教養教育科目を履修し，2年次第3・4タームのプログラム配属以降，専門教育科目を履修するカリキュラムとなっている。

さらに本カリキュラムの特徴的な点は，第三類として共通性の高い基礎的な専門教育科目を専門基礎科目として分類し，入学後まもない1年次第3・4タームから履修させていることである。新入生にも専門基礎科目を履修させることで，自らの専門分野への意識と学習の動機を高める効果があると同時に，応用化学以外のプログラム（化学工学プログラム，生物工学プログラム）の教員が担当する講義を履修することで周辺分野の知識と興味を涵養する。

(Ka)～(Ko)の到達目標を達成するために教養教育科目および専門教育科目から構成されるプログラム体系は，以下のとおりである。

本教育課程では，講義，実技，演習等の教育内容に応じて，アクティブラーニング，オンライン教育なども活用した教育，学習を実践する。学修成果については，シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に，教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

○ 知識・理解

- ・教養教育と専門教育における幅広い基礎知識および化学に関する専門基礎知識（到達目標 (Ka)）。1年次から2年次に開講される教養教育科目の「大学教育入門」，「教養ゼミ」，領域科目，情報・データサイエンス科目，「微分積分学 I」などの基盤科目，および「基礎有機化学 I」，「基礎無機化学」などの専門基礎科目，2年次第3・4タームか

ら3年次にかけて開講される「専門有機化学Ⅰ」, 「無機化学」などの専門科目の履修を通して修得する。

- ・応用化学に関する高度な専門知識(到達目標(Ka))。1年次から2年次第1・2タームにかけて開講される「物理化学Ⅰ」, 「分析化学」などの専門基礎科目, 2年次第3・4タームから3年次にかけて開講される「高分子合成化学」, 「物理化学Ⅱ」などの専門科目, および4年次の「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・基礎および専門知識に裏付けられた論理的思考に基づく構想力(到達目標(Ka))。1年次から2年次第1・2タームにかけて開講される「物理化学Ⅰ」などの専門基礎科目, 2年次第3・4タームから3年次にかけて開講される「化学実験Ⅰ」, 「化学実験Ⅱ」などの専門科目, および4年次の「卒業論文」の履修を通して修得する。

○ 能力・技能

- ・科学と技術が社会に及ぼす効果を理解し, 社会に貢献するために研究者・技術者の責任をはたすことができるような資質(到達目標(Ki))。1年次に開講される教養教育科目の「教養ゼミ」や領域科目, 2年次第3・4タームに開講される専門基礎科目の「基礎化学実験」, 4年次に開講される専門科目の「技術と倫理」, および「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・技術の経済性・安全性・信頼性といった部分に関する知識とそれを地球的な視点から活用していく判断能力(到達目標(Ki))。1年次に開講される教養教育科目の「教養ゼミ」や領域科目, 2年次第3・4タームに開講される専門基礎科目の「基礎化学実験」, 4年次に開講される専門科目の「技術と倫理」, および「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・修得した知識・技術を活用して応用化学に関する多様な問題を解決できるようなクリエイティブな発想力(到達目標(Ku))。1年次から2年次に開講される教養教育科目の「教養ゼミ」や領域科目, 3年次に開講される「化学実験Ⅰ」や「化学実験Ⅱ」などの専門科目, および4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・研究者・技術者として問題解決のための能力を発揮できるような社会的に認められる倫理感, 研究・開発のデザイン能力(到達目標(Ku))。1年次に開講される教養教育科目の「大学教育入門」や領域科目, 3年次に開講される「化学実験Ⅰ」や「化学実験Ⅱ」などの専門科目, 4年次に開講される「技術と倫理」, 「卒業論文」の履修を通して修得する。

○ 総合的な力

- ・自主的, 継続的な学習能力(到達目標(Ke))。1年次から2年次に開講される教養教育科目の「大学教育入門」, 「教養ゼミ」, 平和科目, 領域科目, 基盤科目の「物理学実験法・同実験」, 2年次後期に開講される専門基礎科目の「基礎化学実験」, 3年次に開講される「化学実験Ⅰ」, 「化学実験Ⅱ」, 「有機化学演習」, 「物理化学演習」などの専門科目, および4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・情報収集, 技術の向上, 研究方法の改善, 研究結果および成果の解析・理解などに関して, 自立した研究者あるいは技術者としてみずから工夫して積極的に取り組み, 問題解決への多面的なアプローチを図る姿勢(到達目標(Ke))。1年次から2年次に開講される教養教育科目の「大学教育入門」, 「教養ゼミ」, 平和科目, 領域科目, 基盤科目の「物理学実験法・同実験」, 2年次第3・4タームに開講される専門基礎科目の「基礎化学実験」, 3年次に開講される「化学実験Ⅰ」, 「化学実験Ⅱ」などの専門科目, および4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・日本語による論理的な記述・発表・討論能力(到達目標(Ko))。1年次に開講される教養教育科目の「教養ゼミ」, 平和科目, 領域科目, 2年次第3・4タームに開講される専門基礎科目の「基礎化学実験」, 3年次に開講される「化学実験Ⅰ」, 「化学実験Ⅱ」などの専門科目, および4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・国際的視野で情報を収集・発信できる能力(到達目標(Ko))。1年次から2年次第1・2タームに開講される教養教育科目の「教養ゼミ」, 平和科目, 領域科目, 「コミュニ

ケーション IA」や「ベーシック外国語」などの外国語科目，2年次第3・4タームに開講される専門基礎科目の「技術英語演習」，および4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。

- ・地球的な視点から問題を取り扱うための国際的センス（到達目標(Ko)）。1年次に開講される教養教育科目の「教養ゼミ」，平和科目，領域科目，外国語科目，および4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。

第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）・生物工学プログラム

生物工学プログラムで，プログラムが掲げる(A)から(E)の到達目標を実現させるために，教養教育と専門教育が緊密に連結・融合した教育課程を編成・実践する。基礎的な学力・知識を教養教育科目において修得したうえで，工学および生物工学の専門分野を学習する必要があるが，教養教育科目に関しては主として2年次第1・2タームまでに履修し，2年次第3・4タームのプログラム配属以降は，主として専門科目を履修するカリキュラム構成となっている。

また，プログラム配属に先立って専門基礎科目を履修させることで，自らの専門分野への意識と学習の動機を高める効果があると同時に，生物工学以外のプログラム（化学工学プログラム，応用化学プログラム）の教員が担当する講義を履修することで周辺分野の知識も修得する。上記のように編成した教育課程では，講義，演習等の教育内容に応じて，アクティブラーニング，オンライン教育なども活用した教育，学習を実践する。学修成果については，シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に，教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

○ 知識・理解

- ・研究者および技術者の基本的な素養として必要とされる，人・社会・自然と工学との関わり方の理解と倫理観の涵養（到達目標 A）。1年次に開講される教養教育科目の「大学教育入門」，「教養ゼミ」，「平和科目」，「領域科目」，「情報・データサイエンス科目」等および専門基礎科目の「応用化学・化学工学・生物工学概論」，「基礎工業概論」等の履修を通して修得する。
- ・自然科学に関わる研究者および技術者として必要とされる，数学や物理学の理論および実験方法に関する基礎的な知識（到達目標 B）。1年次に開講される「微分積分学」，「線形代数学」などの数学系の基盤科目および，「一般力学 I・II」，「物理学実験法・同実験」などの物理学系の基盤科目の履修を通して修得する。
- ・生物工学の専門家として必要とされる，生物工学，生命科学，化学一般に関する全般的な理解と基礎知識（到達目標 B, C）。1年次に開講される「基礎生命科学」，「基礎有機化学 I」，「基礎無機化学」，「環境科学基礎論」等の専門基礎科目の履修を通して修得する。
- ・生物工学の専門家として必要とされる数学的手法（到達目標 B）。1年次第3・4タームから2年次にかけて開講される「応用数学 I・II」，「確率・統計」などの専門基礎科目の履修を通して修得する。
- ・生物工学分野の研究者および技術者として必要とされる，専門的な知識および概念（到達目標 C）。2年次第3・4タームから4年次にかけて開講される「微生物学 I・II」，「分子生物学 I・II・III」，「酵素化学」，「培養技術論」などの生物工学プログラムの専門科目の履修を通して修得する。

○ 能力・技能

- ・与えられた問題・課題を解決するための実験遂行能力，および実験結果と関連資料から，課題を考察し解決する能力（到達目標 C, D, E）。1年次第3・4タームから3年次にかけて開講される「生物学実験法・同実験」，「基礎化学実験」，「生物工学実験 I・II」などの生物工学に密接に関係する実験系科目の履修を通して修得する。
- ・実際的な問題・課題に対して，自ら実行計画を立て，軌道修正を行ないつつ，基礎および専門的知識や手法を用いて，問題・課題を解決する能力（到達目標 C, D, E）。4年次

に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。

○ 総合的な力

- ・ 実際的な問題・課題を発見・解決するために、文献情報等を整理・分析する能力、およびその結果に基づいて研究計画を論理的に立案し遂行する能力（到達目標 C, D, E）。3年次に開講される「生物工学討論」、4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・ 研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて、文章で論理的に記述するとともに、プレゼンテーション用の資料を作成し、口頭で分かりやすく発表し討論する能力（到達目標 E）。3年次に開講される「生物工学討論」、4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。
- ・ グループワークにおけるチームワーク、リーダーシップやコミュニケーション能力（到達目標 E）。2年次第3・4タームから3年次にかけて開講される「基礎化学実験」、「生物工学実験Ⅰ・Ⅱ」、3年次に開講される「生物工学討論」の履修を通して修得する。
- ・ 研究遂行に必要な英語に関するリーディング、ライティングおよび英会話の能力（到達目標 E）。教養教育科目の「コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ」、2年次第3・4タームに開講される専門基礎科目の「技術英語演習」および4年次に開講される「卒業論文」の履修を通して修得する。

第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）・化学工学プログラム

本プログラムの到達目標(A)～(E)を達成するために、第三類として共通の教養教育科目と専門基礎科目、および本プログラム独自の専門科目からなる教育課程を以下に示すように編成し、実践する。編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。学修の成果は、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

(A) 人・社会・自然と工学の関わり の理解と多面的な思考力の養成

教養教育科目である「大学教育入門科目」、「教養ゼミ」、「平和科目」、「領域科目」、「健康スポーツ科目」、「化学プロセスと工学倫理」、「グリーンテクノロジー」、「再資源工学」などの科目を通して、技術が社会および自然に及ぼす影響と技術者が社会に対して負っている責任を理解し、工学とそれを取りまく人間・社会・自然環境との関わりを多面的に地球的視野で考慮することができる能力を育成する。

(B) 論理的思考力の養成

教養教育科目の基盤科目である「物理学実験法・同実験」、「生物学実験法・同実験」などの実験科目、および「微分積分学」、「線形代数学」、「一般力学」、「基礎電磁気学」などの数学、物理学の科目を通して、数学・物理などの自然科学および技術に関する基礎知識を確実に修得するとともに、それらを基盤として論理的思考力を強化する。

(C) 化学および化学工学の基礎の確実な修得と応用力の養成

体系化、精選された教育カリキュラムの中で確実な工学基礎学力を身につけ、その上に専門知識と応用力を養成する。特に、演習および実験を重視することで化学工学の専門科目の確実な修得を目指す。これにより工学に携わる者として自立するための能力と共に、大学院でより高度な研究に携わるための基礎を修得する。さらに、工場見学、化学プラント設計に関する実習、実務経験に富む学外講師による講義などを通して、高い技術者意識を養成する。本プログラムの目標(C)の達成に際しては、以下の5分野を柱とした能力の育成を行う。

(C1) 工学基礎

「応用数学」、「化工数学」、「確率・統計」、「情報・データ科学入門」、「工学プログラミング基礎」、「数値計算法」、「物理化学」、「基礎有機化学」、「基礎無機化学」、

「分析化学」、「環境科学基礎論」、「グリーンテクノロジー」、「基礎工業概論」、「基礎生命科学」、「生物化学」、「材料科学」、「材料力学」などの履修により、応用数学、情報処理・計算機利用技術、基礎化学、環境科学、材料科学、材料力学などの工学基礎に関する知識およびそれらを問題解決に利用できる能力を養成する。

(C2) 化学工学基礎

「化学工学量論」、「応用化学・生物工学・化学工学概論」、「基礎化学工学」、「物理化学」、「化学工学熱力学」、「化学工学演習」、「化学工学熱力学演習」などの履修により、物質・エネルギー収支を含む化学工学量論、物理・化学平衡を含む熱力学、熱・物質・運動量の移動現象論などの専門知識、実験技術を修得し、さらにそれらを問題解決に利用できる能力を養成する。

(C3) 化学基礎

「基礎有機化学」、「無機化学」、「反応工学」、「反応速度論」、「高分子合成化学」、「電気化学」、「生物化学」、「発酵工学」、「応用生物工学」、「基礎化学実験」などの履修により、有機化学、反応工学、高分子化学、電気化学、生物化学、エネルギー化学などの化学に関連する分野の基礎知識、実験技術を修得し、さらにそれらを問題解決に利用できる能力を養成する。

(C4) 化学工学専門

「伝熱論」、「流動論」、「物質移動論」、「反応工学」、「粉体工学」、「プロセス制御工学」、「化学装置設計・実習」、「化学工学演習」、「化学工学実験」などの履修により、伝熱、流動、物質移動、反応工学、粉体工学、プロセス制御工学、設計製図などの化学工学の分野に関する専門知識、実験技術を修得し、さらにそれらを問題解決に利用できる能力を養成する。

(C5) 化学工学応用

「化学工程設計」、化学工業プロセス」、「化学プロセスと工学倫理」などの履修により、経済性・安全性・信頼性・社会の影響を配慮しながら、物質循環・環境負荷を考慮した物質・エネルギープロセスを研究・開発・設計する能力とマネジメント能力を養成する。

(D) 柔軟な適応力や創造力の養成、および自己啓発・研鑽意欲の醸成

「大学教育入門科目」、「教養ゼミ」、「化学工程設計」、「卒業論文」などの履修により、実験、化学プロセスの設計、卒業研究などで様々な考えの人と触れ合いながら課題に取り組み、工学に携わることを実際に体験することで創造力、問題解決能力、自己啓発・研鑽意欲を育成する。

(E) プレゼンテーション・コミュニケーション能力の向上と高度情報化への適応力の養成

「教養ゼミ」、「情報・データ科学入門」、「コミュニケーション科目」、「ベーシック外国語」、「技術英語演習」、「化学工程設計」、「卒業論文」などの履修により、論理的な記述・発表・討論能力を強化する。また、技術英語科目の推進などにより、国際的視野で工学的分野での情報を収集・発信できる能力を養う。さらに、徹底した情報リテラシー教育により情報を活用する能力を養成する。

第四類（建設・環境系）・社会基盤環境工学プログラム

七つの到達目標を達成するために求める能力は以下のとおりである。社会基盤環境工学の技術者としてこれらの力を養成できるように教育課程を編成する。

編成した教育課程では、講義、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

(A) 教養・視野の広さ

○求める能力：広範化、複雑化する社会や自然環境を、自然、人文、社会などの複数の科学的視点から観ることができる能力。

- ・自然環境の現状と今後予想される環境問題を説明できる。
- ・同一対象に関する異なる科学的知見が対立する例を示すことができる。
- ・研究課題の解明に関連する複数の科学的知見を列挙できる。

(B) 課題発見力

- 求める能力：国際社会・地域社会における自然と人間と技術のかかわりを理解し、課題を認識できる能力。
- ・土木構造物と周辺環境の特徴を理解し、起こりうる自然現象や災害を列挙できる。
 - ・環境共生に対して土木技術が果たしてきた役割を説明できる。
 - ・研究課題に関連する既存技術を位置づけ、目標を設定できる。

(C) 問題構成力

- 求める能力：課題を論理的に整理し、技術的問題を構成できる能力。
- ・数学、物理学等の知識を用い、現象の主要な要素を支配する方程式系を選択できる。
 - ・多様性のある現象や災害などの事象を数理的に表現、理解できる。
 - ・研究対象となる現象を構成する主要要素を的確に説明できる。

(D) 問題解析力

- 求める能力：必要な情報を獲得し、技術的問題を抽象化、モデル化して、解析できる能力。
- ・現象のモデル化に必要な情報を獲得できる。
 - ・数理的な手法を用いてモデルの解を求めることができる。
 - ・研究における解析手法の妥当性、信頼性を説明できる。

(E) 評価力

- 求める能力：複数の解決案を提案し、その結果を予測して、優劣を評価できる能力。
- ・理論的に得られた解の実現象への適用性や限界を考察できる。
 - ・複数の代替案を設計し、結果を予測し比較できる。
 - ・研究から得られた知見や土木技術の適用性、限界、社会的な意義を説明できる。

(F) 伝達する能力

- 求める能力：提案する解決案の内容、合理性、効果、実行可能性を他人に伝達できる能力。
- ・情報処理機器を用い、一定の品質を伴った正確な図、表、文章を作成できる。
 - ・討議、発表の場で自らの考えを他人に理解させることができる。
 - ・日本語および英語を用いて基礎的なコミュニケーションを行うことができる。

(G) 実行力・解決力

- 求める能力：(A)～(F)を総合的に駆使して、他者との協働により問題解決のプロセスを実行できる能力。以上のプロセスを体得し、問題解決力を自発的・継続的に高める能力。
- ・チームでの分担を考え、計画的に仕事を進めることができる。
 - ・問題解決プロセスを評価し、改善提案を行うことができる。
 - ・より複雑な課題に答えるために学ぶべき知識を自ら見出すことができる。

第四類（建設・環境系）・建築プログラム

建築プログラムでは、ディプロマ・ポリシーで掲げる到達目標 A～I を学生が実現できるように、次のような方針で教育課程を編成し実施している。

- ・4年間で学ぶ授業科目には、「教養教育科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」の3種類がある。
- ・工学部（第四類）として入学した1年次には、主として教養教育科目を学ぶ。この教養教育科目には、「教養ゼミ」や「平和科目」、外国語科目等の他、基盤科目としての数学・物理学系の科目が含まれる。また専門基礎科目のはじめとして「応用数学Ⅰ」と「空

間の創造」を学ぶ。

- ・2年次進級時に「建築プログラム」への配属が決まると、本格的に「専門基礎科目」, 「専門科目」を学び始める。2・3年次に学ぶ「専門基礎科目」としては、建築材料, 鉄筋コンクリート構造などの「建築構造」に関する科目, 「建築環境」に関する科目, 建築史, 建築法規, 都市計画, 建築計画, 建築設計製図などの「建築計画」に関する科目などがある。これらの多様な領域と専門性のレベルの各種の科目を系統的に学習することによって, 21世紀の建築を担うに必要な総合的な知識や方法論などを修得する。
- ・3年次末にそれまでの成績をチェックし, 卒業論文着手資格を判定する。この判定を経て4年次に進級する時点で各研究室への配属が行われ, それぞれの専門的な研究テーマを設定して実験・調査等を含む卒業研究に着手する。最終的に取りまとめた卒業論文について, 最終審査を受け, 卒業・学位取得に至る。
- ・到達目標 A (平和な生活環境に貢献できる人材の育成) は1年次に開講される教養教育科目の「平和科目」, 3年次に開講される専門科目「平和都市・建築論」等の履修を通して修得する。
- ・到達目標 B (人類の幸福に貢献できる人材の育成) は2年次に開講される専門基礎科目の「建築計画Ⅰ」, 「都市計画」等の履修を通して修得する。
- ・到達目標 C (技術者としての倫理観の育成) は3年次に開講される専門基礎科目の「建築行政」, 専門科目の「建築施工」, 「建築倫理」等の履修を通して修得する。
- ・到達目標 D (工学的基礎知識の修得) は1年次から2年次にかけて開講される専門基礎科目の「応用数学Ⅰ, Ⅱ」, 「確率・統計」, 「空間の創造」, 「建築コンピュータ工学」等の履修を通して修得する。
- ・到達目標 E (建築専門知識・能力の修得) は1年次に開講される「空間の創造」および2年次から3年次にかけて開講される建築構造, 建築環境, 建築計画に関する科目の履修を通して修得する。
- ・到達目標 F (デザイン能力の育成) は2年次に開講される専門基礎科目の「建築図学」, 専門科目の「芸術制作」, 3年次から4年次にかけて開講される専門科目の「建築生産マネジメント」, 「建築構造設計」等の履修を通して修得する。
- ・到達目標 G (コミュニケーション能力の育成) は1年次に開講される教養教育科目の外国語科目および「教養ゼミ」, 2年次に開講される専門基礎科目の「技術英語演習」, 3年次に開講される専門科目の「建築ゼミナールⅠ, Ⅱ」等の履修を通して修得する。
- ・到達目標 H (自己啓発, 研鑽能力の育成) は2年次に開講される専門基礎科目の「建築設計製図Ⅰ, Ⅱ」, 3年次から4年次にかけて開講される専門基礎科目の「建築見学演習」, 「建築学外演習」, 専門科目の「卒業論文」等の履修を通して修得する。
- ・到達目標 I (計画立案と遂行能力の育成) は3年次から4年次にかけて開講される専門科目の「建築設計製図Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ」, 「卒業論文」等の履修を通して修得する。

上記のように編成した教育課程では, 講義, 製図, 演習等の教育内容に応じて, アクティブラーニング, 体験型学習, オンライン教育なども活用した教育, 学習を实践する。

学修成果については, シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に, 教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法: インターネット)

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/12>

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/006> (学部第3年次編入学試験))

(概要)

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

工学部では, 工学を培い, 工学を通じて人の社会のために働く人材の育成を目指しており, 次のような学生を求めています。

- (1) 基礎的・基本的な学力を幅広くきちんと身につけ, 特に理科や数学に高い学力を有する人
- (2) 工学に興味を持ち, これを学ぶことに意欲を有する人
- (3) 工学を通じて社会に貢献することを目標とする人

2 入学者選抜の基本方針

工学に対する社会の多様なニーズに応え、また学生の幅広い進路を可能にするため、広島大学工学部では4つの類を設置し、さらに各類に複数の主専攻プログラム(修学のコース)を設けています。各類では、各主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を下記のように「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位(類・コース)のアドミッション・ポリシー

工学部 第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)

1 求める学生像

本類が編成している機械システムプログラム、輸送システムプログラム、材料加工プログラム及びエネルギー変換プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、機械・輸送・材料・エネルギー系分野を学ぶために十分な学力があり、特に数学、理科(物理・化学)、英語に高い学力を有し、できれば実用英語技能検定において高い等級又はTOEIC等において高スコアを有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、自らの問題意識に基づいて主体的に学習し、様々な課題に対して多面的及び創造的に取り組む人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、ものづくり産業基盤を支える機械・輸送・材料・エネルギー分野のエンジニアとして国際的な活躍を希望する人、又は先端領域の研究者や専門家になることを希望する人

なお、第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容としては、各高等学校等が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、大学入学後の勉学に支障をきたさないように履修していることに加え、特に工学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学、理科(物理・化学)、英語に関して十分理解していることが望まれます。

また、第1年次の入学後に、材料力学、機械力学、熱力学、流体力学(いわゆる四力学)などの基礎的な科目、機械システム・輸送システム・材料加工・エネルギー変換の各分野における専門性の高い科目、英語によるコミュニケーションに関する科目を鋭意学修し、工学的課題を論理的思考により自ら解決する能力及びコミュニケーション能力の向上に意欲的に取り組むことができ、力学を基盤とした工学的視点から先端的な研究・開発を担える国際的な人材を志す学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本類では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 面接
広島大学 光り輝き 入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、筆記試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト、筆記試験、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、筆記試験	○ 面接、筆記試験	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査、面接	○ 面接
	総合型選抜外国人留学生型 3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、面接	○ 面接	○ 面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

機械・輸送・材料・エネルギー系プログラムでは、工学部共通の求める学生像に準じて、以下のような学生を求めています。

- (1) 機械・輸送・材料・エネルギー分野を学ぶために十分な学力があり、特に数学、理科(物理、化学)、英語に高い学力を有し、できれば実用英語技能検定において高い等級又はTOEIC(R)等において高スコアを有する人
- (2) 自らの問題意識に基づいて主体的に学習し、様々な課題に対して多面的及び創造的に取り組む人
- (3) ものづくり産業基盤を支える機械・輸送・材料・エネルギー分野のエンジニアとして国際的な活躍を希望する人、又は先端領域の研究者や専門家になることを希望する人

なお、第3年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。

数学(微積分、線形代数、微分方程式、ベクトル解析等)、物理(質点・剛体の力学、電磁気学)、化学、および機械・輸送・材料・エネルギー分野の専門科目(材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、材料科学等)

また、第3年次の入学後に機械・輸送・材料・エネルギー分野のエンジニアとして国際的に活躍できる、又は先端領域の研究者や専門家になれる能力を、主体的な学習及び様々な課題に対して多面的・創造的に取り組むことにより身につけられる学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入するための専門的知識及び語学力を修得していることを確認し、本類のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために、数学・力学に関する筆記及び機械・輸送・材料・エネルギー分野に関する面接試験を課し、学業成績証明書、TOEIC(R)／TOEFL(R)スコア証明書、筆記及び面接試験の結果を評価し、総合成績を四段階(A, B, C, D)により評価します。

工学部 第二類 (電気電子・システム情報系)

※令和7年4月に「電子システムプログラム」を廃止し、「半導体システムプログラム(仮称)」を新設する予定です(計画中)。

1 求める学生像

本類が編成している電気システム情報プログラム及び電子システムプログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、電気工学・電子工学・システム工学・情報工学を学ぶ上で必要な、数学と理科(物理・化学)に関する高い学力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、解決すべき課題を論理的に分析し、数学や理科(物理・化学)等の知識・理解を適用することで、多面的及び創造的に解決することができるとともに自らの知識や考えを相手に分かりやすく伝えることができる人又はこれらの学習に積極的に取り組む人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、コミュニケーション能力や協調性を発揮してグループワークを遂行し、必要に応じてリーダーシップを発揮してグループワークの成功に貢献できる人、又はこれらの能力を高める努力ができる人

なお、第1年次の入学前の学習においては、上記の数学や物理に加え、各高等学校等が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、大学入学後の勉学に支障をきたさないように履修すること、特に英語に関しては4技能(読む・書く・聞く・話す)を十分に学習することが望まれます。

また、第1年次の入学後に、電気・電子・システム・情報の各工学分野における先端的な研究・開発を担える国際的な人材を志し、自らの問題意識をもって、これらの分野における専門的な知識、技能、課題解決能力の習得や、英語を含む言語でのコミュニケーション能力の向上に意欲的に取り組むことができる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本類では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 面接
広島大学 光り輝き 入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、小論文、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト、小論文、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書	○ 小論文、面接	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査、面接	○ 面接
	総合型選抜外国人留学生型 3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 面接	○ 面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

工学部第二類(電気電子・システム情報系)では、電気工学・電子工学・システム工学・情報工学を通じて、人と社会のために働く人材の育成を目指しています。学部第3年次に編入するための専門的知識及び語学力を身につけた人で、特に以下のような学生を求めています。

- (1) 科学的現象に特に興味を持ち、これまでに深く掘り下げて学習した経験がある人
- (2) モノ作りが好きで、これまでに何かを創意工夫して作った経験がある人
- (3) 集積回路やコンピュータハードウェアに興味があり、これらを設計開発したいと考えている人
- (4) 複雑な現象を数学的に表現・分析することに興味がある人
- (5) 自分のアイデアをソフトウェアなどによって実現することに興味がある人
- (6) TOEIC(R)、実用英語技能検定等において好成績を修めた優れた語学力を有しており、第二類に関連する分野で国際的に活躍することを目指している人

なお、第3年次の入学前の学習においては、数学や物理、英語に加え、各高等専門学校等が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、編入学後の勉学に支障をきたさないように履修することが望まれます。

また、第3年次の入学後に電気・電子・システム・情報の各工学分野における先端的な研究・開発を担える国際的な人材を志し、自らの問題意識をもって、これらの分野における専門的な知識、技能、課題解決能力の習得や、英語を含む言語でのコミュニケーション能力の向上に意欲的に取り組むことができる学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入するための専門的知識及び語学力を修得していることを確認し、本類のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために、専門（電磁気・電気回路あるいは情報・システム工学）や数学に関する試問を課し、面接、学業成績証明書及びTOEIC (R) / TOEFL (R) スコア証明書の成績を評価し、総合成績をA, B, C, Dの4段階評価により評価します。

工学部 第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）

1 求める学生像

本類が編成している応用化学プログラム、生物工学プログラム及び化学工学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下のような学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校段階での基礎的・基本的な知識を広く習得すると共に、理科（化学・物理・生物）、数学、外国語に高い学力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、様々な知識の中から適切なものを選択・結合し、課題に対して多面的、創造的に取り組み、その過程や結論を相手に分かりやすく伝えることのできる人、又はこれらの能力を習得することに積極的な人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、集団活動等においてリーダーシップを発揮できる人、又は科学技術に強い関心があり、将来、下記のような持続可能な社会づくりに必要な開発研究等に関して広く社会で活躍することを希望する人
 - ・次世代の再生可能エネルギー技術や資源・エネルギーの有効利用技術、環境保全に関する技術の開発
 - ・人類の生活を豊かにする新しい機能材料や化学物質の開発
 - ・動植物・微生物を利用した新しいバイオテクノロジーの開発
 - ・医薬・食品・機能材料等の製造に関わる新しいプロセス技術の開発

なお、第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容としては、各高等学校等が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、大学入学後の勉学に支障をきたさないように履修していることに加え、特に工学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学、理科（物理・化学）、英語に関して十分理解していることが望まれます。

また、第1年次の入学後に応用化学・生物工学・化学工学分野の幅広い基礎学力を培い、新技術を通じて人と社会のために働く高度専門技術者になれる学生、又は大学院に進学し当分野の先進的な研究者や専門家になれる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本類では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 面接
広島大学 光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト	○ 調査書、自己推薦書、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)、理科に関する優れた課外活動
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書	○ 小論文、面接	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査、面接	○ 面接
	総合型選抜外国人留学生型 3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 面接	○ 面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本類が編成している応用化学プログラム、生物工学プログラム及び化学工学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下のような学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等専門学校等での基礎的・基本的な知識を広く習得すると共に、本類各プログラムのカリキュラム・ポリシーに適應するために理科（化学・物理・生物）、数学、外国語に高い学力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、様々な知識の中から適切なものを選択・結合し、課題に対して多面的、創造的に取り組み、その過程や結論を相手に分かりやすく伝えることのできる人、又はこれらの能力を習得することに積極的な人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、集団活動等においてリーダーシップを発揮できる人、又は科学技術に強い関心があり、将来、下記のような持続可能な社会づくりに必要な開発研究等に関して広く社会で活躍することを希望する人
 - ・次世代の再生可能エネルギー技術や資源・エネルギーの有効利用技術、環境保全に関する技術の開発

- ・人類の生活を豊かにする新しい機能材料や化学物質の開発
- ・動植物・微生物を利用した新しいバイオテクノロジーの開発
- ・医薬・食品・機能性材料等の製造に関わる新しいプロセス技術の開発

なお、第3年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。各高等専門学校等が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、大学編入学後の勉学に支障をきたさないように履修していることに加え、特に工学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学、理科（化学・物理）、英語に関して十分理解していることが望まれます。

また、第3年次の入学後に応用化学・生物工学・化学工学分野の幅広い基礎学力を培い、新技術を通じて人と社会のために働く高度専門技術者になれる学生、又は大学院に進学し当分野の先進的な研究者や専門家になれる学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入するための専門的知識及び語学力を修得していることを確認し、本類のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために、勉学に対する意欲・志向についての質問及び数学、専門（化学又は生化学）に関する口頭試問を課し、面接・成績証明書及び外部英語検定試験の成績を評価し、総合成績をA,B,C,Dの4段階評価により評価します。

工学部 第四類（建設・環境系）

1 求める学生像

本類が編成している社会基盤環境工学プログラム及び建築プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校での基礎的・基本的な学力を幅広くきちんと身につけ、特に、理科や数学に高い学力・能力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、安全、快適で環境に優しい国土、生活空間の構築に関する問題意識を持ち、それについて思考・判断し、また表現することを、常日頃から心がけている人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、社会基盤環境工学や建築の分野に強く興味を持ち、多様な人々と協働しながら、その分野を主体的に学習することによって、社会に貢献することを目標とする人

なお、第1年次の入学前に学習しておくことが期待される内容としては、各高等学校等が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、大学入学後の勉学に支障をきたさないように履修していることに加え、特に工学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学、理科（物理・化学）、英語に関して十分理解していることが望まれます。

また、第1年次の入学後に、高い倫理観と強い使命感とを有し、安全、快適で環境に優しい国土、生活空間の計画、創造、維持、再生を通して、広く社会に貢献する人材となり得る学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本類では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型、国際バカロレア型、外国人留学生型2月実施、3月実施

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 面接
広島大学 光り輝き 入試	総合型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、小論文、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○ 大学入学共通テスト、小論文、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書	○ 小論文、面接	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査、面接	○ 面接
	総合型選抜外国人留学生型 3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○ 面接	○ 面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本類が編成している社会基盤環境工学プログラム、及び建築プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、編入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 高等専門学校等での基礎的、基本的な学力を幅広くきちんと身につけ、特に、理科や数学に高い学力、能力を有する人
- (2) 社会基盤環境工学、建築の分野に興味を持ち、これを学ぶことに意欲を有する人
- (3) 社会基盤環境工学、建築の分野を通して、社会に貢献することを目標とする人

なお、第3年次の入学前に学習しておくことが期待される内容は、以下のとおりです。各高等専門学校等が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、大学編入学後の勉学に支障をきたさないように履修していることに加え、特に工学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学、理科（物理・化学）、英語に関して十分理解していることが望まれます。

また、第3年次の入学後に、高い倫理観と強い使命感とを有し、安全、快適で環境に優しい国土、生活空間の計画、創造、維持、再生を通して、広く社会に貢献する人材となり得る学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入するための専門的知識及び語学力を修得していることを確認し、本類のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために、面接（段階評価）、成績証明書及びTOEIC(R)/TOEFL(R)スコア証明書を評価し、総合成績を四段階（A, B, C, D）により評価します。なお、面接では、本学における専門教育に関わる基礎的な知識（数学、物理を含む）に関する試問を行い、学習能力や適性などについて評価します。

工学部 工学特別コース

1 求める学生像

入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校での基礎的、基本的な学力を幅広くきちんと身につけ、特に、理科や数学に高い学力、能力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、自らの問題意識に基づいて主体的に学習し、様々な課題に対して多面的及び創造的に取り組む人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、グループワークにおけるチームワーク、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる人

なお、入学前に学習しておくことが期待される内容としては、各高等学校等が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、大学入学後の勉学に支障をきたさないように履修していることに加え、特に工学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学、理科（物理・化学・生物）、英語に関して十分理解していることが望まれます。

また、入学後に実際的な問題・課題を分析し、社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すため創造的・論理的思考力や、この解決策を物理的に実現する技術開発能力、研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて、文章で論理的に記述するとともに、口頭で分かりやすく発表し討論する能力、研究遂行に必要な、英語に関する会話、リーディング及びライティング能力を身につけられる学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本コースでは、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び可否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	

学部等名 生物生産学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、環境と調和した持続可能な食料生産及び生物資源の活用を目指し、生物及び環境に関わる農学領域の知の継承と創造を通して教育研究を行うことにより、この領域の科学的知識と地球規模の広い視野をもって活躍し、社会に貢献し得る人材を養成することを目的とする。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/13 ）
<p>（概要）</p> <p><u>生物生産学科・水圏統合科学プログラム</u></p> <p>水圏統合科学主専攻プログラムでは、水圏における食料生産や資源の循環・有効利用を目指す企業や法人機関等における専門技術者等として活躍できる人材を養成する。そのため本プログラムでは、以下の能力を身につけ、基準となる単位を修得すると共に規定の到達目標に達し、かつ生物生産学部が定める審査に合格した学生に「学士（農学）」の学位を授与する。</p> <p>●教養教育科目を通して</p> <p>(1) 自主的・自立的に学修する態度を習慣づけており、情報収集力・分析力・批判力を身につけ、これらを活用できる。</p> <p>(2) ものごとの本質と背景を広い視野から洞察する力や、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に対する関心を持つことができる。</p> <p>(3) 幅広い知識から、問題を発見し、真に問題解決に役立つ「知識体系」へと統合し、総合的な見地からものごとを俯瞰できる。</p> <p>(4) 一般的な科学的基礎知識を持ち、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な知識と技能を理解できる。</p> <p>●専門教育のうち専門基礎科目を通して</p> <p>(5) 生物及び生物圏に関する先端的な話題や基本的な概念を理解できる。</p> <p>(6) 生物生産学の価値志向性やグローバル化した社会との関わりを理解でき、科学の応用における対話や合意形成の重要性を理解できる。</p> <p>(7) 研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解できる。</p> <p>●本プログラムの専門科目を通して</p> <p>(8) 水圏生物、水産業、水圏環境に関する知識を習得し、水産資源の管理と水産物の利用の方法について理解できる。</p> <p>(9) 水産業と水圏環境の保全を両立させるために必要な理論を理解し、水圏生物の諸特性について、生理学、生化学、生態学的手法を用いて分析・評価することができる。</p> <p>(10) 水圏生物の取り扱いをその特性に基づいて実施でき、有用水産資源の管理・利用について技術者・研究者倫理に基づき、多面的視野にたって実践的に応用・活用できる。</p> <p>(11) 水圏生物の具体的諸事象について、自分の考えをまとめ、文章や口頭で論理的に発表し、意見交換することができる。</p> <p><u>生物生産学科・応用動植物科学プログラム</u></p> <p>応用動植物科学主専攻プログラムでは、品質と安全性に優れた動物性及び植物性食資源の持続的な生産や人間生活の豊かさを向上させるための動植物資源の利用等に関わる分野の研究者・専門技術者等として活躍できる人材を養成する。そのため本プログラムでは、以下の能力を身につけ、基準となる単位を修得すると共に規定の到達目標に達し、かつ生物生産学部が定める審査に合格した学生に「学士（農学）」の学位を授与する。</p>

●教養教育科目を通して

- (1) 自主的・自立的に学修する態度を習慣づけており、情報収集力・分析力・批判力を身につけ、これらを活用できる。
- (2) ものごとの本質と背景を広い視野から洞察する力や、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に対する関心を持つことができる。
- (3) 幅広い知識から、問題を発見し、真に問題解決に役立つ「知識体系」へと統合し、総合的な見地からものごとを俯瞰できる。
- (4) 一般的な科学的基礎知識を持ち、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な知識と技能を理解できる。

●専門教育のうち専門基礎科目を通して

- (5) 生物及び生物圏に関する先端的な話題や基本的な概念を理解できる。
- (6) 生物生産学の価値志向性やグローバル化した社会との関わりを理解でき、科学の応用における対話や合意形成の重要性を理解できる。
- (7) 研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解できる。

●本プログラムの専門科目を通して

- (8) 動植物資源の生産・利用に関して、分子・細胞・個体レベルでの生命現象ならびに生態系や生産環境に至るまで体系的に理解できる。
- (9) 動植物資源の生産・利用に関する学問領域において、情報の収集・分析力や研究手法を体系的に習得し、実践的に応用・活用できる。
- (10) 動植物資源の生産・利用を学ぶことにより得た知識・技能等を総合的に活用し、自らがたてた課題に取り組み、結論を文章や口頭で論理的に表現し、議論することができる。

生物生産学科・食品科学プログラム

食品科学専攻プログラムでは、食料の生産管理と流通、食品素材の機能評価と高度利用、安全で高品質・高機能な食品の製造と開発、食品素材の機能解析と有効利用に関する基礎知識と技術を総合的に教育し、広い視野から健康で豊かな食生活の創成において活躍できる人材を養成する。そのため本プログラムでは、以下の能力を身につけ、基準となる単位を修得すると共に規定の到達目標に達し、かつ生物生産学部が定める審査に合格した学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

●教養教育科目を通して

- (1) 自主的・自立的に学修する態度を習慣づけており、情報収集力・分析力・批判力を身につけ、これらを活用できる。
- (2) ものごとの本質と背景を広い視野から洞察する力や、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に対する関心を持つことができる。
- (3) 幅広い知識から、問題を発見し、真に問題解決に役立つ「知識体系」へと統合し、総合的な見地からものごとを俯瞰できる。
- (4) 一般的な科学的基礎知識を持ち、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な知識と技能を理解できる。

●専門教育のうち専門基礎科目を通して

- (5) 生物及び生物圏に関する先端的な話題や基本的な概念を理解できる。
- (6) 生物生産学の価値志向性やグローバル化した社会との関わりを理解でき、科学の応用における対話や合意形成の重要性を理解できる。
- (7) 研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解できる。

●本プログラムの専門科目を通して

- (8) 食料の生産管理と流通に関する専門的知識を習得し、安全な食料を安定的に供給するための方策を総合的に考察できる。

- (9) 食品の製造と加工に関する専門的知識及び汎用的技能を習得し、食品素材を安全かつ高機能・高品質な食品へと変換するための実践的方策を理解できる。
- (10) 食品及び食品素材の安全性、栄養、嗜好性、生体調節機能、物性の評価と制御ならびに新規有効利用に関する基礎的及び専門的な知識と技能を修得し、実践できる。
- (11) 食料の生産から消費者が口にするまでの流れを統合的に学修することで、一貫したシステムとして理解できる。身につけた知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決し、結論を文章や口頭で論理的に表現し、議論できる。

生物生産学科・分子農学生命科学プログラム

分子農学生命科学主専攻プログラムでは、生物生産学の基盤となる生体分子・細胞・個体・個体群の生命現象に関する基礎的及び専門的な知識と技能を修得させ、さらに思考力と創造力を発揮できる科学者として企業、大学、その他公的機関等で活躍できる人材を養成する。そのため本プログラムでは、以下の能力を身につけ、基準となる単位を修得するとともに規定の到達目標に達し、かつ生物生産学部が定める審査に合格した学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

●教養教育科目を通して

- (1) 自主的・自立的に学修する態度を習慣づけており、情報収集力・分析力・批判力を身につけ、これらを活用できる。
- (2) ものごとの本質と背景を広い視野から洞察する力や、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に対する関心を持つことができる。
- (3) 幅広い知識から、問題を発見し、真に問題解決に役立つ「知識体系」へと統合し、総合的な見地からものごとを俯瞰できる。
- (4) 一般的な科学的基礎知識を持ち、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な知識と技能を理解できる。

●専門教育のうち専門基礎科目を通して

- (5) 生物及び生物圏に関する先端的な話題や基本的な概念を理解できる。
- (6) 生物生産学の価値志向性やグローバル化した社会との関わりを理解でき、科学の応用における対話や合意形成の重要性を理解できる。
- (7) 研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解できる。

●本プログラムの専門科目を通して

- (8) 分子及び細胞レベルから個体や生態系に至る微生物・植物・動物の生理・生体の機能について、知識を体系的及び階層的に理解することができる。
- (9) 分子から細胞、細胞から生体機能や生態に関する学問領域において、情報の収集・分析力や研究手法を身につけ、その基礎力をベースに実践的に応用・活用できる。
- (10) 細胞や生体の機能を分子的な面から考える分野において、身につけた知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決し、結論を文章や口頭で論理的に表現し、議論できる。

生物生産学科・国際生物生産学プログラム

国際生物生産学主専攻プログラムでは、他の4つの主専攻プログラム（水圏統合科学、応用動植物科学、食品科学、そして分子農学生命科学）のコア領域（以下、「4つの領域」）から生物生産学の幅広い学問分野の専門的な知識及び技能を主に英語による授業科目で修得させ、さらに思考力と創造力を発揮できる科学者として企業、大学、その他公的機関等で活躍できる人材を養成する。そのため本プログラムでは、以下の能力を身につけ、基準となる単位を修得するとともに規定の到達目標に達し、かつ生物生産学部が定める審査に合格した学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

●教養教育科目を通して

- (1) 自主的・自立的に学修する態度を習慣づけており、情報収集力・分析力・批判力を身につけ、これらを活用できる。
- (2) ものごとの本質と背景を広い視野から洞察する力と国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に対する関心を持つことができる。
- (3) 幅広い知識から、問題を発見し、真に問題解決に役立つ「知識体系」へと統合し、総合的な見地からものごとを俯瞰できる。
- (4) 一般的な科学的基礎知識を持ち、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な知識と技能を理解できる。

●専門教育のうち専門基礎科目を通して

- (5) 生物及び生物圏に関する先端的な話題や基本的な概念を理解できる。
- (6) 生物生産学の価値志向性やグローバル化した社会との関わりを理解でき、科学の応用における対話や合意形成の重要性を理解できる。
- (7) 研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解できる。

●本プログラムの専門科目を通して

- (8) 4つの領域から専門的な知識を体系的及び階層的に理解することができる。
- (9) 4つの領域のいずれかをコアとした学問領域において、情報の収集・分析力や研究方法を身につけ、その基礎力をベースに実践的に応用・活用できる。
- (10) 4つの領域のいずれかをコアとした専門分野において、身につけた知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決し、結論を文章や口頭で論理的に表現し、議論できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/13>

（概要）

生物生産学科・水圏統合科学プログラム

水圏統合科学主専攻プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針に従って教育課程を編成し、実践する。

- (1) 教養教育では、平和を希求し、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指し、さらに実用的外国語運用能力、国際的視野や異文化理解能力、情報活用能力やコミュニケーション能力を養成する。また、教養教育の中に基盤科目を配置し、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な科学的な基礎知識と技能を理解する能力を養成する。
- (2) 専門教育では、まず、学部共通の「専門基礎科目」を通して、生物及び生物圏に関わる専門基礎力を養成する。この中には、海外演習、インターンシップ、フィールド演習、科学技術倫理学も含まれ、国際社会及び地域社会において指導的な活動を行うための想像力と実践性を備えた基礎力、並びに研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解する能力を養成する。
- (3) 本プログラムの専門教育では、水圏生物や水圏環境に関する「専門科目」を通して、これら水圏生物を総体的に理解できる能力、及び当該分野の「演習」や「実験実習」を通じて、実践的に応用・活用できる技能や姿勢を修得する教育を実施する。さらに「卒業論文」により、コミュニケーション・プレゼンテーション・実践的外国語能力も含めた総合的な問題解決能力を身につけた人材を養成する。
- (4) 学修の成果は、各科目の成績評価とともに本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

生物生産学科・応用動植物科学プログラム

応用動植物科学主専攻プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針に従って教育課程を編成し、実践する。

- (1) 教養教育では、平和を希求し、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間

性を涵養することを目指し、さらに実用的外国語運用能力、国際的視野や異文化理解能力、情報活用能力やコミュニケーション能力を養成する。また、教養教育の中に基盤科目を配置し、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な科学的な基礎知識と技能を理解する能力を養成する。

- (2) 専門教育では、まず、学部共通の「専門基礎科目」を通して、生物及び生物圏に関わる専門基礎力を養成する。この中には、海外演習、インターンシップ、フィールド演習、科学技術倫理学も含まれ、国際社会及び地域社会において指導的な活動を行うための想像力と実践性を備えた基礎力、並びに研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解する能力を養成する。
- (3) 本プログラムの専門教育では、動物・植物生産に関わる「専門科目」を通して、動植物生産を体系的に理解することのできる能力及び当該分野の「演習」や「実験」を通じて、実践的に応用・活用できる技能や姿勢を修得する教育を実施する。さらに「卒業論文」により、コミュニケーション・プレゼンテーション・実践的外国語能力も含めた総合的な問題解決能力を身につけた人材を養成する。
- (4) 学修の成果は、各科目の成績評価とともに本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

生物生産学科・食品科学プログラム

食品科学主専攻プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針に従って教育課程を編成し、実践する。

- (1) 教養教育では、平和を希求し、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指し、さらに実用的外国語運用能力、国際的視野や異文化理解能力、情報活用能力やコミュニケーション能力を養成する。また、教養教育の中に基盤科目を配置し、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な科学的な基礎知識と技能を理解する能力を養成する。
- (2) 専門教育では、まず、学部共通の「専門基礎科目」を通して、生物及び生物圏に関わる専門基礎力を養成する。この中には、海外演習、インターンシップ、フィールド演習、科学技術倫理学も含まれ、国際社会及び地域社会において指導的な活動を行うための想像力と実践性を備えた基礎力、並びに研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解する能力を養成する。
- (3) 本プログラムの専門教育では、食料の生産管理と流通、食品素材の機能評価と高度利用、安全で高機能な食品の製造と開発等に関する「専門科目」を通して、食品科学分野の基礎から応用において体系的及び階層的に理解することのできる能力を、また当該分野の「演習」や「実験」を通じて、実践的に応用・活用できる技能や姿勢を修得する教育を実施する。さらに「卒業論文」により、コミュニケーション・プレゼンテーション・実践的外国語能力も含めた総合的な問題解決能力を身につけた人材を養成する。
- (4) 学修の成果は、各科目の成績評価とともに本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

生物生産学科・分子農学生命科学プログラム

分子農学生命科学主専攻プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針に従って教育課程を編成し、これを実施する。

- (1) 教養教育では、平和を希求し、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指し、さらに実用的外国語運用能力、国際的視野や異文化理解能力、情報活用能力やコミュニケーション能力を養成する。また、教養教育の中に基盤科目を配置し、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な科学的な基礎知識と技能を理解する能力を養成する。
- (2) 専門教育では、まず、学部共通の「専門基礎科目」を通して、生物及び生物圏に関わる専門基礎力を養成する。この中には、海外演習、インターンシップ、フィールド演習、科学技術倫理学も含まれ、国際社会及び地域社会において指導的な活動を行うための想像力と実践性を備えた基礎力、並びに研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理

の重要性を理解する能力を養成する。

- (3) 本プログラムの専門教育で提供する「専門科目」は、生体分子・細胞・個体・個体群に関する分子生物学を学ぶ「ベース科目群」，それらを応用展開するための「発展科目群」に区分し，順次性のある体系的教育を行い，生命現象を分子生物学の視点から理解し，それを実学へと発展することのできる能力を養成する。さらに，問題を発見し，解決する方法について，課題解決型教育（PBL）を取り入れた「演習及び実験」により教育し，農学分野で広く応用・活用できる技能や姿勢を修得させる教育を実施する。さらに「卒業論文」により，コミュニケーション・プレゼンテーション・実践的外国語能力も含めた総合的な問題解決能力を身につけた人材を養成する。
- (4) 学修の成果は，各科目の成績評価とともに本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

生物生産学科・国際生物生産学プログラム

国際生物生産学主専攻プログラムでは，プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために，次の方針に従って教育課程を編成し，これを実施する。

- (1) 教養教育では，平和を希求し，幅広く深い教養と総合的な判断力を培い，豊かな人間性を涵養することを目指し，さらに実用的外国語運用能力，国際的視野や異文化理解能力，情報活用能力やコミュニケーション能力を養成する。また，教養教育の中に基盤科目を配置し，生物生産学の専門領域への応用展開に必要な科学的な基礎知識と技能を身につけた人材を養成する。
- (2) 専門教育では，まず，学部共通の「専門基礎科目」を通して，生物及び生物圏に関わる専門基礎力を養成する。この中には，海外演習，インターンシップ，フィールド演習，科学技術倫理学も含まれ，国際社会及び地域社会において指導的な活動を行うための想像力と実践性を備えた基礎力，並びに研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解する能力を養成する。
- (3) 本プログラムの専門教育で提供する「専門科目」は，4つの領域の専門科目から広い専門分野を横断的に学ぶ英語科目群を必修とする。また，「海外協定校で学ぶパッケージ科目」では，海外協定校における英語による講義，実習，課題研究を実施させることで，海外で活躍できる能力を実践的に養成する。さらに，4つの領域の中からいずれかを選択し，それぞれの専門的なコア領域科目の知識を修得する「分野別専門パッケージ科目」を履修し，生命現象を実学へと発展することのできる能力を養成する。問題を発見し，解決する方法について，4つの領域のいずれかをコアとした「Graduate Thesis（英語で書き，発表する卒業論文）」により，コミュニケーション・プレゼンテーション・実践的外国語能力も含めた総合的な問題解決能力を身につけた人材を養成する。
- (4) 学修の成果は，各科目の成績評価とともに本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

※「分野別専門パッケージ科目」とは，4つの領域のいずれかの授業科目群の中から，指導教員の履修指導による履修計画に沿い，「生物生産に関する研究領域における知的能力・技能」が十分に身につく科目群を指し，学生ごとに履修科目は異なる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/13>

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/007> (学部第3年次編入学試験))

(概要)

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

生物生産学部では，環境と調和した持続可能な食料生産や生物資源の有効利用に関する教育・研究を行っています。こうした分野で深い科学的知識と広い視野をもって社会の発展に貢献できる人材の育成を目指しており，次のような学生を求めています。

- ・高等学校での基礎的な学力を幅広く身につけ，特に理科において高い学力を有する人
- ・食料や環境に関して問題意識が高い人
- ・将来，食料や環境に係わる仕事に就いて社会で活躍することを希望する人

2 入学者選抜の基本方針

生物生産学部は生物生産学科を設置しており、学生の多様なニーズに応え、卒業後の幅広い進路に対応するこれらの人を受け入れるため、編成している各主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位（学科）のアドミッション・ポリシー

生物生産学部 生物生産学科

1 求める学生像

本学科が編成している水圏統合科学プログラム、応用動植物科学プログラム、食品科学プログラム、分子農学生命科学プログラム及び国際生物生産学プログラム（Applied Biological Science Program）のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、高等学校卒業程度の国語、数学、英語、社会、情報に関する知識、特に理科において高い学力・知識を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、高等学校卒業程度の読解力、表現力及び論理性を有し、生物圏とそれに関連する問題、特に食料問題や環境問題について持論を展開できる人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については、学校行事や課外活動、あるいはボランティアなどの活動で積極的に活躍した人

なお、第1年次の入学前に特に学習しておくことが期待される内容は、高等学校卒業程度の理科です。

また、第1年次の入学後に知的好奇心に満ち、食料や環境に係わる問題を自ら発見し、その問題の背景を理解して問題解決の道を洞察する学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程、後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型、国際バカロレア型、フェニックス型、外国人留学生型2月実施、3月実施
- ・広島大学光り輝き入試 学校推薦型選抜 II型

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目

区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)
一般選抜	前期日程	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	○ 大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 大学入学共通テスト、面接	○ 面接
広島大学 光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型（セミナー型）	○ 大学入学共通テスト、レポート、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等（※）	○ 大学入学共通テスト、レポート、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等（※）
	総合型選抜Ⅱ型（課題研究評価型）	○ 大学入学共通テスト、課題研究内容の概要、課題研究発表・質疑応答、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等（※）	○ 大学入学共通テスト、課題研究内容の概要、課題研究発表・質疑応答	○ 調査書、自己推薦書、課題研究内容の概要、課題研究発表・質疑応答、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等（※）
	総合型選抜国際バカロレア型	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接	○ 面接	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接
	総合型選抜フェニックス型	○ 面接	○ 面接	○ 面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○ 個別学力検査	
	総合型選抜外国人留学生型 3月実施	○ 日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、面接	○ 面接	○ 面接
	学校推薦型選抜Ⅱ型	○ 大学入学共通テスト、レポート	○ 大学入学共通テスト、レポート、面接	○ 面接

（※）広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

本学科が編成している水圏統合科学プログラム、応用動植物科学プログラム、食品科学プログラム及び分子農学生命科学プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力を身につけてきた学生を求めています。

- (1) 大学での学習のために必要な基礎学力、読解力、表現力及び論理性を有する人
- (2) 生物生産学に関わる問題、特に食料問題や環境問題について高い関心を持ち、かつ持論を展開できる人
- (3) 学校行事や課外活動、あるいはボランティアなどの活動で積極的に活躍した人

また、第3年次の入学後に下記の能力を身につけられる学生を求めています。

- ・食料問題や環境問題について、科学的根拠に基づいた持論の構築とそれを論理的に表現する能力
- ・論理展開に必要とされる参考資料の収集とそれを取りまとめる能力
- ・問題に対する適切な実験を計画し遂行する能力
- ・データ分析及び分析結果を解釈する能力

2 入学者選抜の基本方針

学部第3年次に編入するための専門的知識及び語学力を修得していることを確認し、本学科のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を見るために、総合問題、面接及び外部英語検定試験の成績により評価します。

学部等名 情報科学部
教育研究上の目的（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien ）
（概要） 本学部は、データ分析と情報処理のスペシャリストを養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/dp/15 ）
（概要） 本学部では、今日の高度情報化社会の基盤を支える情報技術と高度なデータ分析能力に裏打ちされた処理技術を基盤能力として備えた上で、計算機科学、データ科学、知能科学それぞれの高度な専門性を獲得したスペシャリストを養成します。さらに、近年のビッグデータの集積、人工知能（AI）におけるブレイクスルー、IoT の発展等に伴って複雑化かつ膨大化した情報を適切に管理し、処理分析できる能力を持った人材を養成します。 本学部では、以下の知識と能力を身につけ、教育課程における所定の単位を修得した学生に「学士（情報科学）」の学位を授与します。
【学科共通のディプロマ・ポリシー】
<ul style="list-style-type: none"> ・情報基盤の開発技術、情報処理技術、データを分析して新しい付加価値を生む技術をバランスよく獲得している。 ・新たな課題を自ら発見し、データに基づいた定量的かつ論理的な思考と、多角的視野と高度な情報処理・分析により、課題を解決する能力を身につけている。 ・英語の読解と論理的な記述、明解な口頭発表を行うためのプレゼンテーション能力、関連な議論を可能とするドキュメンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけている。
<u>情報科学科・計算機科学プログラム</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェアとソフトウェアの知識及びデータを効率的に処理するシステム開発能力を十分に身につけている。 ・多様化、複雑化した情報社会における分野横断的な課題に対して、豊富な最先端情報技術に基づいて、最適なシステムソリューションを導く能力を身につけている。
<u>情報科学科・データ科学プログラム</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・データ科学の幅広い知識と技術を駆使して、統計的証拠に基づいた組織戦略・立案・計画管理を担える能力を身につけている。 ・統計とデータ解析の理論体系を深く理解し、ビッグデータの質的／量的情報を的確かつ効率的に分析する能力を身につけている。
<u>情報科学科・知能科学プログラム</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・人間が持つ高度な知能とその計算機による実現について体系的に深く理解し、人工知能や IoT などの応用や発展に寄与できる情報処理能力やデータ分析能力を身につけている。 ・複合的に絡み合う社会的ニーズや課題を俯瞰的に捉え、知能科学の幅広い知識に基づいた多角的視野と分析能力で課題を解決する能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/cp/15 ）
（概要）
<u>情報科学科・計算機科学プログラム</u>
本学部が掲げる到達目標を実現させるために、次の方針に従って教育課程を教育プログラムとして体系的に編成し、実施します。
1年次には、平和科目、外国語科目などの教養教育科目を履修し、豊かで柔軟な人間性と広く深い見識を身につけることで、国際社会でグローバルに活躍するための基本的素養・

能力を養います。また数学やデータ解析、プログラミング等の基礎科目の履修を通じて、専門教育の基礎となる知識・技術を修得します。

2年次には、プログラミング科目、デジタル回路設計、アルゴリズムとデータ構造などの科目を履修することで計算機科学の基礎となる知識・技術を修得します。また、確率論基礎や情報理論などの基礎科目の履修を通じて情報処理の基盤となる知識と技能を修得します。

3年次には、情報科学演習の履修を通じて、回路や組込みシステム設計などの実務能力を育み、計算機科学に関連したスキルの修得を目指します。さらに、計算理論、計算機ネットワーク、セキュリティ、各種メディア情報処理技術、並列分散処理、デジタル信号処理、ソフトウェア工学I、人工知能概論などの発展的な講義を履修し、高度情報化社会を支える情報系エンジニアとしての能力を修得します。

4年次のセミナーは必修科目とし、研究の進め方や討論、高度なプレゼンテーションの方法について学びます。基礎履修モデルを選択した学生は、情報科学部の各プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマを設定し、卒業論文を完成することで、高度に専門的な問題に対して自ら解決する力を培います。融合履修モデルを選択した学生は、情報科学部と他学部の教員による卒業論文指導を受けることで、様々な領域において情報科学の知識とスキルを活かすことのできる多様性のある能力を涵養することを目指します。実践履修モデルを選択した学生は、卒業論文の代わりに長期フィールドワークを履修し、8か月間企業における研究開発プロジェクトに参加することで、卒業後に企業での即戦力になり得る実務能力を身につけます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

情報科学科・データ科学プログラム

本学部が掲げる到達目標を実現させるために、次の方針に従って教育課程を教育プログラムとして体系的に編成し、実施します。

1年次には、平和科目、外国語科目などの教養教育科目を履修し、豊かで柔軟な人間性と広く深い見識を身につけることで、国際社会でグローバルに活躍するための基本的素養・能力を養います。また数学やデータ解析、プログラミング等の基礎科目の履修を通じて、専門教育の基礎となる知識・技術を修得します。

2年次には、計算機科学プログラム、データ科学プログラム、知能科学プログラムに分かれ、プログラミング科目や基礎的な統計科目・情報工学科目を共通に履修しながら、各プログラムの基盤となる知識と技能を身につけます。

3年次には、従来の統計学を基盤としつつ、近年の人工知能分野での適用を視野に入れ、関連科目であるデータマイニング、サーベイ・デザイン、ノンパラメトリック解析、ビッグデータ、行動計量学、計量経済学、生物・医療統計等を履修することにより、データ分析の基礎となる理論や応用技術を修得します。

4年次のセミナーは必修科目とし、研究の進め方や討論、高度なプレゼンテーションの方法について学びます。基礎履修モデルを選択した学生は、情報科学部の各プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマを設定し、卒業論文を完成することで、高度に専門的な問題に対して自ら解決する力を培います。融合履修モデルを選択した学生は、情報科学部と他学部の教員による卒業論文指導を受けることで、様々な領域において情報科学の知識とスキルを活かすことのできる多様性のある能力を涵養することを目指します。実践履修モデルを選択した学生は、卒業論文の代わりに長期フィールドワークを履修し、8か月間企業における研究開発プロジェクトに参加することで、卒業後に企業での即戦力になり得る実務能力を身につけます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

情報科学科・知能科学プログラム

本学部が掲げる到達目標を実現させるために、次の方針に従って教育課程を教育プログラムとして体系的に編成し、実施します。

1年次には、平和科目、外国語科目などの教養教育科目を履修し、豊かで柔軟な人間性と広く深い見識を身につけることで、国際社会でグローバルに活躍するための基本的素養・能力を養います。また数学やデータ解析、プログラミング等の基礎科目の履修を通じて、専門教育の基礎となる知識・技術を修得します。

2年次には、プログラミング科目や計算機科学・データ科学・知能科学にまたがる基礎的な科目を履修し、知能科学の基盤となる知識と技能を身につけます。

3年次には、実用英語科目を履修し、グローバル化が進む国際社会で活躍できる能力を養います。また情報科学演習科目の履修を通じて、機械学習プログラミング等の設計を行う実務能力と実データに基づいたメディア処理分析等を行う実践的能力を育み、知能科学に関連したスキルの修得を目指します。

さらに、知能科学プログラムでは、人工知能概論、自然言語処理、ビジュアルコンピューティング、ヒューマンコンピュータインタラクション等の発展的な講義を履修し、AI時代に求められる専門的な能力を修得します。

4年次のセミナーは必修科目とし、研究の進め方や討論、高度なプレゼンテーションの方法について学びます。基礎履修モデルを選択した学生は、情報科学部の各プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマを設定し、卒業論文を完成することで、高度に専門的な問題に対して自ら解決する力を培います。融合履修モデルを選択した学生は、情報科学部と他学部の教員による卒業論文指導を受けることで、様々な領域において情報科学の知識とスキルを活かすことのできる多様性のある能力を涵養することを目指します。実践履修モデルを選択した学生は、卒業論文の代わりに長期フィールドワークを履修し、8か月間企業における研究開発プロジェクトに参加することで、卒業後に企業での即戦力になり得る実務能力を身につけます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/15>

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/policy/ap/008> (学部第3年次編入学試験)

(概要)

学部のアドミッション・ポリシー

1 求める学生像

情報科学部では、情報科学の基盤となる計算機科学、データ科学、知能科学の分野において国際通用性の高い基礎学力と応用力を身につけ、ビッグデータや高次元データを含む多様な質的・量的データの処理・解析と課題解決を通して、急速なグローバル化と高度情報化が進む現代社会の発展に貢献できる人材の育成を目指しており、特に次のような学生を求めています。

- ・ 数学の基礎的な知識と理論的思考力を有する人
- ・ 現代社会が抱えるさまざまな課題や社会現象に高い関心を持ち、独創的な発想と斬新なアイデアでソリューションを導き出す意欲がある人
- ・ プログラミングから情報処理、データ解析まで幅広く横断的に学びたい人
- ・ 国際的な視野と外国語によるコミュニケーションに関する基礎能力を持ち、国内外において人類の平和と発展に貢献する意欲を持つ人

- ・人と情報の関わりに関心を持ち、地域産業の振興と国際化に貢献する強い意欲を有する人

2 入学者選抜の基本方針

情報科学部には、卒業後の幅広い進路に対応するために3つのプログラム及び3つの履修モデルを設置しており、各プログラムでは、情報科学科で編成している主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の3要素」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

募集単位（学科）のアドミッション・ポリシー

情報科学部 情報科学科

1 求める学生像

本学科が編成している主専攻プログラムのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような多様な能力をつけてきた学生を求めています。

- (1) 知識・技能については、探求心に満ち、データ科学・情報科学分野において必要とされる知識のある人
- (2) 思考力・判断力・表現力等の能力については、文章読解力を備え、数理・情報分野において必要とされる知識を用いて与えられた課題を分析し解決策を導き出し、理論的に表現する能力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度については、グループワークにおけるチームワーク、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる人

なお、第1年次の入学前は各高等学校が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、大学入学後の勉学に支障をきたさないように履修していることが望まれます。特に、情報科学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学、英語、情報の内容を理解していることが望まれます。

また、第1年次の入学後に、まず数学の理論的基盤を修得し、実際的な問題・課題を分析できる能力を養います。その後、社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すための創造的・論理的思考や、この解決策を物理的に表現する技術開発能力、研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて文章で論理的に記述する能力を養います。最後に、口頭で分かりやすく発表し討論する能力、研究遂行に必要な語学力を身につけます。将来的に、技術者・管理者・研究者・教育者として社会で活躍することを目指す学生を求めています。

2 入学者受入れの基本方針

本学科では、以下の入学者選抜を実施します。

- ・一般選抜 前期日程，後期日程
- ・広島大学光り輝き入試 総合型選抜 II型，国際バカロレア型，外国人留学生型2月実施，3月実施
- ・広島大学光り輝き入試 学校推薦型選抜 I型情報科学部情報科学科（地方創生枠）

各入学者選抜の実施教科・科目・配点及び合否判定の基準は、受験年度の「入学者選抜に関する要項」又は「各学生募集要項」でご確認ください。

3 入学者選抜における重点評価項目						
区分		基礎的・基本的な知識・技能 (知識・技能)	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (思考力・判断力・表現力)	主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 (主体性・協働性)		
一般選抜	前期日程	○	大学入学共通テスト、個別学力検査	○	大学入学共通テスト、個別学力検査	
	後期日程	○	大学入学共通テスト	○	大学入学共通テスト、面接	○ 面接
広島大学 光り輝き入試	総合型選抜Ⅱ型	○	大学入学共通テスト、筆記試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)	○	大学入学共通テスト、筆記試験、面接	○ 調査書、自己推薦書、面接、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等(※)
	総合型選抜国際バカロレア型	○	IB最終試験6科目の成績評価証明書、筆記試験	○	面接、筆記試験	○ IB最終試験6科目の成績評価証明書、志望理由書、面接
	総合型選抜外国人留学生型 2月実施	○	日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等、個別学力検査	○	個別学力検査、面接	○ 面接
	総合型選抜外国人留学生型 3月実施	○	日本留学試験、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等	○	面接	○ 面接
	学校推薦型選抜Ⅰ型 情報科学部情報科学科(地方創生枠)	○	オンデマンド講義の課題レポート、筆記試験、面接	○	オンデマンド講義の課題レポート、筆記試験、面接	○ 調査書、推薦書、志望理由書、推薦要件証明書類、面接

(※) 広島大学光り輝き入試の総合型選抜Ⅱ型について、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等の提出は、任意です。

(学部第3年次編入学試験のアドミッション・ポリシー)

1 求める学生像

情報科学部では、情報科学の基盤となる計算機科学、データ科学、知能科学の分野において国際通用性の高い基礎学力と応用力を身につけ、ビッグデータや高次元データを含む多様な質的・量的データの処理・解析と課題解決を通して、急速なグローバル化と高度情報化が進む現代社会の発展に貢献できる人材の育成を目指しており、特に次のような学生を求めています。

- (1) 数学の基礎的な知識と理論的思考力を有する人
- (2) 現代社会が抱えるさまざまな課題や社会現象に高い関心を持ち、独創的な発想と斬新なアイデアでソリューションを導き出す意欲がある人
- (3) プログラミングから情報処理、データ解析まで幅広く横断的に学びたい人
- (4) 国際的な視野と外国語によるコミュニケーションに関する基礎能力を持ち、人類の平和と発展に貢献する意欲を持つ人

(5) 人と情報の関わりに関心を持ち、地域産業の振興と国際化に貢献する強い意欲を有する人

なお、第3年次の入学前においては、各高等専門学校等が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、編入学後の勉学に支障をきたさないように履修していることが望まれます。特に、情報科学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学に関しては、微分積分学、線形代数学、確率・統計学、英語に関しては、リーディング、ライティング、リスニングの内容を理解していることが望まれます。さらに、十分なプログラミング能力を有することが望まれます。

また、第3年次の入学後に、実際的な問題・課題を分析できる能力を養います。その後、社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すための創造的・論理的思考や、この解決策を物理的に表現する技術開発能力、研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて文章で論理的に記述する能力を養います。最後に、口頭で分かりやすく発表し討論する能力、研究遂行に必要な語学力を身につけます。将来的に、技術者・管理者・研究者・教育者として社会で活躍することを目指す学生を求めています。

2 入学者選抜の基本方針

本学部のカリキュラム・ポリシーに適用可能な能力を測るために、数学とプログラミングに関する筆記試験及び本学部が指定する英語民間試験の成績により、思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、関心・意欲・態度を評価するために、面接試験を課します。これらの試験の結果の総合成績により評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/public_info/education_research_info

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	19人	－					19人
生物生産学部	－	0人	1人	0人	1人	0人	2人
情報科学部	－	0人	0人	0人	1人	0人	1人
教養部（一般教育）	－						0人
大学院	－	441人	379人	36人	328人	人	1184人
附属病院	－	31人	11人	43人	147人	人	232人
附置研究所	－	12人	10人	3人	14人	人	39人
その他	－	65人	78人	4人	72人	人	219人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2人		1238人					1240人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：インターネット http://seeds.office.hiroshima-u.ac.jp/search/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、平成21年4月に人材育成推進室を設置し、「広島大学における体系的なFD活動実施要綱」を策定し、体系的なFD活動を全学的に実施してきた。</p> <p>平成26年4月から「新任教員研修プログラム」を実施し、本学に採用される新任教員に対しては原則として研修の受講を必須化し、本学の教員として働くために知っておくべき基本的知識の獲得やスキル向上に努めている。</p> <p>また、平成31年2月に「教員の能力開発・育成について」（答申）をまとめ、平成31年4月からは人材育成推進室を見直し、学長の下に人材育成推進本部を設置した。人材育成推進本部は、本学教職員の資質・能力の向上を図るための組織的・体系的な人材育成活動を統括し、同本部にFD委員会を、さらにFD委員会の下部組織として教育能力開発、研究能力開発、マネジメント能力開発に係る部会を設置しており、各部会がそれぞれの分野の能力開発に資する研修プログラムの企画・立案を行い、研修会等を実施している。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合科学部	160人	168人	105.0%	640人	717人	112.0%	0人	0人
文学部	130人	131人	100.8%	540人	578人	107.0%	10人	4人
教育学部	425人	439人	103.3%	1,740人	1,835人	105.5%	0人	3人
法学部昼間コ ース	140人	149人	106.4%	580人	615人	106.0%	10人	2人
法学部夜間主 コース	30人	30人	100.0%	140人	138人	98.6%	10人	0人
経済学部昼間 コース	150人	158人	105.3%	610人	652人	106.9%	5人	2人
経済学部夜間 主コース	45人	47人	104.4%	190人	204人	107.4%	5人	2人
理学部	230人	234人	101.7%	940人	1,003人	106.7%	10人	7人
医学部医学科	118人	118人	100.0%	710人	743人	104.6%	0人	0人
医学部保健学 科	120人	122人	101.7%	480人	510人	106.3%	0人	0人
歯学部歯学科	53人	53人	100.0%	318人	315人	99.1%	0人	0人
歯学部口腔健 康科学科	40人	40人	100.0%	160人	156人	97.5%	0人	0人
薬学部薬学科	38人	38人	100.0%	228人	237人	103.9%	0人	0人
薬学部薬科学 科	22人	23人	104.5%	88人	96人	109.1%	0人	0人
工学部	445人	460人	103.4%	1,810人	1,921人	106.1%	15人	14人
生物生産学部	90人	97人	107.8%	380人	404人	106.3%	10人	4人
情報科学部	150人	156人	104.0%	470人	521人	110.9%	5人	2人
合計	2,386人	2,463人	103.2%	10,024人	10,645人	106.2%	80人	40人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
総合科学部	159人 (100%)	39人 (24.5%)	110人 (69.2%)	10人 (6.3%)
文学部	140人 (100%)	26人 (18.6%)	94人 (67.1%)	20人 (14.3%)
教育学部	459人 (100%)	84人 (18.3%)	358人 (78.0%)	17人 (3.7%)
法学部	167人 (100%)	18人 (10.8%)	135人 (80.8%)	14人 (8.4%)
経済学部	189人 (100%)	7人 (3.7%)	166人 (87.8%)	16人 (8.5%)
理学部	221人 (100%)	167人 (75.6%)	45人 (20.4%)	9人 (4.1%)
医学部	225人 (100%)	29人 (12.9%)	192人 (85.3%)	4人 (1.8%)
歯学部	96人 (100%)	24人 (25.0%)	62人 (64.6%)	10人 (10.4%)
薬学部	63人 (100%)	22人 (34.9%)	41人 (65.1%)	0人 (0.0%)
工学部	471人 (100%)	378人 (80.3%)	89人 (18.9%)	4人 (0.8%)
生物生産学部	103人 (100%)	74人 (71.8%)	26人 (25.2%)	3人 (2.9%)
情報科学部	86人 (100%)	47人 (54.7%)	35人 (40.7%)	4人 (4.7%)
合計	2,379人 (100%)	915人 (38.5%)	1,353人 (56.9%)	111人 (4.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【進学先】広島大学 【就職先】広島県, 広島大学病院, 東広島市, 福岡市, (株)広島銀行, (株)福岡銀行, マツダ(株), 総合メディカル(株), 西日本電信電話(株), 国税庁広島国税局, 国土交通省中国地方整備局 等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
総合科学部	174人 (100%)	146人 (83.9%)	23人 (13.2%)	3人 (1.7%)	2人 (1.1%)
文学部	137人 (100%)	113人 (82.5%)	19人 (13.9%)	5人 (3.6%)	0人 (0.0%)
教育学部	460人 (100%)	428人 (93.0%)	27人 (5.9%)	3人 (0.7%)	2人 (0.4%)
法学部昼間コース	144人 (100%)	125人 (86.8%)	17人 (11.8%)	2人 (1.4%)	0人 (0.0%)
法学部夜間主コース	31人 (100%)	22人 (71.0%)	7人 (22.6%)	2人 (6.5%)	0人 (0.0%)
経済学部昼間コース	157人 (100%)	136人 (86.6%)	20人 (12.7%)	1人 (0.6%)	0人 (0.0%)
経済学部夜間主コース	44人 (100%)	27人 (61.4%)	9人 (20.5%)	7人 (15.9%)	1人 (2.3%)
理学部	236人 (100%)	185人 (78.4%)	36人 (15.3%)	15人 (6.4%)	0人 (0.0%)
医学部医学科	120人 (100%)	100人 (83.3%)	19人 (15.8%)	1人 (0.8%)	0人 (0.0%)
医学部保健学科	120人 (100%)	107人 (89.2%)	10人 (8.3%)	3人 (2.5%)	0人 (0.0%)
歯学部歯学科	53人 (100%)	46人 (86.8%)	7人 (13.2%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
歯学部口腔健康科学科	41人 (100%)	39人 (95.1%)	2人 (4.9%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
薬学部薬学科	41人 (100%)	37人 (90.2%)	2人 (4.9%)	2人 (4.9%)	0人 (0.0%)
薬学部薬科学科	25人 (100%)	21人 (84.0%)	4人 (16.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
工学部	454人 (100%)	397人 (87.4%)	48人 (10.6%)	9人 (2.0%)	0人 (0.0%)
生物生産学部	95人 (100%)	85人 (89.5%)	6人 (6.3%)	4人 (4.2%)	0人 (0.0%)
情報科学部	89人 (100%)	65人 (73.0%)	19人 (21.3%)	5人 (5.6%)	0人 (0.0%)
合計	2,421人 (100%)	2,079人 (85.9%)	275人 (11.4%)	62人 (2.6%)	5人 (0.2%)

(備考)

(転学部・転学科の人数)

総合科学部 1人転入／文学部 1人転入／法学部法学科夜間主コース 1人転出／経済学部経済学科夜間主コース 1人転出／理学部 1人転入／工学部 2人転出／情報科学部 1人転入

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

毎年度の授業科目について、日本語版・英語版2種類の授業計画(シラバス)を作成し、ホームページ上で公開している。

シラバスは、翌年度の時間割完成後の毎年1月末頃から学生情報システム「もみじ」に授業担当教員が直接入力し、4月1日から学生による閲覧を可能としている。

シラバスの作成にあたっては、次の項目を必須項目としており、本学の学生が授業科目を選択する際の重要な情報となっている。

【必須項目】

「授業の方法」「使用言語」「学修の段階」「学問分野(分野)」「学問分野(分科)」「授業の目標・概要等」「授業計画」「教科書・参考書等」「予習・復習へのアドバイス」「成績評価の基準等」

また、実務経験のある教員による授業科目については、どのような実務経験のある教員がどのような教育を行うかをシラバスに記載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>・成績評価の方法については、定期試験、小テスト、レポート、授業中の活動、学習記録等の多様な要素の中から、授業の方法や目的に応じた評価方法を選択し、できる限り複数の要素を用いて行うものと定めている。なお、授業への出席回数については、学生が全授業に出席することは前提であるため、期末試験等の受験要件としてのみ用いることとし、成績評価の要素としないこととしている。また、授業科目毎に作成するシラバスでは「成績評価の基準等」を必須項目としており、学生には事前に明示し、実施している。授業科目毎の評価基準に基づき、「秀、優、良、可及び不可」の5段階評価または0～100点の点数評価としており、このうち「秀、優、良、可」または60点以上のものについて単位を付与している。</p> <p>・本学の理念5原則に基づき、全学版の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めるとともに、各学部においても学部別のディプロマ・ポリシーを別途定め、ホームページ上で公表している。各学部では、ディプロマ・ポリシーに則り予め定めた卒業要件単位を取得した学生に対して、卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
総合科学部	総合科学科	128 単位	有・無	1 学期 26 単位
	国際共創学科	128 単位	有・無	1 学期 26 単位
文学部	人文学科	124 単位	有・無	1 学期 24 単位
教育学部	第一類（学校教育系） 初等教育教員養成コース ・初等教育教員養成プログラム	128 単位	有・無	1 学期 30 単位
	第一類（学校教育系） 特別支援教育教員養成コース ・特別支援教育教員養成プログラム	132 単位		
	第二類（科学文化教育系）	128 単位	有・無	1 学期 30 単位
	第三類（言語文化教育系）	128 単位	有・無	1 学期 30 単位
	第四類（生涯活動教育系）	128 単位	有・無	1 学期 30 単位
	第五類（人間形成基礎系）	128 単位	有・無	1 学期 30 単位

法学部	法学科	124 単位	有・無	1 学期 24 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	1 年間 44 単位
理学部	数学科	128 単位	有・無	各年次 56 単位
	物理学科	128 単位	有・無	各年次 56 単位
	化学科	128 単位	有・無	各年次 56 単位
	生物科学科	128 単位	有・無	各年次 56 単位
	地球惑星システム 学科	128 単位	有・無	各年次 56 単位
医学部	医学科	247 単位	有・無	1 年次 46 単位
	保健学科 看護学専攻 ・看護学プログラム	134 単位	有・無	1 年次 46 単位
	保健学科 理学療法専攻 ・理学療法プログラム	145 単位		
	保健学科 作業療法専攻 ・作業療法プログラム	146 単位		
歯学部	歯学科	271 単位	有・無	1 年次 46 単位
	口腔健康科学科 口腔保健学専攻 ・口腔保健学プログラム	141 単位	有・無	1 年次 46 単位
	口腔健康科学科 口腔工学専攻 ・口腔工学プログラム	151 単位		
薬学部	薬学科	190 単位	有・無	1 年次 44 単位
	薬科学科	130 単位	有・無	1 年次 44 単位

工学部	第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）	124 単位	有・無	1 学期 30 単位
	第二類（電気電子・システム情報系）	125 単位	有・無	1 学期 30 単位
	第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）	126 単位	有・無	1 学期 30 単位
	第四類（建設・環境系） ・社会基盤環境工学プログラム	125 単位	有・無	1 学期 30 単位
	第四類（建設・環境系） ・建築プログラム	126 単位		
生物生産学部	生物生産学科	124 単位	有・無	各年次 56 単位
情報科学部	情報科学科	125 単位	有・無	1 学期 30 単位
GPA の活用状況（任意記載事項）		公表方法：インターネット https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/syugaku_shien		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：インターネット ・学生表彰 https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/awards/gakusei ・副学長（学生支援担当）表彰 https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/awards/hukugakucho ・学生による授業評価（授業改善アンケート） ・卒業・修了予定者によるフィードバック調査 https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/HU_self_evaluation/self_evaluation ・学生生活実態調査 https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/life/life-investigate.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：インターネット
https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/public_info/education_research_info

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
学部	昼間	535,800 円	282,000 円	円	
	夜間	267,900 円	141,000 円	円	
大学院	研究科	535,800 円	282,000 円	円	
	法科大学 院	804,000 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では、学生の修学に係る支援に関して、以下のような取組を実施している。</p> <p>○教育学習支援センター 学生の主体的な学びを促進するとともに、学生自身が学修の成果を実感できるよう、意義ある学習経験を生み出す大学環境づくりを支援する。同センターに「教育・学習に関する相談窓口」を設置し、日ごろの学修で困っていることや教養教育の各科目（英語・物理・化学・数学）に関する学修の方法や履修上の疑問点などについて相談を受け付けている。相談には、センターの学生スタッフ（大学院生）が対応する。</p> <p>○ピアサポートルーム 学生による学生のための何でも相談室として、訓練を受けた学生（ピアサポーター）が同じ学生という立場から人間関係など相談を受け解決できるよう支援を行う。</p> <p>○学生のためのなんでも相談 なんでも相談窓口として相談員を配置し、修学・学生生活・宗教勧誘などどこにどう相談したらよいかなども含めて相談を受け解決の糸口を見つけるための支援を行う。</p> <p>○ハラスメント相談室 相談員を配置し、ハラスメント問題の解決、被害の防止、回避の方法を来談者と共に考え、決定し、サポートしていく。</p> <p>○アクセシビリティセンター 障害のある学生の支援、アクセシビリティに関する相談窓口として身体等に障害があり、修学上の不便または困難を感じている、授業や試験に不安を感じている様々な事象への支援を行う。</p> <p>○奨学金制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構（国の育英奨学事業）の「有利子・無利子貸与」及び「給付」の奨学金を人物・学業ともに優秀で、修学困難な学生へ支援する。 ・高等教育の修学支援新制度（入学料・授業料の減免及び給付奨学金）予約採用の採用候補者で入学料及び前期分授業料の一部負担が必要な学生、本制度による支援を希望して入学後定められた期限までに申請する学生は、入学金及び前期分授業料の徴収を8月中旬ころまで猶予している。 ・各種育英事業団体による奨学事業を学生へ情報提供し、人物・学業ともに優秀で、修学困難な学生を推薦する。 ・本学として、人物・学業ともに優秀でありながら経済的に困窮している学生を3つの奨

学制度によりサポートする。

フェニックス奨学制度（新入生から）：入学料・授業料免除及び奨学金を給付

光り輝く奨学生度（在学3年生から）：授業料免除及び奨学金を給付

未来応援 HIZUKI 奨学制度（社会的養護を必要とする新入生から）：奨学金を給付

- ・本学の外国人留学生への支援として、2つの奨学制度によりサポートする。

外国人留学生支援基金奨学金：広島大学消費生活協同組合のミールカードを1年分配付

入学前奨学制度：渡日前に選考し、1年間の奨学金及び授業料免除

- ・在留資格「留学」である学生への民間奨学金として、奨学事業を学生へ情報提供し、人物・学業ともに優秀で、修学困難な学生を推薦する。

○エクセレントスチューデントスカラシップ

各研究科が推薦する成績優秀学生に対して、その年度の後期分の授業料を全額免除し、表彰状と記念品の贈呈を行う。

○授業料免除制度，入学料免除・入学料徴収猶予制度

一定の学力基準を満たしている学生で、家庭の経済状況等により困窮度の高い者から順に全額免除・半額免除又は徴収猶予を行う。

○学生宿舎

- ・池の上学生宿舎：家庭の経済状況等が困窮している、学資負担者の死亡や災害を受けた学生等に対して、原則2年間、低廉な金額で利用できる宿舎を貸与する。
- ・国際交流会館：留学生及び外国人研究者に居住空間を提供する。
- ・民間アパート：留学生用宿舎の確保として生協等と連携し低廉な居住先を提供する。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

本学では、進路選択に係る支援に関して、グローバルキャリアデザインセンターを設置し、留学生を含めた学部生から博士課程後期の大学院生、若手研究者に至るまでのキャリア支援窓口として、以下のような取組を実施し、全ての学生および若手研究者に対する支援を行っている。

【学部1年次生から活用できる進路・職業選択支援プログラム】

- ・学部1年生の必修科目「大学教育入門」において、「大学での学びと社会へのトランジション」と題した講義を実施。
- ・入学後、早い段階から自らのキャリアについて考える契機とするため、学部1年生全員が学外の企業・団体等での社会体験、就業体験、ボランティア等を行う「初年次インターンシップ（社会体験）」を実施。また、県内外の企業・団体等で働く社会人を招きご講演いただく授業科目を開講。
- ・学生のインターンシップ参加促進のため、インターンシップガイダンスや事前・事後指導を実施。

【卒業(修了)の前年次生からの就活支援プログラム】

- ・就職活動に必要な基本的知識やマナー、業界・企業等を学ぶ就職ガイダンス、セミナーを実施。
- ・関東・関西に就職した多くの卒業生にご協力いただき、在学生向けに、オンラインで「卒業生セミナー」を実施。
- ・就職活動のノウハウを記載した就活ハンドブックの配布。
- ・進路・職業選択や就職活動、エントリーシート添削や面接指導などの個別相談を実施。
- ・学生情報ポータルサイト及びクラウドシステムを利用した就職活動関連情報（求人情報等）の発信。
- ・東京での就職活動を行う学生に対し、東京オフィスにおいてパソコンやコピー機の利用、休憩場所の提供等の支援を実施。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

本学では、学生の心身の健康等に係る支援をする専門組織として、保健管理センターを設置し、学生の身体的・精神的健康管理に関する専門的業務を行っている。本センターでは、メディカル部門・メンタルヘルス部門・カウンセリング部門で構成され、心身の両面から、全人的健康管理を目指している。

メディカル部門では、内科医、保健師、看護師、診療放射線技師が、健康診断、証明書発行、診療、感染症対策、アルコールパッチテスト、面接などを行っている。

メンタルヘルス部門では、精神科医により、メンタルヘルス全般の相談、うつ病、摂食障害等診療、自殺企図者への緊急対応、各種事例での精神科的な対応、ケア、フォローを行う。

カウンセリング部門では、臨床心理士が修学や学生生活に関連して生じる様々な問題に対する心理相談を行なっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：インターネット

https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/public_info/education_research_info

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組みについて

○ 入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学びについて（教養教育科目）

1. 領域科目

1) 授業の目標

人間が蓄積してきた知識がどのようにして生まれ、育ってきたのか、その根本の考え方は何であるのかについて、文化的・社会的・自然科学的な視点を踏まえながら、専門分野の枠を超えて共通に求められる知的な技法を学ぶことを目標にしています。

2) 授業の内容

文明の継承と知的創造のために必要な基礎的知識を伝え、さまざまな学問領域についての知的関心を喚起する科目です。それぞれの学問分野に基づいて、人文社会科学系科目群と自然科学系科目群の2つの科目群で構成されています。さらに、各科目群には、以下のとおり分類を設けています。

人文社会科学系科目群 (4単位必修)	「哲学・倫理学・宗教学・芸術学」「人類学・地理学・歴史学」 「文学・言語学」「法学・政治学・社会学・経済学・教育学」 「心理学」
自然科学系科目群 (4単位必修)	「法学・政治学・社会学・経済学・教育学」「数学・情報学」 「自然環境・社会基盤」「物理・天文・応用物理」「化学」 「生物」「健康科学・医学情報」

3) 主な特徴

- 全学生共通して、少なくとも、人文社会科学系科目群4単位及び自然科学系科目群4単位の計8単位を修得する必要がある（学生に対しては、より幅広い教養を身につけるため、できるだけ異なる分類の科目を履修することを要望する）
- 学部によって必修科目、選択必修科目または履修することが望ましい科目が異なる
- 要修得単位数を超えて修得した領域科目のうち、使用言語が「英語」の授業科目の単位を外国語科目（英語）の単位数に算入できる場合がある

2. 展開ゼミ

1) 授業の目標

最先端のテーマについて学び討論したり、体験型の学習を行うことを通じて問題発見・解決能力を涵養するとともに、チャレンジ精神、プレゼンテーション力、リーダーシップ力などの向上を図ることを目標にしています。

2) 授業の内容

「教養ゼミ」(※)での学びを土台とし、社会における新たな価値創出や課題解決のための「総合知」を実践的に活用する場を提供します。テーマ別にゼミ形式の授業を開講し、学部・学年の枠を超えた少人数（原則として10名以内）のクラスにおいて、最先端のテーマについて学び討論したり、体験型の学習を行います。

(※)教養ゼミ:入学直後から、学生相互や教員とのコミュニケーションを図りながら、ディスカッションやグループ学習など、各主専攻プログラムに応じた問題発見・解決型の授業を行う科目。

○ 全学的なデータサイエンス教育について

1. 情報・データサイエンス・AIパッケージ（教養教育科目）

政府の「AI戦略2019」（令和元年6月11日統合イノベーション戦略推進会議決定）では、文理を問わず全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が正規課程にてリテラシーレベルの数理・データサイエンス・AIを修得することを目標としています。本学でもこの動きを進めるため、社会で期待されている数理・データサイエンス・AIの初級（リテラシー）レベルを習得するための枠組みとして、必修科目を中心に「情報・データサイエンス・AIパッケージ」を策定しました。

教養教育科目における「情報・データ科学入門」2単位をコア科目として、「大学教育入門」（大学教育基礎科目）2単位及び情報・データサイエンス科目を中心とした選択必修2単位の合計3科目6単位を修得することが修了要件となっております。本学の学生（令和3年度以降入学生）は、上記科目の単位を修得することで、このパッケージを修了、すなわち「リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AIを習得した」ことになるよう、カリキュラムを構成しています。

本パッケージは、令和3年8月4日付けで文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けています。（認定の有効期限：令和8年3月31日まで）

(参考) 情報・データサイエンス・AIパッケージ

https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/manabu/kyouyou/data_science

2. AI・データサイエンス応用基礎特定プログラム（専門教育科目）

ICT（情報通信技術）の発展に伴いIoTやAIが様々な場面で活用されてきています。これらの技術を活用し、社会に出て直面するであろう様々な課題を解決するために必要とされる、AI・データサイエンスの基礎知識と実践力を身につけることを目的とします。これらの知識・応用力は理系・文系を問わず必要とされるものであり、文系の学生にも理解できるような内容としています。

教養教育の選択必修科目、AI・データイノベーション教育研究センター開講の必修科目を履修することで基礎的な知識を身につけ、その上で各学部指定の専門科目の授業の中でデータ分析を行うことで、受講者の専門分野の特性に合わせた実践力を身につけることができます。

「数学基礎」「ゼロからはじめるプログラミング」から1科目1単位以上、「データサイエンス基礎」「データエンジニアリング基礎」「AI基礎」の3科目4単位を修得した上で、所属学部・学科等が指定する専門教育科目を2単位以上修得することが修了要件です。

本プログラムは、令和4年8月24日付けで文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の認定を受けています。（認定の有効期限：令和9年3月31日まで）

また、本プログラムは学部生の希望者が登録します。本学の教育プログラムについては、「複数専攻の学修を促進する取り組みについて（専門教育科目）」にて後述します。

（参考）AI・データサイエンス応用基礎特定プログラム

https://www.hiroshima-u.ac.jp/prog/program/tokutei/ai_data_science

○ 複数専攻の学修を促進する取り組みについて（専門教育科目）

広島大学では、平成18年度から「教育の質の向上」と「卒業生の質の確保」を目指して「HiPROSPECTS(R)（到達目標型教育プログラム）」を導入しました。「HiPROSPECTS(R)」は、81の主専攻プログラム、46の副専攻プログラム、16の特定プログラムの3つのプログラムから構成されています（プログラム数は令和6年5月1日現在）。原則として、副専攻プログラム及び特定プログラムの登録受付は、主に1年次生を対象に毎年1月上旬～2月上旬の期間に行っており、次年度の4月からプログラムの提供科目の履修を開始することとなります。

学士号取得を目的に提供されている主専攻プログラムに加えて、他の主専攻プログラムの概要を学習する副専攻プログラムや特定のテーマの学習又は資格取得を目指す特定プログラムを学生に提供することで、学生の多様な学習意欲に対応しています。

○ 入学者選抜について

本学の学部入学者選抜に関しては、各学部・学科等のアドミッション・ポリシーにおいて求める人物像と合致した学生を獲得できるよう、入試科目に限らず、受験者の「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を十分に評価できるよう試験の出題内容や選抜方法等についても継続的に見直しを行っています。特に、総合的に評価・選抜する方式（総合型選抜及び学校推薦型選抜）の全募集人員（令和6年度入学者選抜）は、一般選抜の定員2,009名に対し、377名に上っており、今後も改善と拡充を図っていきます。

また、多様な背景を持った学生を獲得できるよう、総合型選抜においては、国際バカロレア生、留学生、社会人や中高年者等を対象にした入試も実施しており、選抜区分や選抜方法についても多様化を進めています。

さらに、これからの社会において文理を問わず全ての学生が身につけるべき教養として、「数理・データサイエンス・AI教育」が普及しつつある中で、本学は大学としてDX化の推進に取り組んでおり、情報に関する知識は大学教育において基礎的な能力と位置付けています。そのため、令和7年度一般選抜（前期日程）から全募集単位で、大学入学共通テストの受験科目として文理融合型の科目である「情報」を課すこととしています。

これに加えて、情報科学部では令和5年度に入学定員を80名から150名に拡充し、令和7年度は180名へさらに拡充することを予定しています。また、同学部の入学者選抜においては、一般選抜（前期日程）での文系型と理系型の選抜方法の併用や、学校推薦型選抜情報科学部情報科学科（地方創生枠）による学力や意欲の面で適切と思われる人物を評価した選抜などを通して、総合知を担う学生を確保しています。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F134110109780
学校名 (〇〇大学 等)	広島大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人広島大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		777人	775人	830人
内訳	第Ⅰ区分	434人	441人	
	第Ⅱ区分	207人	200人	
	第Ⅲ区分	136人	134人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				11人
合計 (年間)				841人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	一人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	一人	人	人
計	11人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	一人	人	人
GPA等が下位4分の1	28人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	28人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。